

平成27年度公益財団法人よこはまユース事業報告

I 事業概要

平成27年度は「子ども・子育て関連3法」が施行され、当法人の中期的な経営方針（5か年計画）に基づく事業展開の3年度目であるとともに、青少年施設の指定管理者選定の年でした。

本年度も、横浜市の青少年施策推進のパートナーとして、経営方針に掲げた2つの重点方針、並びに8つの基本方針に位置づけた事業の相乗効果による中間支援組織の機能（人材育成、ネットワーク推進、情報提供等）を発揮することができました。また、青少年施設指定管理者の再選定や放課後キッズクラブ運営か所数拡充等、法人基盤の充実を目指しました。

1 重点方針と主な事業

(1) 地域と取組む青少年育成

地域の大人への青少年問題等の啓発講座や研修により、青少年理解や育成力の向上並びに放課後の居場所づくりの推進に取り組みました。

【主な事業】

- ◆知っておきたい！子ども・若者どこでも講座（事業課 P16）
- ◆青少年の居場所づくり講座他、育成センターの講座・研修（P36～P41）
- ◆青少年支援事業「学習マイプラン（学習支援）」（交流センター P46）

(2) 健全育成の方法や資源を活用した青少年の潜在的リスク解消・軽減及び自立支援

「貧困の連鎖防止」を図るための日常生活訓練や学習支援、地域活動や資源を活用した困難を抱える青少年のための体験事業の実施並びにプログラムの開発、青年の孤立化や悩みの軽減・解消を図るため、社会に出て間もない勤労青年の仲間づくりの機会を提供しました。

【主な事業】

- ◆寄り添い型支援事業「かもん未来塾」（事業課 P18）
- ◆困難を抱える青少年のための集団体験活動の実施（事業課 P20）
- ◆困難を抱える青少年のための体験活動の支援（研修センター P53～P54）
- ◆困難を抱える青少年を支援機関につなげる研修「ユースコーディネーター養成研修」（育成センター P38）
- ◆体験交流事業「社会人仲間作り事業」（交流センター P48）

2 基本方針と主な事業

(1) 青少年を見守る地域づくりと人材育成

青少年と顔の見える関係を持てる地域人材の育成とともに、地域の大人に見守られながら健やかに成長できる地域の青少年育成環境の整備に取り組みました。

【主な事業】

- ◆地域の青少年の居場所の活動推進・支援（事業課 P16）
- ◆地域活動支援事業（相談、助言、活動プランニング）（事業課 P17）

(2) 体験機会の提供

青少年に自然やボランティア活動など様々な体験活動の機会を提供することで、青少年の成長を図ることを地域や関係団体、施設等との連携により推進しました。

【主な事業】

- ◆自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供（事業課 P18～P19）
- ◆活動成果交流事業（交流センター P46）
- ◆ボランティアの養成（研修センター P55）

(3) 青少年の居場所の支援（青少年育成センター、青少年交流センター等）

横浜市青少年育成センターでは、地域で青少年育成に励む人材の育成を行い、青少年が見守られ育まれる地域づくりを推進しました。また、横浜市青少年交流センターでは、青少年の成長と自立を支えることを目的に、ロビーワークや青少年委員会などの事業を推進しました。

※横浜市青少年交流センターの代替事業については、「(6) 居場所、交流機能の新たな展開」を参照

【横浜市青少年育成センター重点目標】(P33～P41)

地域の大人に見守られながら健やかに成長できる地域づくりを目標に、地域で青少年育成に励む地域人材の育成・支援を図る拠点（センター）として、「研修・講座事業」や「青少年育成活動に関する情報の収集・提供」などを実施しました。

①利用促進事業

稼働率 70%以上を目標に、会議室や研修室、スタジオなどの利用促進を図りました。

- 「きずな★夏祭り」の企画・実施（横浜市市民局との共催）
- 新規利用者の開拓／団体連携事業の実施
- 馬車道通信の発行

②研修・講座事業

「ユースコーディネーター養成研修」をはじめとして各研修講座事業のステップアップ、スキルアップ講座事業を行うことで、人材育成機能をさらに強化しました。

- 「青少年人材養成研修（青少年の居場所づくり講座）」の企画・実施
- 「ユースコーディネーター養成研修」の企画・実施
- スキルアップ講座（「コーチング講座」など）
- 「よこはまユースシンポジウム」の企画・実施
- 「馬車道カレッジ」の企画・実施

③青少年育成活動に関する情報の収集・提供

ホームページや相談事業などを通じて、地域の青少年育成活動を支援しました。また、研修終了後の参加者の活動現場を訪問したり、参加者を対象とした学習会により研修や情報交換等のフォローを行いました。

- 情報やノウハウの蓄積と発信

地域の青少年育成活動や居場所などに関する情報の収集・蓄積・発信／出張相談による相談対応と情報提供／情報提供・相談機能の周知・広報活動（ホームページ等）

- 青少年育成に関わる団体とのネットワーク形成

青少年育成団体やNPOを対象とした研修事業の実施並びに情報交換

④横浜市青少年交流センターとの機能連携

交流センターの居場所機能を活用した事業連携を図りました。

- ▶ 「青少年の居場所づくり講座」での企画連携
- ▶ ネットワーク推進
- ▶ 相談事業での連携

【横浜市青少年交流センター重点目標】(P42~P48)

来館する青少年との関係性を築くことで成長と自立を支えることを目的に、青少年の活動を支援しました。また、青少年の居場所づくりの中心的施設として、他の施設や団体とのネットワークを通じて、「居場所づくり」を支援しました。

①利用促進と利便性の向上

稼働率70%以上を目標に、広報活動を強化するとともに、利用者のニーズに柔軟に対応できるサービスの提供を行い、利用促進に努めました。

- ▶ 新規顧客獲得に向けたダイレクト・メールによる広報活動の実施
- ▶ 新規事業参加者拡大に向けた年間事業スケジュールのホームページ公開
- ▶ Eメールによるキャンセル情報の配信および利用手続きの利便性向上
- ▶ 利用に関する相談への助言・コーディネートの実施
- ▶ 利用者アンケートによるニーズの把握と活用

②青少年の居場所の推進

「居場所づくり」の充実を目指し、横浜市内の「居場所づくり」に取り組む施設・団体とのネットワークを通じて、情報・課題を共有する機会を提供しました。

- ▶ 早期支援に効果を発揮する「ロビーワーク」の成果の活用
- ▶ 「青少年の居場所・地域活動拠点連絡会」の運営

③青少年の潜在的リスクの削減

青少年の潜在的な課題や悩みを引き出し、学習や体験活動及び交流を通じてリスク軽減に向けた早期支援を行いました。

- ▶ 学習マイプラン
- ▶ 社会人仲間づくり事業
- ▶ 青少年の表現活動場づくり事業

(4) 研修センター体験プログラム開発、柔軟な施設利用予約や利用者サービス向上

横浜市野島青少年研修センターでは青少年が集団宿泊体験や自然体験など様々な体験を通じて成長できるよう、体験プログラムの開発に取り組みました。また、食事提供サービスや大学・企業の利用促進など利用者のニーズに柔軟に対応した運営を行うことで、施設利用者の拡大を図りました。

併せて、防災安全対策を強化し、その対策を利用者に明確に示すことで、施設の安心・安全を発信しました。

【横浜市野島青少年研修センター重点目標】(P49～P56)

①利用促進と利便性の向上

稼働率70%以上を目標に、利用者や団体の特性に配慮しながら、柔軟な施設貸出やサービスの向上、広報戦略による施設の利用促進に取組みました。

- ▶ 平日や閑散期利用の増進に向けた大学や企業利用の誘致活動
- ▶ 食事提供サービスの試行と検証
- ▶ 小学校体験学習などの利用促進に向けた防災対策の強化と発信

②地域資源を活用した体験活動の充実

青少年の体験活動を推進するため、地域資源を活かした研修プログラムを提供しました。併せて、体験活動資源や人材などの地域ネットワークづくりを行いました。

- ▶ 生き物観察などの自然体験プログラムの提供
- ▶ 体験プログラム集、教材の作成

(5) 放課後キッズクラブ事業等 放課後事業への取組み

「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた安全で快適な放課後の居場所づくりを推進しました。

【主な事業】

- ◆はまっ子・キッズ交流事業（放課後事業課 P26）
- ◆放課後キッズクラブ移行支援事業（放課後事業課 P26）
- ◆放課後事業連携モデル事業（放課後事業課 P27～P28）
- ◆放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実（放課後事業課 P28～P29）
- ◆放課後3事業ボランティア研修（放課後事業課 P29）
- ◆放課後キッズクラブ運営と運営か所数拡充（放課後事業課 P30～P32）

(6) 居場所、交流機能の新たな展開

横浜市青少年交流センターの建物は平成27年度末で使用できなくなり、センターは閉館になりました。青少年交流センターの機能は、青少年にとって必要な機能であり、その代替事業「青少年の交流・活動支援スペース」の運営団体に選ばれ、平成28年度以降も引き続き機能を発揮できるよう、新たな事業への円滑な移行と利用促進を図りました。

(7) 組織・経営基盤強化（人材育成、寄附金の拡充、企業との連携 等）

人材育成や寄附金の募集、企業との連携を進めることで、組織や経営基盤の強化を図りました。

【主な事業】

- ◆第55回 爆笑！濱っ子寄席【収益事業】（総務課 P22）
- ◆賛助会員及び一般寄附者の拡充（総務課 P23）
- ◆平成28年 新春のつどい（総務課 P23）
- ◆法人職員の人材育成（総務課 P24）

(8) 情報発信、広報・宣伝力を強化

「よこはまユースレター」やホームページ等を通じて事業報告・成果を速やかに周知・広報することで、多くの市民や青少年に当法人の存在をアピールし、青少年育成活動への関心と参加を喚起しました。

また、本部、各施設事業について、広報・宣伝力を強化しました。

【主な事業】

- ◆法人の広報・PR（総務課 P22）

3 事業の柱と公益目的事業区分

※当法人の定款に定める事業の柱と公益目的事業区分は次の通りです。

【事業の柱】

- A：青少年活動を支援する事業
- B：青少年を支える人材を育成する事業
- C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業
- D：その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

【公益目的事業区分】

- あ：施設の貸与
- い：講座、セミナー、育成
- う：体験活動等
- え：相談、助言
- お：調査、資料収集

A：青少年活動を支援する事業

あ：施設の貸与

この事業は、青少年育成活動を展開するための安全で効果的な場を提供することで、青少年の育成に寄与することを目的としています。

指導者・育成者による打合せ準備、実際の活動の場として施設を提供しました。また、学校や普段の生活では得にくい、青少年が主体的に関われる体験活動や集団宿泊体験等の場として利用しやすくなるよう、活動相談や情報提供による支援を行いました。

なお、施設の特徴や利用案内に関しては、施設パンフレットやホームページに情報を掲載し幅広く周知しました。

【主な事業・取組】

- 青少年の指導者・育成者の活動拠点 横浜市青少年育成センターの諸室及び物品貸出（P34）
- 青少年の主体的な活動拠点 横浜市青少年交流センターの諸室及び物品貸出（P43）
- 青少年の集団宿泊体験活動拠点 横浜市野島青少研修センターの施設・設備貸出事業（P50）

え：相談、助言

この事業は、青少年と大人が共に育つ環境を醸成することで、青少年の育成に寄与することを目的としています。

青少年が事業に関わることにより、自らが学び育つ機会を幅広く提供するために、青少年に対する相談、助言、情報提供、コーディネート、研修講師の派遣・紹介、研修や地域活動のプランニング等、多様な支援を行いました。

【主な事業・取組】

- 知っておきたい！子ども・若者どこでも講座（P16）
- 地域の青少年の居場所の活動推進・支援（P16）
- 地域活動支援事業（相談、助言、活動プランニング等）（P17）
- 育成センター、交流センターでの日常的な相談、助言、ホームページ等を使った情報提供（P35、P44）
- 青少年育成ネットワーク形成（はまっ子・キッズ交流事業 P26、青少年の居場所・地域活動拠点連絡会 P44 他）

お：調査、資料収集

この事業は、青少年活動に活用できる資源の調査や事業効果を検証し、青少年活動プログラム開発のための基礎資料としての活用や団体及び教育機関に提供することで、青少年の育成に寄与することを目的としています。

横浜市内で行われているNPOや企業のCSR（社会貢献）活動等と青少年育成活動や学校の体験学習等が連携することで、青少年が自ら学び育つことができる活動領域の拡大や活動機会を充実するため、市内の活動の調査、新規事業の開発を行いました。

【主な事業・取組】

- 活動資源の調査（P17）
- 体験プログラムの調査研究（P51）
- YOKOHAMA EYE'S 発行（P17）

B：青少年を支える人材を育成する事業

い：講座、セミナー、育成

この事業は、青少年を支える人材や活動の核となる青少年を養成することで、青少年と大人がともに育つ環境を醸成し、青少年の育成に寄与することを目的としています。

青少年及び青少年育成に関する知識や技能を習得することで、青少年育成への理解を深め青少年育成活動の普及を推進し、青少年が自ら学び育つことができる機会の充実や自立支援に関わる人材を育成しました。

具体的には、社会的な課題をはじめ青少年育成活動の実践から得た課題を基に、テーマを定め必要に応じ専門機関・団体等と連携し講座・研修を実施しました。

【主な事業・取組】

- 子ども・若者エンパワメント事業（P18）
- 放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実（P28～P29）
- 放課後3事業ボランティア研修（P29）
- 青少年人材養成研修（P36～P37）
- ユースコーディネーター養成研修（P38）
- スキルアップ講座（P38～P40）
- 青少年を支える層の拡大（P41）
- ボランティア・社会教育実習生の受け入れ（P45）
- 青少年委員会の運営（P45）
- 青少年指導者育成者研修（P51）

C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業

う：体験活動等

この事業は、青少年が学校や家庭では得にくい多様な体験活動に参加することで、青少年の育成に寄与することを目的としています。

青少年が体験を通じ自ら感じ考えることで学び育つことができる機会として、就労体験、社会体験、自然体験、集団宿泊体験等の事業を企画・実施しました。

具体的には、お互いに協力して目標を達成していく過程で青少年が社会性や協調性を育み自ら成長していくことができるよう、集団や個人の特性に応じて活動領域や手法を変え体験活動を実施するとともに、青少年事業の研究・調査・開発を行いました。

併せて、放課後キッズクラブを運営し、小学生が集団での遊びや体験活動を通じ、自ら学び育つことができる機会を提供しました。

【主な事業・取組】

- 寄添い型支援事業「かもん未来塾」(P18)
- 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 (P18～P19)
- 困難を抱える青少年のための集団体験活動の実施 (P20)
- 放課後キッズクラブの運営と拡充 (P30～P32)
- 交流センターの青少年支援事業、活動成果交流事業、地域交流事業、体験交流事業 (P46～P48)
- 市民活動団体と協働した体験プログラムの実施 (P52～53)
- 困難を抱える青少年のための体験活動の支援 (P53～P54)
- ボランティアの養成 (P55)
- 体験プログラムの提供 (P55～P56)
- 地域連携事業 (P56)

D：その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

Dの項目は、収益事業及び法人運営のための取組みです。

①寄附金募集事業

この事業は、当法人の取組みを広く市民に周知し理解を深め協力を得ることを目的として、収益事業の実施、募金活動、賛助会員及び一般寄附者の拡充のための事業を行いました。

【主な事業・取組】

- 爆笑！濱っ子寄席の開催、賛助会員及び一般寄附者の拡充 (P22、P23)
- 平成28年 新春のつどい (P23)

②事務局運営

公益財団法人としての使命を果たすとともに、安定して継続的に運営できるよう、職員の育成、ガバナンスの強化を推進しました。

【主な事業・取組】

- 評議員会・理事会の運営、職員の研修、事業評価、情報受発信の充実（ホームページの充実等）

平成27年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

Ⅱ 平成27年度 事業体系表

施設・課	事業の柱	公益目的区分	事業名
事業課	A 青少年活動を支援する事業	え 相談、助言	1 知っておきたい！子ども・若者どこでも講座 2 地域の青少年の居場所の活動推進・支援 3 地域活動支援事業(相談、助言、活動プランニング)
		お 調査、資料収集	4 活動資源の調査
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	5 青少年の支援に関わる人材の育成等
	C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	6 寄り添い型支援事業 7 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 8 困難を抱える青少年のための集団体験活動の実施
総務課	D その他、この法人の目的を達成するために必要な事業		1 第55回 爆笑！濱っ子寄席 【収益事業】 2 法人の広報・PR 3 賛助会員及び一般寄附者の拡充 4 平成28年 新春のつどい 5 法人職員の人材育成
放課後事業課	A 青少年活動を支援する事業	え 相談、助言	1 はまっ子・キッズ交流事業 2 放課後キッズクラブ移行支援事業 3 放課後事業連携モデル事業
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	4 放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 5 放課後3事業ボランティア研修
	C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	6 放課後キッズクラブ運営 7 放課後キッズクラブの拡充
青少年育成センター	A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	1 諸室及び物品の貸出 2 利用促進事業
		え 相談、助言	3 青少年育成に関する相談、ホームページ等を使った情報提供 4 青少年育成に関わる団体とのネットワーク形成
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	5 青少年人材養成研修 6 ユースコーディネーター養成研修 7 スキルアップ講座 8 青少年を支える層の拡大
青少年交流センター	A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	1 諸室及び物品の貸出 2 利用促進事業 3 機能継承につながる利用促進
		え 相談、助言	4 日常的な相談、助言 5 「青少年の居場所・地域活動拠点連絡会」の運営
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	6 ボランティア・社会教育実習生の受け入れ 7 青少年委員会の運営
	C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	8 青少年支援事業 9 活動成果交流事業 10 地域交流事業 11 体験交流事業
野島青少年研修センター	A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	1 施設・設備貸出事業 2 利用促進事業
		お 調査、資料収集	3 体験プログラムの調査研究
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	4 青少年指導者育成者研修
	C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	5 市民活動団体と協働した体験プログラムの実施 6 困難を抱える青少年のための体験活動支援 7 ボランティアの養成 8 体験プログラムの提供 9 地域連携事業

(※)①:継続 ②:改善継続 ③:転換 ④:移管 ⑤:休止 ⑥:廃止

事業の柱 公益目的事業 区分	課・施設別評価							次年度 方針 (%)	事業区分別総合評価コメント	
	事業 課	総務 課	放課後 事業課	育成 C	交流 C	研修 C	総合			
A 青少年活 動を支援 する事業	あ 施設の 貸与			12/20 (60%) c	10/20 (50%) c	16/20 (80%) b	38/60 (63%) c	②	<ul style="list-style-type: none"> 育成センター、交流センター、研修センターの3施設とも年間稼働目標を達成した。 育成センターは、利用料金収入の増を図るため、企業が研修や打ち合わせで利用するケースが増えていることから、近隣の企業、商店街、青年会議所等への営業活動を通じて、平日昼間の一般団の利用促進を図る必要がある。 ホームページで空室情報を随時更新し提供することで、利用者の利便性を図った。 研修センターでは、危機管理、安全対策の利用者への周知、積極的な営業活動、利用しやすい柔軟な施設提供、設備やプログラム充実等の努力が稼働率向上につながり、指定管理提案書の目標31,000人を上回った。 	
	え 相談 助言	14/20 (70%) b		12/20 (60%) c	10/20 (50%) c	12/20 (60%) c	48/80 (60%) c	②	<ul style="list-style-type: none"> 啓発事業、地域活動支援は青少年が抱える課題を地域の大人が理解できる事業として一定の成果を上げることができた。今後は事業のフォローや事業効果を検証できる体制が必要である。 放課後キッズクラブの全校展開の支援ができた。 近隣のキッズクラブとの「地域連携モデル事業」については、昨年度の課題であったキッズクラブの地域特性を把握することができたが、キッズクラブ自身の意向やニーズを事前に把握した上で企画を進める必要がある。 ホームページを通じて助成金情報や講座・研修情報などの情報提供機能は発揮しつつあるが、相談件数が減少傾向にあり、相談・コーディネート機能の強化やPR活動をさらに推進する必要がある。 ロビーワークは代替事業に継承する大切な手法である。 	
	お 調査、 資料収集	12/20 (60%) c					12/20 (60%) c	24/40 (60%) c	②	<ul style="list-style-type: none"> 法人の取組みを評価検証するためにも調査、資料収集による情報収集は不可欠。また、地域の青少年育成活動の支援につながるよう、収集・整理した情報の発信に努めること。 研修センターでは、単にプログラム数を増やしていくだけではなく、より効果的なプログラムが実施できるよう、地域のNPO等と協働して実施方法や指導法の検討を進めていくこと。
B 青少年を 支える人 材を育成 する事業	い 講座 セミナー 育成	10/20 (50%) c		11/20 (55%) c	14/20 (70%) b	12/20 (60%) c	8/20 (40%) d	55/100 (55%) c	②	<ul style="list-style-type: none"> 放課後キッズクラブ運営を通して蓄積した法人のノウハウを十分に発揮して充実した研修事業になっている。 社会の関心事に対応したテーマを取り上げることができ、市民のニーズに対応した内容の事業にすることができた。 人材育成事業の体系化が図れた事業では、成果を検証するための取組みを強化して欲しい。 交流センター代替事業では、場所が制限されるため、実習型（体験型）の人材育成の手法を整理することが必要。 研修センターでは、参加者の満足度や学習効果が高かったが、定員に対する充足率が低かった。対象者のニーズにあった企画内容、研修形態の見直しを行うと共に、対象者に確実に情報が伝わる広報手段を検討すること。
C 青少年に 体験機会 や活動の 場を提供 する事業	う 体験 活動等	12/20 (60%) c		14/20 (70%) b	10/20 (50%) c	13/20 (65%) c	49/80 (61%) c	②	<ul style="list-style-type: none"> 様々な機関団体と連携し、青少年が自然や参加者同士とふれあえるプログラムが実施できている。 放課後キッズクラブにおいて、評議会、保護者会を開催し、理解と協力を図るとともに、保護者が積極的にキッズクラブの運営に関わる取組みを行った。 平成27年度新規開設(28年3月)2か所(上寺尾及び和泉小学校放課後キッズクラブ)の運営法人に選定された。 事業の企画実施ノウハウを事業に活かしていくために、前年踏襲型の事業ラインナップを見直し、目的とその目標に基づく事業企画実施に重点を置くこと。 	
D その他、この法人 の目的を達成する ために必要な事業		10/20 (50%) c					10/20 (50%) c	②	<ul style="list-style-type: none"> 自主財源の確保については、賛助会員向けの事業や寄附金募集の積極的な呼びかけ、「爆笑！漬っ子寄席」の運営などにより、寄附金額は昨年度に比べ146%の増額になった。今後は、寄附金リベート作成と活用、募金箱の設置に法人全体で取り組んでいく。 寄附金以外の自主財源確保の方策についても検討を続けていく必要がある。 	
各課・施設の 経営業務姿勢	14/20 (70%) b	14/20 (70%) b	14/20 (70%) b	15/20 (75%) b	15/20 (75%) b	15/20 (75%) b	87/120 (73%) b		<ul style="list-style-type: none"> 青少年の健全育成、困難を抱える青少年の支援、放課後児童育成事業において、地域活動の推進、人材育成、体験事業の提供、青少年施設運営、放課後キッズクラブ運営を通じ、法人全体が中間支援組織の機能発揮を念頭に取組んでいる。 昨年度の課題であった「各部署で得た情報や経験、成果を法人全体で共有し組織の力を効果的に発揮できる態勢づくり」を更に進めて欲しい。 	
各課・施設別 総合評価 上段:評価点計 下段:得点率	62/100 (62%) c	24/40 (60%) c	51/80 (64%) c	51/80 (64%) c	59/100 (59%) c	64/100 (64%) c	311/500 (62%) c		<ul style="list-style-type: none"> 事業課:さまざまな事業の企画や他団体の連携、人材育成に意欲的に取組んだ。 総務課:法人の屋台骨である庶務・経理など、日常の業務を支える役割を担いつつ、賛助会員及び一般寄附者の拡充を図るための工夫がなされている。 放課後事業課:増加する運営か所数の安定運営と他の運営法人への中間支援組織としての機能発揮の2つの課題にバランスよく取組んでほしい。 育成センター:気持ちよく利用できる施設を維持することが施設の稼働率向上につながる。引続きの円滑な施設運営を期待する。昨年度の課題であった「ボランティア情報の共有化」は、育成センターを中心に情報集約を図れるようになった。 交流センター:閉館に伴う代替施設への移行は、利用者へのヒアリングを行い、利用者ニーズを代替事業に反映できた。 研修センター:職員に欠員を生じながらも管理運営面での様々な努力により、今期の指定管理最終年の目標値を達成した。 	
評価の目安	評価委員4人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点 (20点満点) 【評価委員】 常務理事、業務執行理事2人、課長職1人							5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施		
総合評価ランク (評価点得点率)	a = 85%以上 b = 70%~84% c = 50%~69% d = 40%~49% e = 39%以下							評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷実施部署数×20点(満点) (%で表示)		

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 / 公益目的事業区分	個別事業名(含む全体)	次年度方針(※)			第2次評価会議 評価・助言・指示内容等	
		1次	2次	区分全体		
A 青少年活動を支援する事業	知っておきたい!子ども・若者どこでも講座	b ①	b ①	14/20 (70%) b	・申込団体はPTA(31%)、学校(18%)と学校関係が最も多かった。また、教職員研修や高校生対象の講演会など新たなニーズがあった。 ・磯子区岡村地区：市の補助金の縮減、区の協力体制が縮小するなかで、運営主体が自主自立的に活動ができるよう支援するとともに、法人として支援方針を明確にする必要がある。 ・神奈川区神大寺地区：運営主体は自立的に活動が出来ている。平成28年度で市の補助金が終了するため、終了後活動が継続できるように支援を行う。 ・地域における青少年活動に関する研修への講師派遣、企業等の社会貢献活動のコーディネート、地域の青少年育成活動のコーディネートなど、法人の専門的な技術、情報、経験が発揮できている。 ・若手活動者や活動希望者に体系的な研修を実施し、終了者をコースサポーターとして独自に認定する「ユースサポーター事業」の試行実施を進めることができていなかった。	
	青少年の居場所の活動支援 ・磯子区岡村地区 ・神奈川区神大寺地区	b ①	b ②			
	地域活動支援事業(相談、助言、活動プランニング) ・十日市場中学校地域交流事業 ・研修等への講師派遣 ・ユースサポーター事業	b ①	c ②			
	お調査、資料収集	活動資源の調査 ・調査、情報収集 ・YOKOHAMA EYE 'S発行	c ①	c ①	12/20 (60%) c	・法人の取組みを評価検証するためにも調査、資料収集による情報収集は不可欠。また、地域の青少年育成活動の支援につながるよう、収集・整理した情報の発信に努めること。
B 青少年を支える人材を育成する事業	い講座セミナー育成	青少年の支援に関わる人材の育成等 ・地域活動支援事業を通じた人材育成	—	—	10/20 (50%) c	・青少年育成活動や研修に対する相談・助言・情報発信・啓発等により、青少年の支援に関わる人材の育成に努めた。 ・思春期の子どもをもつ保護者や地域で青少年に関わる大など、一般市民を対象とした講演会が実施できた。 ・新規事業については、企画や実施体制づくりはできたが試行的実施には至らなかった。
		青少年の支援に関わる人材の育成等 ・子ども・若者エンパワメント事業 (子ども・若者の現状や課題を啓発する一般向けの講演会/ アウトリーチによる子ども・若者への課題啓発と早期支援)	c ①	c ②		
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う体験活動等	寄り添い型支援事業 ・「かもん未来塾」の運営	b ①	b ①	12/20 (60%) c	・困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業として、学習支援、生活支援を行い、これらの支援とともに独自のプログラムを実施し、社会性の発達を促している。 ・青少年活動団体などと協力して青少年向けの自然環境や社会資源を活用した体験活動を実施した。 ・高校生が、横浜の水源の一つである道志村の水源林の保全活動の一環として間伐作業を体験し、ボランティア活動の楽しさを知る機会となっている。 ・横浜の水源地である道志村の小学生と横浜市小学生との交流により、相互理解と横浜の理解を深めた。 ・高校生による小中学生を対象とした体験プログラムを実施し、高校生が自らの学びを活かして社会に貢献する機会と、自己肯定感を得る機会となっている。 ・市内の寄り添い型支援事業に参加する小中学生を対象とする事業で、希望が多かった夏休みに実施したが、鶴見区と西区の2区のみだった。
		自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 ・市民団体と協働した体験プログラムの実施 ・市内の自然・社会資源を活用した体験プログラムの実施	c ②	c ②		
		自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 ・高校生水源林ボランティア ・道志村児童受入れ事業	b ①	b ②		
		自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 市立高校と連携した体験活動の実施 ・横浜サイエンスフロンティア高校連携事業 ・みなと総合高校連携事業	b ①	b ②		
		困難を抱える青少年のための集団体験活動の実施 ・わくわく生活体験キャンプ	c ②	c ②		

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 / 公益目的事業区分	個別事業名(含む全体)	次年度方針(※)			第2次評価会議 評価・助言・指示内容等
		1次	2次	区分全体	
D その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	青少年育成寄附金募集事業【収益事業】 ・第55回 爆笑!濱っ子寄席	b ①	b ①	10/20 (50%) c	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の意見をもとに、広報の工夫や共同主催者である「横浜中法人会」との連携体制強化に努め、成果をあげた。 ・法人運営に関する報告や法人事業の取組みなどを、賛助会員、事業協力者や施設利用者に発信することができた。 ・ユースレター発行による効果の検証が課題である。 ・賛助会員の獲得、寄附金の募集の目標達成に向けて、ユースレター発送時に御礼状や振込票を同封することや、陶芸教室での呼びかけるなどの工夫に取組んだ結果、会員数及び寄附金の増が図られた。 ・法人を支えて頂いている方々への感謝を表し、関係機関・関係団体、寄附者等の交流・親睦・情報交換を図り、法人をアピールし、寄附金募集の場となっている。 ・法人事業や活動についてのスライドショーを行うなど運営に工夫を凝らしている。 ・法人が実施する研修や、外部研修に職員が参加することで人材育成に取組んでいる。
	法人の広報PR ・よこはまユースレター ・法人ホームページの維持・管理	c ①	c ①		
	賛助会員及び一般寄附者の拡充 賛助会員限定 陶芸教室	c ①	c ①		
	平成28年 新春のつどい	c ①	c ①		
	法人職員の人材育成	-	-		

総務部 放課後事業課

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 / 公益目的事業区分	個別事業名(含む全体)	次年度方針(※)			第2次評価会議 評価・助言・指示内容等	
		1次	2次	区分全体		
A 青少年活動を支援する事業	え 相談 助言	はまっ子・キッズ交流事業	b ①	b ①	12/20 (60%) c	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズクラブ転換に向けた、はまっ子ふれあいスクールスタッフが抱えている不安や戸惑いをお互いに共有でき、不安を解消する事業となっている。 ・地域NPO立ち上げ型キッズクラブの運営法人が抱えている不安を解消し安定運営につなげるため、当法人の運営経験を基に中間支援組織として機能を発揮することができた。 ・放課後3事業のそれぞれの事業所との情報交換と課題を共有することができた。
		放課後キッズクラブ移行支援事業	b ①	b ①		
		放課後事業連携モデル事業	d ①	d ⑥		
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座 セミナー 育成	放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実	b ①	c ⑤	11/20 (55%) c	<ul style="list-style-type: none"> ・現場の課題やニーズを、研修企画に活かすことができ、法人が中間支援組織として、どのような支援ができるか考える機会となった。 ・ボランティア活動の継続的な参加につながる人材を発掘し、青少年を支援する人材の育成につなげる事業となっている。
		放課後3事業ボランティア研修	c ①	c ②		
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験 活動等	放課後キッズクラブ運営 地域連携(評議会、保護者会、地域との連携事業)	-	-	14/20 (70%) b	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後キッズクラブにおいて、評議会、保護者会を開催し、理解と協力を図るとともに、保護者が積極的にキッズクラブの運営に関わる取組みを行った。 ・主任会議、副主任会議、主任・副主任合同会議を開催し、情報交換等を行った。 ・キッズクラブ運営に必要な事務研修や具体的な事例に基づいた研修を実施した。 ・平成27年度新規開設(28年3月)2か所(上寺尾及び和泉小学校放課後キッズクラブ)の運営法人に選定された。
		放課後キッズクラブの拡充	-	-		

施設部 横浜市青少年育成センター

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分	個別事業名(含む全体)	次年度方針(※)			第2次評価会議 評価・助言・指示内容等	
		1次	2次	区分 全体		
A 青少年活 動を支援 する事業	あ 施設の 貸与	諸室及び物品の貸出	c ①	c ①	12/20 (60%) c	・稼働率(2.5%増)、利用料金収入(3.3%増)、利用件数(2.4%増)と微増であった。
	利用促進事業 ・きずな夏祭り ・馬車道通信 ・新規利用者の開拓	c ②	c ②	・教育委員会主催「子どもアドベンチャー」の規模拡大に伴い、その参加プログラムである「きずな夏祭り」(横浜市町内会連合会委託事業)の来場者が大幅な増となった。 ・施設の利用促進チラシの郵送、講座参加者への施設PRパンフレットの配布など様々な利用促進策を行った。 ・利用料金収入の増を図るため、企業が研修や打ち合わせで利用するケースが増えていることから、平日昼間の一般団体利用の利用促進に向けた取組みが求められる。		
	え 相談 助言	青少年育成に関する相談、ホームページ等を使った情報提供	c ①	c ①	10/20 (50%) c	・地域の青少年活動や課題を抱えた青少年に関する一次相談窓口として青少年の支援体制に努めた。昨年度に比べ、継続支援が必要な相談ケースが減少したため、相談件数としては対前年度32.4%の減となった。 ・相談窓口を開設していることを継続的に対外的に発信する必要がある。 ・助成金情報、講座・研修情報などホームページなどを通じて情報を発信するとともに、間接的に活動を支援を行った。
		青少年育成に関わる団体とのネットワーク形成 ・よこはまユース・ゼミの実施	c ②	c ②		・青少年育成に関わる団体のネットワークを形成するため、情報交換を通じて団体相互の理解と活動の充実が図られている。 ・ネットワークを形成するため、テーマ別に加えて、経験別の情報交換の場を新たに設けた。
B 青少年を 支える人 材を育成 する事業	い 講座 セミナー 育成	青少年人材養成研修 ・青少年の居場所づくり講座 ・フォローアップ講座 ・団体連携	c ②	c ②	14/20 (70%) b	・居場所づくり講座の研修効果を高めるため、青少年が多く来館する夏期に実施することで、来館者やスタッフ対応を見学することができた。 ・フォローアップ講座は、青少年自在養成研修とよこはまユースコーディネーター養成研修の合同開催で実施したが、参加者が少なかった。開催日及び周知方法の課題がある。
		ユースコーディネーター養成研修 ・ユースコーディネーター養成研修 ・フォローアップ講座	a ②	a ②		・困難を抱える青少年や家庭の状況を理解し、潜在的な課題等に気づき、受けとめることができる研修が実施できている。 ・今日的な「青少年の課題」をテーマとした結果、多くの参加者を得ることができた。
		スキルアップ講座 ・スキルアップ講座 ・フォローアップ講座	a ②	a ②		・コーチング入門講座は、幅広い多くの参加者があり、豊かな人間関係を築くコミュニケーションスキルを高める講座となっている。 ・ユースワーカー・リーダー研修は、マネジメントクラス・リーダーの役割を担う層が共通の課題を共有する機会と研修が少なかったことから、貴重な研修となった。
		青少年を支える層の拡大 ・ユースシンポジウム ・馬車道カレッジ	c ②	c ②		・ユースシンポジウムでは、青少年をめぐる課題についてのテーマを取り上げ、発信することで地域における青少年を支える層の拡大事業となっているが、参加者数に課題がある。 ・馬車道カレッジは、仲間作りや社会参加を広げるきっかけ作りとなっている。

施設部 横浜市青少年交流センター

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 / 公益目的事業区分	個別事業名(含む全体)	次年度方針(※)			第2次評価会議 評価・助言・指示内容等
		1次	2次	区分 全体	
A 青少年活動を支援する事業	諸室及び物品の貸出	c ③	c ③	10/20 (50%) c	・閉館を控えて前年度に対して減少となったが、経営方針の目標(70%)は達成(72.7%)したが、青少年の利用が20.5%減少した。 ・ホームページによる年間事業スケジュール、スタジオの空き情報を配信するなど、利用者の利便性に努めている。 ・ホームページでの代替事業の案内、登録団体への代替事業案内送付など代替施設移行に向けた準備などを進め、交流センターの開館など滞りなく進められた。
	利用促進事業 ・ダイレクトメールによる広報活動の実施 ・事業参加者獲得に向けた年間事業予定のホームページ公開 ・Eメールによるキャンセル情報の配信	c ③	c ③		
	機能継承につながる利用促進 ・新たな施設における居場所機能の検討 ・利用者への新たな施設に関する情報提供	c ③	c ③		
	え 相談 助言	日常的な相談・助言 ・ロビーワークの実施 ・青少年活動組織	b ③	b ③	12/20 (60%)
「青少年の居場所・地域活動拠点連絡会」の運営		c ③	c ③	c	
B 青少年を支える人材を育成する事業	ボランティア・社会教育実習生の受け入れ ・夏期青年ボランティア ・社会教育実習生の受入	c ③	c ③	12/20 (60%) c	・夏期ボランティアは来館する子どもたちにじっくりと関わることで、相互の成長に繋がっている。 ・青少年への対応が実習生の貴重な学びと、青少年にとっても実習生とのかかわりは多様な価値観に触れる貴重な機会となっている。 ・センターの運営に青少年の視点を取り入れる機会となっている。
	青少年委員会の運営	c ③	c ③		
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	青少年支援事業 ・学習マイプラン(学習支援)	c ③	c ③	10/20 (50%) c	・学習に困難を抱える青少年に対する学びの場となっている。また、学習支援ボランティアと進路相談や進学後の相談をする機会ともなっている。 ・青少年ライブは、運営に参加する青少年が担当することで、参加した青少年の達成感や団体間の交流を高めることができた。 ・利用者発表交流会は、青少年と大人との交流の場となっている。 ・青少年が「こどもの日」のイベントに企画・運営にボランティアとして関わることを通じて、自主性や協調性を養う場が提供できている。 ・地域の子どもたちから大人まで幅広い世代が交流し、地域との関係づくりができた。 ・青少年の表現活動の場づくり事業である陶芸教室は、陶芸作品の制作を通して、青少年がものづくりの楽しさ、表現活動の面白さを体験する機会が提供できている。 ・社会人仲間作り事業は、共同作業を含めた体験活動を目的としているが、コミュニケーションを図りながら活動できるような展開を検討する必要がある。また、キャンセルが多く、収入が減少したことから事業の再検討が必要である。
	活動成果交流事業 ・青少年ライブ ・@楽祭	c ③	c ③		
	地域交流事業 ・こどもの日まつり ・夏まつり ・@楽祭 ・もちつき大会	c ③	d ③		
	体験交流事業 ・青少年の表現活動の場づくり事業 ・社会人仲間作り事業 ・その他体験交流事業	c ③	d ③		

施設部 横浜市野島青少年研修センター

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分	個別事業名(含む全体)	次年度方針(※)			第2次評価会議 評価・助言・指示内容等	
		1次	2次	区分 全体		
A 青少年活動 を支援 する事業	施設・設備貸出事業	a ②	a ②	16/20 (80%) b	・利用促進活動の効果が現れ、青少年育成活動や学校の体験学習の利用が増え、稼働率(0.6%)、利用団体数(14.1%)、利用人数(13.5%)ともに増となった。 ・年間活動計画や空室情報ホームページの随時更新、閉歇期に向けた大学や企業等へ利用促進チラシを配布するなど広報先の拡大を図った。	
	利用促進事業 ・ホームページを活用した施設情報提供 ・季節ごとの利用案内チラシの配布 ・大学や企業利用の促進に向けた誘致活動 ・小中学校宿泊体験学習の利用促進 ・食事提供サービスの検証と試行 ・防災対策の強化と発信	c ②	c ②			
	お 調査、 資料収集	体験プログラムの調査研究	c ②	c ②	12/20 (60%) c	・地域資源を活かした体験プログラムや自然体験プログラムの充実はもとより、雨天時の室内プログラム開発が求められる。
B 青少年を 支える人 材を育成 する事業	い 講座 セミナー 育成	青少年指導者育成者研修 ・自然と安全 ・レクリエーション講習会	c ②	d ②	8/20 (40%) d	・参加者の満足度や学習効果は高かったが、定員に対する充足率が低かった。研修形態や広報について工夫する必要がある。
C 青少年に 体験機会 や活動の 場を提供 する事業	う 体験 活動等	市民活動団体と協働した体験プログラムの実施 ・環境保全事業の開催(オールグリーン野島ビーチ) ・防災イベントの開催 ・野島カヌー体験教室(日帰り) ・自然体験キャンプの実施(宿泊)	b ①	b ①	13/20 (65%) c	・環境保全事業(オールグリーン野島ビーチ)は、企業や近隣で活動する市民団体が多く参加して、ごみを取り除く作業による自然保護を図りながら、参加者同士の交流や地域連携の役割が図れている。 ・金沢区災害ボランティアネットワークのメンバーとして、防災宿泊プログラムを企画実施した。 ・自然体験教室・キャンプの体験機会を提供することで、青少年の体験活動を支える人材の発掘に結び付けている。 ・不登校児童生徒が、体験活動(宿泊)を通じて社会への興味関心を広げると共に、多くの人と接することで自信を回復し、児童生徒間のコミュニケーションを図っている。 ・障がいのある児童生徒に生活体験、集団活動の機会を提供し、児童生徒の成長と障がい児とその保護者への理解を深める事業となっている。 ・就業体験活動や施設スタッフとの交流を通じて、意欲と自信を育む機会となっている。 ・ボランティアが参加することで、青少年に異年齢交流の機会を提供することができている。 ・シニアボランティアの導入が図られた。 ・研修センター独自の体験プログラムを提供できた。 ・天候に左右されない室内プログラムの新規開発を行った。 ・調理実習プログラムの提供によって、集団作業を通じて社会性や協調性を身に付ける機会となっている。 ・研修センターが継続的に地域と関わることで、町内会・漁港漁師の方や地域の活動団体が、研修センター事業のボランティアとして参加するなど、研修センター職員や青少年と交流する機会が増えた。
		困難を抱える青少年のための体験活動の支援 ・不登校児童生徒の宿泊体験 ・障害のある児童・生徒の宿泊体験 ・職業体験活動の受け入れ、支援機関等の支援	b ①	a ①		
		ボランティアの養成 ・ボランティア研修会の実施	c ②	c ②		
		体験プログラムの提供 ・生き物観察等の自然体験プログラムの提供 ・グループワーク等の室内プログラムの提供 ・食育プログラムの提供	a ②	a ②		
		地域連携 ・地域交流事業実施、災害ボランティアネットワーク、防災訓練や敬老会など地域行事への参加・支援、地域ネットワーク会議	c ⑥	c ⑥		

平成27年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

事業課総合評価:c 62/100 62%

(※)①:継続 ②:改善継続 ③:転換 ④:移管 ⑤:休止 ⑥:廃止

事業の柱 / 公益目的事業区分	事業区分全体評価		次年度 方針 (※)	第2次評価会議における意見	総合評価コメント	
	ランク	得点 (30点満点)				
A 青少年活動を支援する事業	え 相談 助言	b	14/20 (70%)	②	<ul style="list-style-type: none"> 「子ども・若者どこでも講座」の申込団体はPTA(31%)、学校(18%)と学校関係が最も多かった。また、教職員研修や高校生対象の講演会など新たなニーズがあった。 市の補助金の縮減、区の協体制度が縮小するなかで、運営主体が自主自立的に活動ができるよう支援するとともに、法人として支援方針を明確にする必要がある。(岡村地区) 運営主体は自立的な活動が出来る。平成28年度で市の補助金が終了するため、終了後活動が継続できるように支援を行う。(神大寺地区) 地域における青少年活動に関する研修への講師派遣、企業等の社会貢献活動のコーディネート、地域の青少年育成活動のコーディネートなど、法人の専門的な技術、情報、経験が発揮できている。 若手活動者や活動希望者に体系的な研修を実施し、終了者をユースサポーターとして独自に認定する「ユースサポート事業」の試行実施を進めることができていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「子ども・若者どこでも講座」は青少年が抱える課題を地域の大人が理解できる事業として一定の成果を上げることができた。今後は事業のフォローや事業効果を検証できる体制が必要である。 「青少年の居場所の活動支援」は運営主体が自立して居場所を運営できるようになった。今後は事業で培ったノウハウや情報を他の地域にも提供することで、居場所を拡充する中間支援的な取組みが必要である。
	お 調査、 資料収集	c	12/20 (60%)	②	<ul style="list-style-type: none"> 社会の関心事に対応したテーマを取り上げることができ、市民のニーズに対応した内容の事業にすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 法人の取組みを評価検証するためにも調査、資料収集による情報収集は不可欠。また、地域の青少年育成活動の支援につながるよう、収集・整理した情報の発信に努めること。
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座 セミナー 育成	c	10/20 (50%)	②	<ul style="list-style-type: none"> 青少年育成活動や研修に対する相談・助言・情報発信・啓発等により、青少年の支援に関わる人材の育成に努めた。 思春期の子どもをもつ保護者や地域で青少年に関わる大など、一般市民を対象とした講演会が実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会の関心事に対応したテーマを取り上げることができ、市民のニーズに対応した内容の事業にすることができた。 新規事業については、企画や実施体制づくりはできたが試行的実施には至らなかった。
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験 活動等	c	12/20 (60%)	②	<ul style="list-style-type: none"> 困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業として、学習支援、生活支援を行い、これらの支援とともに独自のプログラムを実施し、社会性の発達を促している。 青少年活動団体などと協力して青少年向けの自然環境や社会資源を活用した体験活動を実施した。 横浜の水源である道志村の小学生と横浜市的小学生との交流により、相互理解と横浜の理解を深めた。 高校生が、横浜の水源の一つである道志村の水源林の保全活動の一環として間伐作業を体験し、ボランティア活動の楽しさを知る機会となっている。 高校生による小中学生を対象とした体験プログラムを実施し、高校生が自らの学びを活かして社会に貢献する機会と、自己肯定感を得る機会となっている。 市内の寄り添い型支援事業に参加する小中学生を対象とする事業で、希望が多かった夏休みに実施したが、鶴見区と西区の2区のみだった。 	<ul style="list-style-type: none"> 青少年団体等と連携することで、青少年が自然や参加者同士とふれあえるプログラムが実施できている。 困難を抱える小中学生が将来に対して意欲をもって取組めるよう、学習だけでなく、生活についても支援することができた。特に「かもん未来塾」については単に勉強を教える場ではなく、小中学生が居心地の良さを感じられる居場所としての機能を発揮している。また、「わくわく生活体験キャンプ」については、野島青少年研修センターの閑散期対策としても位置づけていたが、今年度は夏休みに開催したことでの参加者増は図れなかった。開催時期や開催場所について再度検討する必要がある。 青年ボランティアに関する事業は、これまでの取組みを評価・検証し法人全体で改善充実を図る必要がある。
経営・業務姿勢		b	14/20 (70%)		<ul style="list-style-type: none"> 地域活動支援や事業連携先の拡大、事業を通じた人材育成に意欲的に取組み、中間支援組織としての機能を発揮した。 寄り添い型支援事業へのフォローなど、率先して態勢力パーにあたった。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな事業の企画や他団体の連携、人材育成に意欲的に取組んだ。 補助事業として実施が決まった交流センターの代替事業とのすみ分けや役割の明確化をこれまで以上に意識し取組んでほしい。
総合		c	62/100 (62%)			

評価の目安	評価委員4人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点 (20点満点) 【評価委員】 常務理事、業務執行理事2人、課長職1人	5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施
総合評価ランク (評価点得点率)	a = 85%以上 b = 70%~84% c = 50%~69% d = 40%~49% e = 39%以下	評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷評価区分数×30点(満点) (%で表示)

平成27年度 公益財団法人よこはまユース 事業報告

事業課

A：青少年活動を支援する事業 え：相談、助言

事業名	知っておきたい!子ども・若者どこでも講座		
日時/回数	通年	場所	横浜市内
対象	青少年指導員、民児協、PTAなど、地域の中で青少年活動に取り組む団体	回数	55件(20人以上の団体/件)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年を取巻く環境や抱える問題に対する地域の大人の理解を促進する。 ・市内に、青少年の育ちを全体で見守れる地域を広げる。 ・主催団体の課題や要望を整理しながら、適切なコーディネートをする。 		
実施内容	<p>青少年が抱える課題に対する理解の広がりや地域における青少年活動の広がりを目的に、地域の大人たちが主催する研修会や講座へ講師を派遣した。講師の選定・連絡調整を行うとともに、講師謝金・交通費も負担した。</p> <p>【主なテーマ】 子どもとの関わり方(36%)、インターネット・携帯電話(29%)、性教育(7%)、若者の自立支援(ひきこもり・就労等)(7%)、非行の問題(4%)、青少年の居場所(2%)、薬物の問題(2%)、心の問題(2%)、自殺の問題(2%)、その他(9%)(児童虐待、不登校、傾聴、食育など)</p> <p>※申込件数：55件、実施件数：55件 講座参加人数：3,617人</p> <p>【主な講師依頼先】 七里ヶ丘子ども若者支援研究所、一般財団法人インターネット協会、ヘルスプロモーション推進センター、神奈川県警察本部少年相談・保護センター、横浜市児童相談所、鎌倉女子大学、CAPかながわ、横浜市青少年相談センター、青少年の地域活動拠点事業 等</p> <p>【事前準備】 ・依頼者からニーズをヒアリング ・依頼者に助言をしながら講座テーマを設定 ・講師の調整、手配 ・講師と主催者との打合せに同席し、助言及び調整</p> <p>【当日】 会場準備の補助</p> <p>【事後】 主催者からの感想をヒアリング(終了報告書の提出)</p>		
事業名	地域の青少年の居場所の活動推進・支援 磯子区岡村地区		
日時/回数	通年	場所	磯子区岡村中学校区
対象	磯子区子どもの幸せを実現する会	参加者	28,214人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年が安心して過ごせる地域づくりの活動を支援する。 ・地域の大人と青少年とが顔の見える関係をつくれるよう、相互の交流を促す。 ・地域で青少年を見守り育てる仕組みを、地域の主体的な取組みとして定着させる。 		
実施内容	<p>「子どもの幸せを実現する会」が行う、岡村中学校区での青少年の居場所活動を支援した。</p> <p>「子どもの幸せを実現する会」は、岡村中学校の一室を使用し、青少年が安心して過ごせる地域を目指して、学校と地域が交流できる活動の企画・運営を行っている。また、教室に入れない生徒のための学習支援なども行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に関わる事務手続きの支援 ・拠点活動の運営補助、助言、相談、青少年との関係づくりのサポート ・利用者増加のためのPR活動 <p>【現場対応】 ・地域交流活動(お茶会、あいさつ運動 他)：11回 ・子どもの幸せを実現する会定期全体会：2回 ・子どもの幸せを実現する会定期役員会：1回</p> <p>【連携】 こども青少年局青少年育成課、岡村中学校、磯子区地域振興課、磯子警察署</p>		
事業名	地域の青少年の居場所の活動推進・支援 神奈川区神大寺地区		
日時/回数	毎週月、火、金(計146回)、運営委員会毎月2回	場所	神大寺地区センター、中丸小学校体育館
対象	居場所スタッフ、関係者、区地域振興課	参加者	6,541人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年が安心して過ごせる地域づくりの活動を支援する。 ・地域の大人と青少年とが顔の見える関係をつくれるよう、相互の交流を促す。 ・地域で青少年を見守り育てる仕組みを、地域の主体的な取組みとして定着させる。 		
実施内容	<p>神奈川区神大寺地区での青少年の居場所GROVE運営委員会活動を支援。</p> <p>※神奈川区神大寺地区の居場所は、音楽(バンド活動)とスポーツ(フットサル、バスケットボールなど)を通じた青少年の居場所づくりと青少年の活動の場の提供を中心に活動を展開。拠点では、主に近隣の大学生や専門学校生、拠点を利用して青少年が子どもたちの対応をしている。また、地域行事にも積極的に協力しており、地域の担い手としても期待されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者増に向けた広報物の助言・支援 ・居場所運営委員会であるGROVE運営委員会活動の運営補助、助言、相談 ・拠点から居場所への支援変更に対する助言、相談、支援 <p>【現場対応】 ・運営委員会参加や打合せ：2回 ・B-SKYフェス実行委員会：4回 ・B-SKYフェス 2/28(土) 於：神奈川公会堂 B-SKYフェスは、神奈川区と居場所が中心となって、青少年を対象に、ダンス、民俗芸能、楽器演奏、バンド演奏の発表の場として実施している。運営スタッフは居場所、区役所、地域の大人、居場所に入出入りする大学生や専門学校生で構成され、企画段階から当日運営に至るまで携わっている。当日は、出場団体の青少年も役割をもち、一緒にイベントを作り上げている。</p> <p>【協賛・後援団体】 総合型地域スポーツクラブ「まる倶楽部」、総合型地域スポーツ研究所「ビッツ」、片倉・神大寺地区青少年指導委員、神奈川区少年補導員、ロータリークラブ</p> <p>【連携】 こども青少年局青少年育成課、神奈川区地域振興課、神大寺地区センター、中丸小学校</p> <p>・音楽活動：月曜日(地区センター) ・スポーツ活動：火・金曜日 (中丸小学校体育館) 18時～バスケット 19時～フットサル</p>		

事業名	地域活動支援事業(相談、助言、活動プランニング)		
日時/回数	通年	場所	横浜市内
対象	行政、学校、PTA、団体や機関など	対応	23件
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における青少年育成活動や居場所づくり活動の充実・発展のための研修機会を提供する。 ・学校と地域の連携事業を通じた地域のセーフティネットづくりを支援する。 ・企業の社会貢献活動を推進する。 		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年活動の相談、助言 ・青少年に関する研修への講師派遣 ・企業の社会貢献活動のコーディネーター、研修 ・地域の青少年活動のコーディネート ・ユースサポーター事業(未実施) 	<ul style="list-style-type: none"> <相談・助言> ・日立横浜理科クラブ、水道局「どんぐりプロジェクト」事業協力 <事業協力>後援共催 ・居場所フォーラム、おもしろ科学たんけん工房 <講師派遣> ・15件実施(JICA日系社会青年ボランティア派遣前訓練、仲町台地区センター講座等) <企業等の社会貢献活動のコーディネート> ・キリンビール社員研修(2回実施) <活動コーディネート> ・十日市場中学校地域交流事業 ・日立横浜理科クラブ 「光ファイバー通信教室」実施 日時：2/14(日)10時～12時 場所：育成センター第1研修室 参加人数：33人 	

A：青少年活動を支援する事業 お：調査、資料収集

事業名	活動資源の調査 横浜ユースマップ(法人ホームページコンテンツ)の情報更新		
日時/回数	随時		
対象	横浜市内の青少年活動資源	登録数	374件
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市内の社会・自然資源を調査・発掘する。 ・市民が多様な体験活動に活用できる資源の情報提供を行う。 		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市内にある社会・自然資源を調査・発掘し、市民の多様な体験活動につなげられるよう、横浜ユースマップを更新し、情報提供を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の社会・自然資源の所在並びに内容の確認と情報更新 ・自然体験、自然体験(水遊び系)、横浜市施設、キッズクラブ、居場所、青少年育成団体、体験施設の7分野の活動情報を掲載。 	

事業名	活動資源の調査 YOKOHAMA EYE'S発行		
日時/回数	3月発行	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成者・指導者、青少年関係機関など	部数	1,500部
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の取組みを周知する。 ・地域の青少年育成活動を掘り起こす情報発信を行なう。 ・執筆を通して法人職員の専門性や能力の向上を図る。 		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 法人の取組みと地域の青少年育成活動の情報発信を目的とした研究・活動事例報告集を発行した。 テーマ：「居場所から社会へ-新たな青少年施策の方向性を探る-」 ・法人の取組みをはじめ、特筆する地域・団体の活動を掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人各部署の職員で構成する編集委員会を設置 ・今年度のテーマを決定：「人とつながる、人が広がる」 ・執筆者への依頼及び執筆 ※法人職員執筆は公募制 ①テーマ論文(法人職員) ②外部執筆 ③事業報告(法人職員) ・入稿及び校正、発送 ※主な発送先：青少年育成・指導者(団体)、青少年関係機関・施設、学校関係者、研究者 【外部執筆・協力者】 萩原建次郎氏 駒澤大学教授 水野篤夫氏 京都市ユースサービス協会常務理事 	

平成27年度 公益財団法人よこはまユース 事業報告

事業課

B：青少年を支える人材を育成する事業 い：講座、セミナー、育成

事業名	青少年の支援に関わる人材の育成等 子ども・若者エンパワメント事業		
日時/回数	7/21(火)14時~16時	場所	関内ホール小ホール
対象	小中学生の保護者、地域で青少年に関わる大人	参加者	161人
事業目的	・子ども・若者を取り巻く現状や身近な課題について啓発することで、青少年への理解を深め、地域の大人が青少年を見守る“目”を育む。 ・子ども・若者の力を引き出す支援を直接実施するための新規事業企画を行う。		
実施内容	①子ども・若者エンパワメントセミナー 思春期の子どもをもつ保護者や地域で青少年に関わる大人など一般の市民を対象に、子ども・若者を取り巻く現状や身近な課題について啓発する無料の講演会を実施した。 【講師】 土井隆義氏 筑波大学教授 ②新規事業企画 教育機関や若者自立支援に取組む機関団体と協働で高校生を支援する事業の企画を行った。		
	①子ども・若者エンパワメントセミナー 【事前準備】 ・講師の手配、事前打ち合わせ ・事業の周知 ＊主な広報先＊ 広報よこはま、公共施設(地区センター、図書館 等)、市立小学校、放課後キッズクラブ・はまっ子ふれあいスクール、青少年に関わる団体(市P連、市子連、民児協、青指)、市内の大学学生課 【当日】 ・講演会実施 テーマ：「つながりの牢獄—青少年の問題行動を考える—」 ・参加者へのアンケート実施 ②新規事業企画 ※「市立高校と連携した体験活動の実施」参照		

C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う：体験活動等

事業名	寄り添い型支援事業 「かもん未来塾」の運営		
日時/回数	毎週水金12時~19時、火木12時~21時	場所	西区「かもん未来塾」(西区中央)
対象	困難を抱える小中学生	登録数	15人(平成28年3月末現在)
事業目的	・小中学生を対象に「気づき・やる気・希望」を引き出す。 ・他者との関係性を築きながら自らが安心していられる場(居場所)を提供する。 ・地域や専門機関と連携し、子どもを見守る地域の環境を築く。		
実施内容	困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業として、生活保護家庭の児童生徒を中心に学習支援、生活支援、総合支援を実施した。 中学生の部活動などの学習並びに生活実態に合わせた対応として、12~21時の開設を25年度から開始。27年度は曜日を火木に変更した。 【連携】 西区役所福祉保健センター (生活支援課、こども家庭支援課)		
	・登録者数：15人(小学生5人、中学生10人) ・延べ利用回数：1,091人(小学生275人、中学生613人、卒業生・保護者203人) ①学習支援：宿題・課題など日々の学習や補習を支援、定期試験対策。 ②生活支援：手洗い・うがい、片付けなど生活の基本行動の第一歩から始め、個々の成長に合わせて指導。 ③総合支援：上記支援の他、独自プログラムの実施によりスタッフや他の塾生とのコミュニケーションの深まりによって社会性の発達を促した。 ※卒業生とも継続した関わりを持ち支援を行っている。 【体験プログラム】 5月：柏餅づくり 7月：「おにぎらず」づくり 8月：わくわく生活体験キャンプ、プロ野球観戦 10月：餃子づくり 11月：高校説明会引率 12月：クリスマス会 1月：新春映画上映会、鏡開き、七草粥 2月：卒業生を囲んで話す会 3月：春休み映画上映会、バスケ教室、卒業進級祝いパーティー その他：利用者全員の誕生日をその都度実施。		
事業名	自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 市民団体と協働した体験プログラムの実施		
日時/回数	通年	場所	横浜市内
対象	小中学生を主とした青少年	参加者	1,770人(2回の連携イベント参加者合計)
事業目的	・青少年の社会性や自立心を育てる機会を提供する。 ・体験活動を推進するために自然環境や社会資源の活用を図る。		
実施内容	・青少年活動団体などと協力して、青少年向けに、自然や他者とふれあえるイベントを実施した。 【協力団体】 横浜市少年五団体(ボーイスカウト横浜市連合会、ガールスカウト横浜市連絡協議会、横浜市健民少年団、横浜海洋少年団、横浜市子ども会連絡協議会) あおみ建設株式会社、東京湾水先区水先人会、港湾職業能力開発短期大学校横浜校、日立横浜理科クラブ		
	5/30(土)、31(日)：開港祭イベント@臨港パーク(参加者：893人) ボーイスカウト横浜市連合会、横浜市子ども会連絡協議会と連携して開港祭でワークショップを実施。簡単な工作(ピーピー笛)、身近な素材を使ったゲーム体験ブース『ジャンボシャボン玉づくり』 11/22(日)：みるしるふれる・みなとのしごと@山下公園(参加者：877人) 横浜市少年五団体、港湾関係企業と連携して実施。港の仕事や青少年活動が体験出来るワークショップや港の見学会を実施した。 ※その他、横浜市少年五団体の交流事業や青少年団体が地域で実施する事業の支援並びに、少年五団体の活動を小学生とその保護者に紹介するパンフレット作成支援を行った。		

事業名 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 高校生水源林ボランティア			
日時/回数	8/4(火)7時50分～20時	場所	山梨県道志村の水源林
対象	市内在住・在学の高校生	参加者	94人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中で活動する楽しさを知り、自然環境や普段飲んでいる水への理解を深める機会を提供する。 ・ボランティア活動の楽しさを知る機会を提供する。 		
実施内容	<p>山梨県道志村の水源林の保全活動の一環として、間伐作業を体験した。また、水源の森(市水道局が管理する涵養林)の見学と森の保水・浄化機能について学習した。</p> <p>【連携】 横浜市水道局(浄水部浄水課)</p> <p>【事前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市水道局との企画内容の調整 ・市内の高校に参加者募集 <p>【ボランティア事前研修】 7/16(木)18時～ 於：青少年交流センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の作業について、ボランティアの心得、道志水源林について 他講師：横浜市水道局浄水課係長 <p>【水源林ボランティア当日】 活動内容(環境学習教室→間伐体験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生ボランティアの引率、活動の記録 ・活動アンケートの実施(水道局兼用) <p>今年度から、募集定員を3倍の120人にして実施した。日程の関係で、定員には達しなかった。</p>		
事業名 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 道志村の自然を活用した体験プログラム・交流プログラムの実施 道志村児童受入れ事業			
日時/回数	10/8(木)～9(金) 1泊2日	場所	横浜市内 (小学生との交流、社会見学)
対象	道志村立道志小学校5年生と引率教員、教育委員会	参加者	16人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市の小学生と道志村の小学生の交流を深める。 ・横浜での社会見学の機会を提供し、道志小児童に横浜への理解を深める。 		
実施内容	<p>道志村児童を横浜に招待し、市内の小学生との交流、横浜市を中心とした社会見学の機会を提供することで、横浜市と道志村の交流と相互理解を深めた。</p> <p>【連携・協力】 横浜市立万騎が原小学校 道志村立道志小学校 道志村 道志村教育委員会 こども青少年局青少年育成課</p> <p>【どんぐりプロジェクトとの連携】 川井浄水場のリニューアルに伴い、敷地内に横浜市の水源である道志村をイメージした森を作るプロジェクトを昨年度から水道局が実施している。その森の一部には、道志村と横浜のさらなる交流を願って、道志小児童と万騎が原小児童がどんぐりの苗を数年かけて育て、ともに植樹することが予定されている。(5か年計画の2年目)</p> <p>【事前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道志小学校、万騎が原小学校と打ち合わせ、活動内容調整 ・企画立案、関係先への手続き ・浄水場、工場等活動先との打ち合わせ <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加人数16人(児童10人、引率教員等6人) ・児童の誘導、引率、引率教員との調整 ・活動プログラム 川井浄水場見学 万騎が原小学校児童との交流会 横浜港見学(大棧橋、遊覧船乗船) 中華街、マリンタワー見学 産業工場見学(日産追浜工場見学) 人工海岸の見学(海の公園) <p>※宿泊は横浜市野島青少年研修センターを利用</p>		

事業名		自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 市立高校と連携した体験活動の実施	
日時/回数	6月、1月、2月、3月/6回	場所	横浜市野島青少年研修センター、横浜市立みなと総合高校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校
対象	小学生～中学生	参加者	182人(延べ)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市資源である市立高校を活用し、青少年に体験機会を提供する。 ・身近な自然環境や社会に対する青少年の興味・関心を高める。 ・高校生がこれまでの学習を活かしたプログラムを提供することで、自らの学びを深める。 ・高校生を対象とする新規プログラムを開発する。 		
実施内容	<p>横浜市立高校と協働し、小中学生を対象とした体験プログラムを実施した。また、新規事業の企画に取組んだ。</p> <p>【連携】 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校 (理科調査研究部、天文部、航空宇宙工学部) 横浜市立みなと総合高校 (地球科学部) 横浜市立横浜総合高校(新規連携)</p> <p>【広報】 チラシ(市内小中学校、区役所・地区センター等の公共施設に配布)、法人ホームページ、イベント情報サイトに投稿</p> <p>【新規事業企画連携】 横浜市立横浜総合高校 横浜市立大学 NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ(Me-net) NPO法人横浜メンタルサービスネットワーク</p> <p>①6/7(日)「発見!横浜の自然」野島海岸の生き物観察 場所:野島青少年研修センター 応募者34人参加者32人(定員30人)高校生12人 内容:干潟での生物採取、観察、発表</p> <p>②1/24(日)「天文教室」 場所:横浜サイエンスフロンティア高校 応募者64人参加者25人(定員25人)高校生19人 内容:プラネタリウム投影、大型天体望遠鏡の見学、星座カルタ</p> <p>③2/6(土)「みなと☆プラネタリウム」 場所:横浜市立みなと総合高校 応募者57人参加者52人(定員30人)高校生15人 内容:移動式プラネタリウム投影、ミニプラネタリウム作り、天文クイズ ※定員以上の応募があったが、会場を調整して実施した。</p> <p>④2/28(日)「化石教室」 場所:横浜サイエンスフロンティア高校 応募者84人参加者36人(定員40人)高校生19人 内容:古代生物の話、化石発掘、スケッチ、成果発表</p> <p>⑤3/13(日)「プログラミングロボット教室」(午前・午後 2回実施) 場所:横浜サイエンスフロンティア高校 応募者123人参加者37人(定員40人)高校生18人 内容:レゴロボットの組立、プログラミング、発表(すもう大会)</p> <p>【総括】 どの教室も、毎回高校生がテーマに沿った発表や、資料作りなどに工夫を凝らした企画を用意しているため参加者の満足度は高い。高校生にとっても、自らの学びを整理してわかりやすく他者に伝える機会となっている。 また、新たな連携事業として高校生自身の社会参加を推進する事業の来年度試行実施に向けた企画に横浜総合高校と連携し取組んだ。</p> <p>⑥中退や進路未定などのリスクを抱える高校生の支援(横浜総合高校) 多様な課題を抱えながら高校に通う生徒への新規事業の企画を支援機関等と協働で行った。平成28年度から横浜総合高校と連携し試行実施する。</p>		
事業名		困難を抱える青少年のための集団体験活動の実施 わくわく生活体験キャンプ	
日時/回数	8/20(木)～21(金) 1泊2日	場所	横浜市野島青少年研修センター/金沢スポーツセンター
対象	市内の寄り添い型支援事業に参加する小中学生	参加者	13人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守る、場に応じた行動をする、といった生活する上での規範意識を身につける。 ・仲間と協力して取組むことの大切さに気づき、協力・協調するための人間関係を築く力を育む。 ・日常生活ではできない体験機会を提供する。 		
実施内容	<p>集団での調理や宿泊体験を通じた生活訓練、社会体験プログラムを実施した。</p> <p>【連携】 鶴見区、保土ヶ谷区、旭区、泉区、瀬谷区の寄り添い型支援事業、及び事業の運営法人 ※当日の参加は、西区、鶴見区</p> <p>【協力団体】 ※プログラム講師として 横浜金沢カヌークラブ 鶴見区NPO法人あしほ</p> <p>【事前準備】 ・研修センターとの打合せ(プログラムや利用の調整) ・他の寄り添い型支援施設との調整</p> <p>【当日】 1日目:食材買出し～野外炊事～ナイトウォーク・花火～入浴～就寝 2日目:調理実習～カヌー体験～流しそうめん</p> <p>※当事業は、よこはまユースの特定寄附金を財源に実施した。 ・特定寄附金額:81,000円</p>		

平成27年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

総務課総合評価:c 24/40 60%

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分	事業区分全体評価		次年度 方針 (※)	第2次評価会議における意見	総合評価コメント
	ランク	得点 (30点満点)			
D その他 法人目的 達成のため の事業	c	10/20 (50%)	②	<ul style="list-style-type: none"> ・「爆笑！濱っ子寄席」は、実行委員会の意見をもとに、広報の工夫や共同主催者である「横浜中法人会」との連携体制強化に努め、成果を挙げた。 ・法人運営に関する報告や法人事業の取組みなどを、賛助会員、事業協力者や施設利用者に発信することができた。 ・ユースレター発行による効果の検証が課題である。 ・賛助会員の獲得、寄附金の募集の目標達成に向けて、ユースレター発送時に御礼状や振込票を同封することや、陶芸教室での呼びかけるなどの工夫に取組んだ結果、会員数及び寄附金の増が図られた。 ・新春のつどいは、法人を支えて頂いている方々への感謝を表し、関係機関・関係団体、寄附者等の交流・親睦・情報交換を図り、法人をアピールし、寄附金募集の場となっている。 ・法人事業や活動についてのスライドショーを行うなど運営に工夫を凝らしている。 ・法人が実施する研修や、外部研修に職員が参加することで人材育成に取組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主財源の確保については、賛助会員向けの事業や寄附金募集の積極的な呼びかけ、「爆笑！濱っ子寄席」の運営などにより、一定の効果をあげることができた。今後は法人全体が自主財源確保に取組めるような体制を作っていく必要がある。
経営・業務姿勢	b	14/20 (70%)		<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体を常に見渡し、職員育成、管理運営体制の改善に取組んでいる。 ・法人の総合的な評価・検証、取組みへの反映を担う部署が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の屋台骨である庶務・経理など、日常の業務を支える役割を担いつつ、賛助会員及び一般寄附者の拡充を図るための工夫がされている。
総合	c	24/40 (60%)			

評価の目安	評価委員4人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点 (20点満点) 【評価委員】 常務理事、業務執行理事2人、課長職1人	5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施
-------	--	--

総合評価ランク (評価点得点率)	a=85%以上 b=70%~84% c=50%~69% d=40%~49% e=39%以下	評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷評価区分数×20点(満点) (%で表示)
---------------------	---	---

平成27年度 公益財団法人よこはまユース 事業報告

総務課

D：その他法人目的達成のための事業

事業名	青少年育成寄附金募集事業 第55回 爆笑！濱っ子寄席 (収益事業)		
日時/回数	11/13(金)18時30分～21時	場所	関内ホール 大ホール
対象	市民	参加者	787人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・法人事業について企業や連携団体等に対し協理解解を促す。 ・青少年育成事業について理解の促進と、寄附金の充実に図る。 		
実施内容	<p>・市民を対象に、伝統芸能である落語を通じて、楽しみながら青少年育成活動への理解促進と、寄附金を募る機会として寄席を実施した。</p> <p>・実施にあたり、実行委員会を設置して企画運営を行った。</p> <p>・入場料： S席3,500円 A席2,500円 B席1,000円</p> <p>・主催：横浜中法人会、よこはまユース ・共催：こども青少年局、横浜青年会議所 ・協賛企業：44社</p> <p>【後援】 横浜金沢みどりロータリークラブ 横浜港南台ロータリークラブ 横浜みなとみらいライオンズクラブ 横浜南ロータリークラブ 横浜ロータリークラブ</p> <p>【事前準備】 ・実行委員会の開催、出演者の調整と打合せ ・広報(チラシ、インターネット、コミュニティ紙への掲載) ・協賛広告44件</p> <p>【当日】 ・出演者 柳家さん光、ぴろき、三遊亭歌之介、ケーシー高峰、柳家喬太郎、柳家権太楼(出演順) ・チケット販売数 741枚(昨年度 683枚) ・チケット売上金額 2,060,500円(昨年度 1,879,500円) ・当日入場者数 787人(昨年度737人) ※協賛者席を含む ・当日募金額 64,127円(昨年度42,467円)</p> <p>【事後対応】 ・実行委員会での振りかえり、次回開催準備(会場の手配、出演者の調整) ・実行委員会 4回開催(5、7、10、2月) ・収益金 361,842円(昨年度 283,809円)</p>		
事業名	法人の広報・PR よこはまユースレターの発行		
日時/回数	季刊発行(6月下旬、9月下旬、12月中旬、3月下旬：4回)	体裁	A4版、両面カラー印刷
対象	継続寄附者、事業協力者、施設来館者等	部数	各回11,000部(秋号(9月)は12,000部)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・法人活動をPRする。 ・法人活動への関心・理解を深め、寄附金募集効果を高める。 		
実施内容	<p>・法人活動を紹介する情報紙の発行。</p> <p>・法人活動を周知する情報紙を作成・配付。 各号とも賛助会員742部、事業協力者92部、施設来館者750部、関係4,992部、区役所360部、地区センター1,600部、市内企業500部、子ども会100部を配布。</p> <p>・夏号11,000部、秋号12,000部(濱っ子寄席配布の為)、冬号11,000部、春号11,000部を発行。</p> <p>※法人全体で各施設事業のPRと抱き合わせたことで、経費・労力の節減につながり、かつ、法人運営や各事業の取組みなどを幅広く市民に周知することができた。</p> <p>・通常の活動の他、寄附金等の活用実績及び報告も行いPRした。</p>		
事業名	法人の広報・PR 法人ホームページの維持・管理		
日時/回数	通年		
対象	青少年育成に興味がある多数の閲覧者	アクセス数	270,057件(サーバービジット数)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体の広報戦略の一環としてインターネットを活用しさまざまな情報を発信する。 ・各施設や部門における事業をアピールし、参加者増加につなげる。 		
実施内容	<p>・実施事業やイベントの告知とレポート掲載</p> <p>・ホームページの情報更新やメンテナンス</p> <p>・求人情報や決算情報等の公開</p> <p>・各施設、部署間の情報連携による広報の相乗効果を生み出す</p> <p>・多様な閲覧者への積極的な対応</p> <p>・アクセス数向上対策の実施</p> <p>・各施設や部署における実施事業及びそのレポートを随時掲載する。また、その作業を総務課として後押しした。</p> <p>・固定ページにおけるリンクや掲載情報など、web公開からほとんどメンテナンスしていない箇所を見つけ出し、随時修正した。</p> <p>・法人の求人情報や決算情報など、必要な情報を随時公開した。</p> <p>・各施設や部門のweb更新に関する担当者を決め、総務が中心となって連携を図り、施設間の相互リンクやイベント共有等を行った。</p> <p>【年間実績】 ホームページ更新回数(注：事業情報・活動報告の更新回数) ■法人全体460(月平均38.3更新) ・総務部：307(内24キッズクラブ更新290含む) ・施設部：153(育成86、野島33、交流34)</p>		

事業名 賛助会員及び一般寄附者の拡充															
日時/回数	通年	場所	市内全域												
対象	市民														
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・法人活動への関心、理解を促す。 ・青少年育成寄附金募集及び賛助会員の獲得。 														
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附金の管理(経理・運用) ・会員、寄附者データベースの管理 ・よこはまユースレター ・第55回爆笑!濱っ子寄席 ・新春のつどい ・法人イベントを利用した賛助会員の拡大及び寄附金の募集 <ul style="list-style-type: none"> ・賛助会費及び寄附金の入金管理及びデータベースの管理 ・賛助会員及び寄附者の掲載(よこはまユースレター等) ・濱っ子寄席での募金活動及び収益の繰り入れ ・新春のつどいでの募金活動 ・運用活動報告のチラシ作成 ・寄附金募集案内等の発送(目論見書、賛助会員、事業協力者に配布) ・職員向けの寄附募集事業の理解(募金目論見書で職員へ周知)7月実施 ・賛助会員・寄附金状況 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>団体会員</th> <th>個人会員</th> <th>寄附金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27年度</td> <td>134件</td> <td>641件</td> <td>1,829,454円</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>80件</td> <td>427件</td> <td>1,248,917円</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・寄附金受領証明書発行、発送をした。 			年度	団体会員	個人会員	寄附金額	27年度	134件	641件	1,829,454円	26年度	80件	427件	1,248,917円
年度	団体会員	個人会員	寄附金額												
27年度	134件	641件	1,829,454円												
26年度	80件	427件	1,248,917円												
事業名 賛助会員及び一般寄附者の拡充 賛助会員限定 陶芸教室															
日時/回数	11/7(土)、8(日)、22(日)	場所	横浜市青少年交流センター												
対象	賛助会員、一般寄附者	参加者	16人												
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成寄附金募集及び賛助会員の獲得。 ・運営施設を活用したイベントを実施することで、寄附金の使途や成果、実績を賛助会員に確認していただく機会を設け、寄附者の満足度を高める。 														
実施内容	<p>賛助会員を対象とした陶芸教室を実施した。</p> <p>【講師】 須藤義明氏、安楽和彦氏、鳥海正次氏 野島町内会館で陶芸教室主催</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師依頼、講師との打ち合わせ ・チラシの配布 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①初心者向け：11/7(土)13時30分～16時30分 湯のみコース ②経験者向け：11/8(日)13時30分～16時30分 自由創作コース <p>賛助会員の拡充のPR アンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ③11/22(日)13時30分～14時30分 わら掛け(①②とも、同日に作業) <p>【事後対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本焼き ・完成後、引き取り対応 														
事業名 平成28年 新春のつどい															
日時/回数	1/27(木)18時30分～20時	場所	ホテル横浜ガーデン												
対象	賛助会員及び寄附金・事業協力者、関係者	参加者	100人												
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな事業展開を行っている当法人をアピール及び寄附金募集(案内)の場とする。 ・関係機関団体寄附者・法人関係者・法人職員相互の交流・親睦を図り、情報交換の場とする。 ・よこはまユースを支えていただいている方々への感謝の意を表す。 														
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・賛助会・寄附金制度の紹介・報告 ・事業報告 ・賀詞交換、寄附者・関係者・職員相互の親睦 ・感謝状の贈呈 ・アトラクション ・事後の実施状況報告 <ul style="list-style-type: none"> ・スライドショーで、各種事業紹介。 ・立食式パーティーで、賀詞交換、寄附者・関係者の親睦を図った。 ・永年寄附者・事業協力者に対する感謝状の贈呈。 ・贈呈者代表 永年：個人3件、団体1件 事業協力者：個人7件、団体8件 ・施設利用者によるアトラクション：『横浜やっしゃ鯛』、『子やっしゃ鯛』の獅子舞、和太鼓などの伝統芸能の披露を実施した。 ※獅子舞、駒回し(倉谷仙太郎と横浜やっしゃ鯛) 「倉谷仙太郎」と「横浜やっしゃ鯛」：横浜市青少年交流センターで、青少年を対象に太鼓や駒などの日本の伝統芸を指導している。 <p>【事後】</p> <p>「よこはまユースレター」等で実施状況報告し、感謝の意を表すと共に、さらに法人への協力をアピールした。</p>														

事業名	法人職員の人材育成
対象	法人職員(時給職員を除く)
実施内容	<p>《研修》</p> <p>新採用職員研修／業務研修／人権研修、個人情報保護研修／外部研修に参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッズクラブ新規採用指導員研修 7回 延べ20人 ・業務研修(部署毎に随時) 6回 延べ24人 ・人権研修、個人情報保護研修 各部署で実施 時給職員含む職員全員 ・外部研修に参加 34回 延べ47人 <p>《3団体相互事業評価》</p> <p>【実施内容】</p> <p>平成26年度に実施した3団体相互事業評価をきっかけに、子ども・若者支援専門職研究会として、都市規模や事業内容等が類似する団体の職員が集まり、言語化や数値化が難しいとされる、青少年支援関係事業における適切な評価指標や評価フォーマットを探るとともに、青少年支援関係職員に必要とされる専門性や、その養成方法を検討した。</p> <p>※子ども・若者支援専門職養成研究所(平成25～28年度科学研究費補助金)の研究の一環として実施。</p> <p>【連携・協働】</p> <p>奈良教育大学、京都市ユースサービス協会、さっぽろ青少年女性活動協会 他</p> <p>4/14(火)～15(水) 第1回 横浜開催 1/10(日)～11(祝) 第2回 京都開催 2/13(土)～14(日) 第3回 奈良開催</p> <p>※職員3人が各地で実施された研究会に参加した。</p>

平成27年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

放課後事業課総合評価:c 51/80 64%

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		事業区分全体評価		次年度 方針 (※)	第2次評価会議における意見	総合評価コメント
		ランク	得点 (30点満点)			
A 青少年活動を支援する事業	え 相談 助言	c	12/20 (60%)	②	<ul style="list-style-type: none"> キッズクラブ転換に向けた、はまっ子ふれあいスクールスタッフが抱えている不安や戸惑いをお互いに共有でき、不安を解消する事業となっている。 地域NPO立ち上げ型キッズクラブの安定運営に向け、法人の運営経験を基に中間支援組織として機能を果たすことができた。 放課後3事業のそれぞれの事業所との情報交換と課題を共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> はまっ子・キッズ交流事業は、放課後キッズクラブへの転換が決まっている、はまっ子ふれあいスクールのチーフパートナーの不安を解消する事業となり、市の放課後児童育成施策推進の一助になっている。 地域NPO立ち上げ型キッズクラブの安定運営に向けた支援に関しては、委託先の評価も高かった。
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座 セミナー 育成	c	11/20 (55%)	②	<ul style="list-style-type: none"> 現場の課題やニーズを、研修企画に活かすことができ、法人が中間支援組織として、どのような支援ができるか考える機会となった。 ボランティア活動の継続的な参加につながる人材を発掘し、青少年を支援する人材の育成につなげる事業となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> スタッフの人材育成、研修は、これまでの放課後キッズクラブ運営を通して蓄積した法人のノウハウを十分に発揮して大変充実した事業になっている。 継続的に放課後児童育成事業に関わるボランティアの発掘、養成には課題が多い。
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験 活動等	b	14/20 (70%)	②	<ul style="list-style-type: none"> 放課後キッズクラブにおいて、評議会、保護者会を開催し、理解と協力を図るとともに、保護者が積極的にキッズクラブの運営に関わる取組みを行った。 主任会議、副主任会議、主任・副主任合同会議を開催し、情報交換等を図った。 他キッズクラブとの交流、地域人材や幅広い年齢層の方との交流の場を積極的に設けることが出来ている。 「子どもを知る」「子どもと一緒に遊ぶ」「子どもを見守る」など、子どもと関わるボランティアを受け入れた。 キッズクラブ運営に必要な事務研修や具体的な事例に基づいた研修を実施した。 平成27年度新規開設(28年3月)2か所(上寺尾及び和泉小学校放課後キッズクラブ)の運営法人に選定された。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣のキッズクラブとの連携モデル事業については、単にノウハウを提供するのではなく、事前に各キッズクラブの意向やニーズを把握した上で企画を進める必要がある。
経営・業務姿勢		b	14/20 (70%)		<ul style="list-style-type: none"> 都筑区からの委託事業や新規開設のキッズクラブの運営法人への応募など、業務に対する積極的な取組みが評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 増加する運営か所数の安定運営と他の運営法人への中間支援組織としての機能発揮の2つの課題にバランス良く取り組んでほしい。
総合		c	51/80 (64%)			

評価の目安	評価委員4人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点 (20点満点) 【評価委員】 常務理事、業務執行理事2人、課長職1人	5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施
総合評価ランク (評価点得点率)	a=85%以上 b=70%~84% c=50%~69% d=40%~49% e=39%以下	評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷評価区分数×20点(満点) (%で表示)

A：青少年活動を支援する事業 え：相談、助言

事業名	はまっ子・キッズ交流事業		
日時/回数	10/23(金)・10/27(火)・10/30(金)10時～12時	場所	笹野台小・浦島小・日吉南小他の各キッズルーム
対象	はまっ子ふれあいスクールチーフパートナー	参加者	36人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「放課後キッズクラブ」への転換に関して、はまっ子ふれあいスクールのスタッフがどんなことに戸惑いを感じているのかを探る。 ・同じ立場のはまっ子ふれあいスクールスタッフ同士、戸惑いや不安を共有する。 ・当法人運営放課後キッズクラブスタッフの自分たちの運営を振り返る機会にする。 		
実施内容	<p>・はまっ子ふれあいスクールスタッフが抱えている、放課後キッズクラブ転換に向けた不安や戸惑いを互いに共有した。</p> <p>・はまっ子ふれあいスクールと放課後キッズクラブの運営内容の違いを確認した。</p> <p>※第1回・第2回の申込み(先着順)が2日で定員に達したため、急遽、追加実施をした(計3回)。</p> <p>※同内容の都筑区受託事業「情報交換会」(2回)、瀬谷区放課後児童育成事業スタッフ研修(共催実施)を同事業実績として位置づけ。</p> <p>【事前周知】 こども青少年局に依頼し、全はまっ子ふれあいスクールへ、メール添付によりチラシを送付。</p> <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各キッズクラブでの日々のスタッフの業務内容や運営について、キッズクラブ主任から説明。 ・はまっ子とキッズ、スタッフ配置、スタッフの業務内容の違いに関するQ&A <p>第1回：10/23(金) 参加者：14人(はまっ子12人、キッズ2人) 浦島小放課後キッズクラブ主任 渡辺晶子 永田小放課後キッズクラブ主任 横山明江</p> <p>第2回：10/27(火) 参加者：12人(はまっ子10人、キッズ2人) 笹野台小放課後キッズクラブ主任 松浦みき 瀬谷さくら小放課後キッズクラブ主任 青木俊太郎</p> <p>第3回：10/30(金) 参加者：10人(はまっ子9人、キッズ1人) 日吉南小放課後キッズクラブ主任 福富由紀子</p> <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※都筑区情報交換会① 権太坂小放課後キッズクラブ主任 山口まき子 氏 折本小放課後キッズ主任 奥田恵子 ※都筑区情報交換会② すすき野小放課後キッズクラブ主任 石崎亮子 ※瀬谷区放課後児童育成事業スタッフ研修 南瀬谷小放課後キッズクラブ主任 大津留宏美 瀬谷さくら小放課後キッズクラブ主任 青木俊太郎 <p>【参考】※参加者数に含めず</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都筑区情報交換会 6/26(金)・12/10(木) 参加者：25人(はまっ子20人、キッズ5人) ・瀬谷区放課後児童育成事業スタッフ研修「放課後キッズクラブを知ろう」 2/24(水)参加者：21人(はまっ子8人、キッズ2人、学童11人) 		
事業名	放課後キッズクラブ移行支援事業 「都筑区放課後キッズクラブ運営NPO法人設立支援等業務」(受託事業)		
日時/回数	派遣支援6回、情報交換会2回	場所	都筑区役所及び都筑区・近隣区の放課後キッズクラブ
対象	はまっ子ふれあいスクール運営委員会・スタッフ		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後キッズクラブの運営経験を活かし、中間支援機能を果たす。 ・放課後キッズクラブへの円滑な移行に向けた必要なノウハウの伝達を行う。 ・放課後キッズクラブの安定的な運営に向けた必要なノウハウの伝達を行う。 		
実施内容	<p>都筑区自主企画事業を受託(受託期間平成28年3/31まで)。</p> <p>都筑区では、平成28年開設キッズクラブ5か所、うち2か所がNPO法人立ち上げ型。</p> <p>【委託内容】</p> <p>地域NPO立ち上げ型放課後キッズクラブへの相談・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO立ち上げ相談、助言 ・放課後キッズクラブ立ち上げに関わる相談、助言 ・放課後キッズクラブ運営に関わる相談、助言 <p>※NPO認定に関することは、市民局市民活動支援課が実施する市指定・認定NPO法人による相談事業を活用</p> <p>【情報交換会①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/26(金)10時～12時、都筑区役所 3階会議室 ・参加者：はまっ子ふれあいスクール6か所 7人 ・放課後キッズクラブ事業概要、はまっ子ふれあいスクールとの違い、NPO法人設立の流れなど <p>【情報交換会②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/10(金)10時～12時、すすき野小キッズルーム ・参加者：はまっ子ふれあいスクール10か所13人 ・常勤職員の事務分担、プログラム、おやつ提供、保護者説明会など <p>【地域NPO立ち上げ型キッズクラブ支援(2法人)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談・支援回数：20件(電話9件、メール5件、訪問・現場見学対応6件) <p>※山口まき子氏(特定非営利活動法人権太坂キッズサポート理事、権太坂小放課後キッズクラブ主任)に、情報交換会、相談対応のアドバイザーを依頼した。</p>		

事業名 放課後事業連携モデル事業 放課後事業合同不審者対応訓練in日吉南小キッズ			
日時/回数	8/3(月)10時~12時	場所	日吉南小キッズルーム
対象	日吉南地区にある放課後3事業に従事するスタッフ	参加者	10人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の放課後事業所間でのネットワークを形成する。 ・地域の放課後事業所間の情報交換、共有をする機会をつくる。 ・不審者に対する意識づけや対応を学ぶ。 		
実施内容	<p>・神奈川県警察港北署スクールサポーターに協力を依頼し、日吉南小キッズで不審者が侵入した場合を想定した対応訓練を実施した。</p> <p>・不審者が入ってこない環境づくりや対応方法を学んだ。</p> <p>・今後も継続して日吉南地区でネットワーク形成事業を実施していく。</p> <p>【講師】 漆原光彦氏 神奈川県警察港北署スクールサポーター</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールサポーターと日吉南小放課後キッズクラブと合同で打ち合わせ ・広報(日吉南・綱島地区の学童2か所・はまっ子3か所・キッズ2か所に電話とFAXで周知) <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入(講師の自己紹介、不審者対応訓練の流れ) ・不審者対応マニュアルDVD鑑賞 ・シミュレーション ・実技(護身術) ・感想共有 <p>【事後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日吉南小放課後キッズクラブ職員と振り返り 		
事業名 放課後事業連携モデル事業 放課後事業合同研修in日吉南小キッズ~要配慮児童との関わり編~			
日時/回数	10/19(月)10時~12時	場所	日吉南小キッズルーム
対象	日吉南地区にある放課後3事業に従事するスタッフ	参加者	21人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の放課後事業所間でのネットワークを形成する。 ・地域の放課後事業所間の情報交換、共有をする機会をつくる。 ・現状の要配慮児童との関わりを見つける。 		
実施内容	<p>・子ども青少年局の巡回相談員に講師を依頼し、相談員のもつ事例の他に参加者から具体的な事例を出してもらって共有し、関わり方について学んだ。</p> <p>・普段交流の少ない3事業同士、特に近隣地域で関係性を作った。</p> <p>【講師】 坪井純一氏 横浜市子ども青少年局巡回相談員(港北区障害児対応担当)</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師との打ち合わせ ・広報(日吉南・綱島地区の学童4か所・はまっ子3か所・キッズ3か所に電話とFAXで周知) <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義(要配慮児童との関わり、健常児とのバランスについて等) ・事例共有 ・情報交換 ・感想共有 <p>◆参加者内訳：21人(7事業所) 日吉南小放課後キッズクラブ(13)、駒林小放課後キッズクラブ(1)、矢上小放課後キッズクラブ(1)、きたつな学童クラブ(1)、駒林学童保育(1)、日吉南学童保育所(2)、太尾第二学童クラブ(2)</p> <p>【事後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師、日吉南小放課後キッズクラブ職員とそれぞれ振り返り 		
事業名 放課後事業連携モデル事業 マジックショー&マジック教室in日吉南小キッズ			
日時/回数	2/13(土)10時15分~11時30分	場所	日吉南小学校 ホール
対象	日吉南地区にある放課後3事業の登録児童	参加者	1事業所
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の放課後事業所間での顔の見える関係を形成する。 ・地域の放課後事業所間の情報交換、共有をするきっかけをつくる。 		
実施内容	<p>・普段交流の少ない3事業同士がつながるきっかけとして、子どもが参加するプログラム(マジックショー)を実施する予定だったが、外部からの参加者はなかった。</p> <p>ゲスト：マジシャン 青木豊氏</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストとの打ち合わせ ・広報(日吉南・綱島地区の学童4か所・はまっ子3か所・キッズ3か所にFAXで周知、はまっ子キッズ連絡会で周知) <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マジックショー ・マジック教室 <p>【事後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日吉南小放課後キッズクラブ職員、ゲストと振り返り 		

事業名	放課後事業連携モデル事業 ネイチャークラフト		
日時/回数	1/30(土)9時30分～11時30分	場所	永田小キッズルーム
対象	永田小放課後キッズクラブ・六ツ川小はまっ子ふれあいスクールの児童	参加者	19人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の放課後事業所間での顔の見える関係を形成する。 ・地域の放課後事業所間の情報交換、共有をするきっかけをつくる。 		
実施内容	<p>・普段交流の少ない3事業同士がつながるきっかけとして、子どもが参加するプログラム(ネイチャークラフト)と交流プログラムを実施した。</p> <p>【講師】 田中真次氏、白木登氏 NPO法人全国森林インストラクター神奈川会</p> <p>【事前】 ・六ツ川・永田台小はまっ子ふれあいスクールに周知。 ・講師との調整</p> <p>【当日】 ・ネイチャークラフトの実施 ・交流プログラム(ネイチャーゲーム)の実施 ◆参加者内訳 参加者19人 永田小放課後キッズクラブ(6) 六ツ川小はまっ子ふれあいスクール(13)</p> <p>【事後】 ・永田小放課後キッズクラブ職員と振り返り</p>		

B：青少年を支える人材を育成する事業 い：講座、セミナー、育成

事業名	放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 放課後事業スタッフカアップ研修①大人も子どもも輝く放課後の秘訣～あなた自身を大切に作る時間～		
日時/回数	7/10日(金)9時30分～11時30分	場所	横浜市青少年育成センター
対象	放課後3事業従事スタッフ	参加者	38人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市の放課後事業に従事するスタッフがスキルアップすることで、放課後事業全体の充実を図る。 ・横浜市主催の研修で実施していない部分を補完する。 ・子どもとの関わりが楽しみになるようリフレッシュ・セルフケアを学ぶ。 		
実施内容	<p>・放課後事業の現場では、大人が自分自身の心身をケアする必要がある。今回は子どもではなく「大人」に焦点をあてた内容で実施した。</p> <p>・セルフケアの方法を知り、毎日楽しく仕事ができるようなワークを行った。</p> <p>【講師】 中本テリー氏 臨床心理学博士、よこはまチャイルドラインスーパーバイザー</p> <p>【事前】 ・周知(6/2受付開始) こども青少年局から周知。</p> <p>【当日の内容】 ・アイスブレイク(肩甲骨ほぐし、かちふにゃ、全員で肩たたきワーク) ・全体でワーク(風船バレー) ・少人数でのワーク(2人1組でマッサージワーク) ・全体でワーク(グーチョキパーのうた) ・4人1組で感想共有 ・触感と香りを体感するワーク(おやつタイム) ・講義(脳の器官とセルフケア) ・全員で一言感想 ◆参加者の事業別内訳：参加者38人(22) ※()内は事業所数 放課後児童クラブ10人(7)、はまっ子ふれあいスクール14人(8)、放課後キッズクラブ14人(7)</p> <p>【事後】 ・アンケート集計、講師と振り返り</p>		
事業名	放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 放課後事業スタッフカアップ研修②不審者をどう防ぐ?防犯&不審者対応研修		
日時/回数	1/29(金)9時45分～11時45分	場所	横浜市青少年育成センター
対象	放課後3事業従事スタッフ	参加者	42人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯に対する意識を高める。 ・不審者侵入時の具体的な対応方法を学ぶ。 ・それぞれの事業所で活かせる訓練の方法を学ぶ。 		
実施内容	<p>・防犯チェックポイント、不審者発見から声掛け、退去までの流れや、現場ですぐに活用できる防犯訓練の手法を体験を交えながら学んだ。</p> <p>【講師】 神奈川県警察(5人)</p> <p>【事前】 ・放課後3事業に、こども青少年局から周知(12/18受付開始)</p> <p>【当日】 ・導入と不審者対応DVD ・不審者を入らせない環境づくりについて ・不審者対応シミュレーション ・護身術 ・さすまた体験 ・質疑応答 ・アンケート記入 ◆参加者の事業別内訳：参加42人(32) ※()内は事業所数 放課後児童クラブ17人(12)、はまっ子ふれあいスクール10人(9)、放課後キッズクラブ15人(11)</p> <p>【事後】 ・アンケート集計</p>		

事業名		放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 横浜市放課後児童育成事業人材育成研修	
日時/回数	4月～3月/全48回	場所	横浜市内の公共施設
対象	放課後3事業従事スタッフ	参加者	2,834人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市放課後3事業において、各事業の目的を達成するために必要な資質を備えた人材を育成する。 本研修の運営をとおして各事業の現場ニーズを把握する。 		
実施内容	<p>横浜市と契約した研修項目について、講師の調達、打合せ、会場確保、資料作成、当日運営等研修に必要な業務を行った。</p> <p>講座終了後は各回の報告と、四半期ごとの報告、最終報告を行った。</p> <p>【事前】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市との打合せ、講師の確保と打合せ、会場及び機材の手配、周知、参加者受入れ準備、資料作成、アンケート作成 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> 会場設営、講師対応、参加者対応(受付、資料配布)、司会進行、記録 <p>【事後】</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート集計、研修報告(各回ごと、中間報告、最終報告) <p>【講座内容】</p> <p>放課後事業の基本、放課後事業の安全管理、児童健全育成論、人権、児童発達理論、児童の健康・衛生管理、食物アレルギー、心肺蘇生法、応急処置法、防災、障害理解、対人援助技術、障害児の受入れと対応(事例検討会)、遊びの技術、表現活動、保護者との関わり、地域との連携、保護者との連携、学校との連携、新任職員の現場実習、おやつ</p>		
事業名		放課後3事業ボランティア研修 放課後キッズクラブボランティア体験	
日時/回数	7/18(土)～8/26(水) 放課後キッズクラブ開設時間中	場所	当法人が運営する放課後キッズクラブ 横浜市青少年育成センター
対象	高校生、大学生	参加者	29人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 放課後キッズクラブへ継続的な参加につながる人材を発掘する。 放課後キッズクラブを学生の職業に対する理解や関心を深める場とする。 参加者自身の適性や未来を考えるきっかけとする。 		
実施内容	<p>高校生、大学生等を対象に活動受入れ先をコーディネートし、参加者の活動と現場の振り返りをフォローした。</p> <p>活動先は当法人が運営する24か所の放課後キッズクラブのうち受入れ可能な放課後キッズクラブで調整した。</p> <p>受入希望クラブ数：20か所 受入クラブ数：9か所 ◆参加者の内訳：参加者29人 高校生24人、大学生5人</p> <p>【事前】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報(横浜市内の高校、大学、専門学校、図書館など149か所に郵送) 事前説明会 7/18(土) 17時～18時30分 参加者：15人 7/21(火) 10時～11時30分 参加者：15人 <p>活動の内容説明、目的理解、キッズクラブの理解、ボランティアの理解、登録票提出、希望調査、注意事項、悩んだときの対応、今後の予定、保護者許可の確認</p> <p>【実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動期間：7/27(月)～8/26(水) 日曜日を除く3日間以上、1回4時間程度子どもと関わり、毎回の振り返りシートの作成 <p>【事後】</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返り交流会：8/22(土) 10時～12時 参加者：14人 体験を通じた感想共有を兼ねた交流会の実施 		
事業名		放課後3事業ボランティア研修 瀬谷さくら小放課後キッズクラブボランティア講師の募集	
日時/回数	7/7(火)、12/17(木)/2回	場所	瀬谷さくら小放課後キッズクラブ 瀬谷さくら小コミュニティ・スクール
対象	瀬谷さくら小コミュニティ・スクールで活動する個人・団体	参加者	講師：1団体15人 事業参加者60人(延べ)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 子育て経験者、主婦、シニア層等と放課後キッズクラブをつなぐ。 放課後キッズクラブ実施校と近隣地域の関わりを密にし、地域連携の足掛かりとする。 新たなプログラムを実施することで、放課後キッズクラブの内容の充実を目指す。 		
実施内容	<p>来年度以降の本格実施に向け、今年度は瀬谷さくら小で試行的に実施した。</p> <p>日常ボランティアではなく、プログラム講師として募集する。</p> <p>・ポスターの掲示 ・チラシの配付</p> <p>青少年以外のボランティアの活用と非常勤職員への雇用を目標に計画し、ポスターの掲示とチラシの配付を行ったが応募はなかった。ポスターからの新規の応募はなかったが、放課後キッズクラブ主任とのつながりでコミュニティ・スクールの利用者を講師にしたプログラムを実施した。</p> <p>実施事業：ウクレレ友遊会(ウクレレコンサート&マジック)</p>		

C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う：体験活動等

事業名	放課後キッズクラブの運営		
日時/回数	通年/24か所	場所	横浜国立小学校内
対象	小学生	利用者	359,841人(24か所延べ)
事業目的	・通いながれている小学校の施設を活用して、すべての子どもたちにとって安全で快適な「放課後の居場所」を提供する。		
実施内容	<p>【放課後キッズクラブ事業】</p> <p>◆通年運営の24か所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人運営24か所の放課後キッズクラブで、在籍児童の50.9%(24か所の平均値)が登録しました。 ・年間で各放課後キッズクラブ月平均約1,249人、総計359,841人が利用し、各放課後キッズクラブで実施したプログラム数は毎月平均約17.5回、年間総計5,053回、延べ110,395人が参加しました。 <p>◆平成28年3月開設の2か所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月開設の2か所の放課後キッズクラブは、在籍児童の43.3%(2か所の平均値)にあたる、計401人が登録しました。 <p>【会議、スタッフ研修等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評議会(運営を客観的に評価・検証するとともに、地域への理解と協力を図ることを目的に、年2回開催) ・保護者会(運営に保護者の意見を反映するとともに、保護者への理解と協力を促すことを目的に、各放課後キッズクラブで年2回以上開催) ・主任会議、副主任会議、スタッフ研修を実施 <p>【放課後キッズクラブの新規拡充】</p> <p>横浜市が平成27年度から5か年かけて実施する放課後キッズクラブ全校転換施策に対応して、平成28年3月開設2か所について、運営法人として選定されました。</p> <p>《平成28年3月開設(2か所)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和泉小放課後キッズクラブ(泉区)、上寺尾小放課後キッズクラブ(鶴見区) 		

【各放課後キッズクラブの状況】 (区名50音順)

区名	学校名 (小学校)	在籍 人数 (人)	登録 人数 (人)	延べ参加 児童数 (人)	プログラム 実施数 (件)	プログラム 参加人数 (人)	主なプログラム
青葉区	すすき野	227	104	6,674	246	3,843	コマ・けん玉/ヨット乗船会/スポーツ鬼ごっこ/キッズ菜園/プラバン/ハンドベル/工作/囲碁将棋/探検ゲーム/手芸/料理/はたおり/海苔づくり体験/人形劇 など
旭区	笹野台	613	352	18,450	328	6,955	スポーツチャンバラ/ドッジボール/スケート教室/あみもの教室/アイロンビーズ/ミサンガ/交流キャンプ/リサイクル工作/ホテル観賞会/海苔づくり体験 など
磯子区	岡村	358	200	11,742	259	4,886	ドッジボール同好会/クラフト/野焼き/親子木工教室/ドミノ/お正月遊び/シャボン玉/手芸/落ち葉を描こう/磯子区作品展(作品:不思議な生き物図鑑)/料理 など
神奈川区	浦島	442	226	13,360	203	3,600	将棋オセロ/3B体操/スポーツ教室/もしかめ検定/カプラ/シャボン玉/映画上映会/ハンドベル/工作/お話し会/プラレール/アイススケートに行こう など
金沢区	瀬ヶ崎	418	213	10,801	167	2,455	ドッジボール/瀬ヶ崎探検隊/卓球/ペーゴマ/3B体操/おいしい研究室/アクセサリー作り/ふれあいまつり/スイーツ作り/フラワーアレンジメント など
	能見台	504	308	13,261	244	3,746	サッカー教室/3B体操/チャレンジデー/オセロ大会/親子木工教室/親子キッズキッチン/海苔づくり体験/アロマ教室/中央公園で遊ぼう/DVD鑑賞会/フラワーアレンジメント など
港南区	港南台第三	283	181	11,803	206	3,965	キッズパズル/キャンドルづくり/デコパージュ/もちつき大会/クワガタ研究会/工作/囲碁・将棋/キッズクラブ探検隊/日本語マスター/お花見ランチ/アイロンビーズ/プラバン/日産工場見学 など
港北区	日吉南	818	382	19,433	192	4,857	キッズバスケ/プラバン/ドッジボール/公園へ行こう/壁面装飾/マジックショー/ビデオテー/キッズ工房/シャボン玉/クリスマスイベント/ビデオ観賞会/横浜FCと遊ぼう など
栄区	飯島	649	325	14,729	404	5,308	プラバン/プチBBQ/粘土工作/ミニミニ運動会/ドッジボール/指編みアクセサリー/野球教室/体操教室/けん玉大会 など
	桜井	344	253	14,805	185	4,795	ドッジボール/プラバン/サッカー教室/バドミントン/パステルアート/囲碁・将棋教室/風鈴づくり/壁面づくり/手話教室/野鳥キャンプ/茶道教室/クリスマス会 など
瀬谷区	瀬谷さくら	437	163	7,915	142	2,774	コマまわし記録会/キッズシアター/アイロンビーズ/折り紙/紙飛行機記録会/ドッジボール/ソフトバレー/すいか割り大会/収穫体験/工作教室 など
	南瀬谷	847	310	15,091	162	6,923	藍染め/アドベンチャールーム/仮装パーティー/段ボール迷路/おはなしポンポン/工作工房/親子クッキング/わくわくクラフト/マジックショー/水鉄砲で遊ぼう/海苔づくり体験 など
都筑区	折本	755	333	19,035	246	3,777	ドッジボール/スポーツチャンバラ/こども会議/将棋/ハロウィンウォーク/茶道体験/キッズ秋祭り/和菓子作り体験/あみもの教室/海苔づくり体験 など
鶴見区	寺尾	678	363	16,794	219	6,097	クライミング体験/トスペース/親子焼き芋体験/フラダンス教室/茶道/切り絵/ヨット乗船会/海苔づくり体験/親子DEキッチン/手芸/料理/餅つき体験/キッズ屋台/ANAメンテナンスセンター見学 など
戸塚区	秋葉	679	450	21,236	299	7,355	スポーツチャンバラ/バドミントン/ドッジボール/大縄跳び/花壇づくり/ショップデー/キッズ緑日/科学実験/編み物/料理/フラダンス/みかん狩り/キャンプ など
	上矢部	711	392	19,701	165	5,161	ドッジボール/アイロンビーズ/写し絵/夏野菜の収穫体験/プラバン/パソコン教室/凧揚げ大会/キッズキッチン/ミサンガづくり/竹とんぼ教室/けん玉大会 など
	名瀬	540	372	17,998	197	7,251	茶道/ドッジボール/サッカー/バドミントン/おやつ工房/DVD鑑賞/キッズ映画館/風船バレー/キッズ工房/囲碁教室/ハロウィン/勾玉づくり/カプラ/かけっこ教室 など
中区	本町	689	302	18,086	152	2,771	クワガタ研究会/ドッジボール/ボードゲーム道場/かんたん工作/どんどこドラマ体験/キッズ交流会/海苔づくり体験/折り紙教室/パネルシアター/探検キッズ/かるた大会 など
西区	宮谷	913	424	22,158	204	5,752	横浜FCと遊ぼう/カプラで遊ぼう/ミュージックスクール/餅つき/水墨画教室/生け花教室/キッズダンス/こどもの国で遊ぼう/スカッドボーイ/3B体操/北海道とうもろこしを食べよう など
緑区	十日市場	692	313	19,395	65	2,065	工作教室/プロレスラーと遊ぼう/横浜FCと遊ぼう/ぬり絵/中学生とサッカーで遊ぼう/工作/バレーボール/グラウンドゴルフ/ペーパークラフト など
	長津田	735	359	18,414	219	6,281	野球教室/ドッジボール/紙芝居/キッズキッチン/ハロウィン/演奏会/絵本ライブ/創作クラブ/キッズシアター/工作/伝統遊び/プラバン など
南区	太田	276	178	10,825	175	3,471	壁画プロジェクト/風船バレー/バドミントン/ドッジボール/手芸・工作教室/人形劇プロジェクト/みかん狩り/アイロンビーズ/おやつ工房/リリアン/プラバン/ボードゲーム など
	永田	528	244	13,204	172	3,144	グランドゴルフ/ドッジボール/折り紙教室/工作/コマづくり/ピンゴ大会/3B体操/読み聞かせ/カプラ/スイーツ工房/DVD鑑賞会/陶芸教室/野球教室/サッカー教室 など
	南	475	177	4,931	202	3,163	読み聞かせ/囲碁指導/クラフト/ドッジボール/魚釣りゲーム/ラジオ体操/短冊に願いを書こう/野球/カタカナピンゴ/プラバン/ハロウィンパーティー/親子キッチン/体を使って遊ぼう など
24か所計		13,611	6,924	359,841	5,053	110,395	

平成27年度 公益財団法人よこはまユース 事業報告

放課後事業課

区名	学校名 (小学校)	在籍 人数 (人)	登録 人数 (人)	延べ参加 児童数 (人)	プログラム 実施数 (件)	プログラム 参加人数 (人)	主なプログラム
泉区	和泉	340	87	471	0	0	
鶴見区	上寺尾	584	314	1,051	14	246	フラダンス/ピース教室/ドッジボールクラブ/アイロンピース/あやとりで遊ぼう/プラバン など
2か所計		924	401	1,522	14	246	※2か所については、3月のみの1か月の集計

【平成 27 年度 放課後キッズクラブ運営法人再選定の結果(平成 18 年度開設 1 か所)】

区	キッズクラブ名	再選定検討会	再選定決定通知
戸塚区	名瀬小放課後キッズクラブ	8/31(月)	9/18(金)

事業名	放課後キッズクラブの拡充	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての子どもたちに放課後の安心・安全な「遊びの場」を提供する。 ・増加する留守家庭児童のうち、必要とする児童に19時までの「生活の場」を提供する。 ・外郭団体として、市の施策推進の一助を担う。 	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度新規開設(平成28年3月)の放課後キッズクラブ3か所の運営法人に応募した。 ・各区の法人選定委員会(プレゼン・ヒアリング)を経て、2か所について、当該区長により運営法人として選定された。 ・はまっ子ふれあいスクールから放課後キッズクラブへ転換にあたり、児童、保護者、学校、スタッフ等の不安軽減とスムーズな転換に取り組んだ。 	<p>【運営法人に選定された放課後キッズクラブ】</p> <p>平成28年3月開設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和泉小放課後キッズクラブ(泉区) ・上寺尾小放課後キッズクラブ(鶴見区)

平成27年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価 青少年育成センター総合評価:c 51/80 64%

(※)①:継続 ②:改善継続 ③:転換 ④:移管 ⑤:休止 ⑥:廃止

事業の柱 / 公益目的事業区分	事業区分全体評価		次年度 方針 (※)	第2次評価会議における意見	総合評価コメント	
	ランク	得点 (30点満点)				
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	c	12/20 (60%)	②	<ul style="list-style-type: none"> 稼働率(2.5%増)、利用料金収入(3.3%増)、利用件数(2.4%増)と微増であった。 教育委員会主催「子どもアドベンチャー」の規模拡大に伴い、その参加プログラムである「きずな夏祭り」(横浜市町内会連合会委託事業)の来場者が大幅な増となった。 施設の利用促進チラシの郵送、講座参加者への施設PRパンフレットの配布など様々な利用促進策を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用料金収入の増を図るため、企業が研修や打ち合わせで利用するケースが増えていることから、平日昼間の一般団体利用の利用促進に向けた取り組みが求められる。
	え 相談助言	c	10/20 (50%)	②	<ul style="list-style-type: none"> 地域の青少年活動や課題を抱えた青少年に関する一次相談窓口として青少年の支援体制に努めたが、継続支援者の相談が減少した結果、対前年度32.4%の減となった。 相談窓口を開設していることを継続的に対外的に発信する必要がある。 助成金情報、講座・研修情報などホームページなどを通じて情報を発信するとともに、間接的に活動支援を行った。 青少年育成に関わる団体のネットワークを形成するため、情報交換を通じて団体相互の理解と活動の充実が図られている。 ネットワークを形成するため、テーマ別に加えて、経験別の情報交換の場を新たに設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを通じて助成金情報や講座・研修情報などの情報提供機能は発揮しつつあるが、相談件数が減少傾向にあり、相談・コーディネート機能の強化やPR活動をさらに推進する必要がある。
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座セミナー育成	b	14/20 (70%)	②	<ul style="list-style-type: none"> 啓発・ステップ、キャリアを意識した研修・フォローアップ研修の体系的な人材育成事業を実施できている。 新規講座を含めた講座・研修の体系化ならびにプログラムの充実化が図られた。また、カリキュラムの工夫や対象者を想定したPR活動等により、参加者数の増につながった。 ユースワーカー・リーダー研修は、マネジメントクラス・リーダーの役割を担う層が共通の課題を共有する機会と研修が少なかったことから、貴重な研修となった。 ユースシンポジウムでは、青少年をめぐる課題についてのテーマを取り上げ、発信することで地域における青少年を支える層の拡大事業となっているが、参加者数に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> フォローアップ講座は、青少年自在養成研修とよこはまユースコーディネーター養成研修の合同開催で実施したが、参加者が少なかった。開催日及び周知方法に課題がある。 困難を抱える青少年や家庭の状況を理解し、潜在的な課題等に気づき、受けとめることができる研修が実施できている。 今日的な「青少年の課題」を把握し、人材育成につながる取り組みを引き続き充実させてほしい。 馬車道カレッジ等、青年を対象とした事業には課題が多いが、他部署との連携を強化し課題解決に取組んでほしい。
経営・業務姿勢	b	15/20 (75%)		<ul style="list-style-type: none"> 研修対象者のニーズを把握するとともに、社会的関心事に関連したテーマを取り上げることで、青少年に関わる人材を育成するという育成センターの中間支援的な機能を発揮することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちよく利用できる施設を維持することが施設の稼働率向上につながる。引続きの円滑な施設運営を期待する。 目標であった人材育成事業の体系化を達成できた。今後はその成果を検証するための取り組みを強化してほしい。 青年を対象とした事業やボランティアに関する事業は、これまでの取り組みを評価・検証し法人全体で改善充実を図る必要がある。 	
総合	c	51/80 (64%)				

評価の目安	評価委員4人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点 (20点満点) 【評価委員】 常務理事、業務執行理事2人、課長職1人	5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施
-------	--	--

総合評価ランク (評価点得点率)	a = 85%以上 b = 70%~84% c = 50%~69% d = 40%~49% e = 39%以下	評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷評価区分数×20点(満点) (%で表示)
---------------------	---	---

A：青少年活動を支援する事業 あ：施設の貸与

事業名	諸室及び物品の貸出																																
日時/回数	通年			場所	横浜市青少年育成センター																												
対象	青少年、指導者・育成者、市民			件数	5,143件																												
事業目的	・いつでも安定的、かつ充実した活動(会議、印刷等)ができる環境を提供することで、青少年育成活動の拠点及び事務所機能を支援する。																																
実施内容	・会議・研修室などの管理運営 ・活動に必要な研修機材の充実 ・空室状況の情報提供(ホームページなど) ・安全に活動に取り組める施設の維持管理 ・出来る限り団体の要望に応えることで、活動を支援する。			【施設管理】 ・会議・研修室等、プリントルーム、着ぐるみの利用受け及び貸出し ・施設衛生管理、維持 ・データベースによる予約管理/利用統計の作成、分析 ・空室情報の提供 ・ピアノ調律2回(5/29、1/26) ・物品(コピー、印刷機、マイクスタンド、プロジェクター)の購入。 【防災・防犯】 ・避難誘導訓練(6/19、3/18)、AED講習会(10/16)の実施。 ・馬車道通信での利用者周知(9月号、避難場所等) ・利用後の部屋点検時での見回り等(毎日) ・中区防災訓練への参加(3/11) ・一時滞在施設システム研修会への参加(2/3) ・防犯研修(2月Co会議) 【施設利用内訳】 ・登録件数：348件 ※青少年：30件/育成者：75件/一般：243件																													
	【過去3年間の利用実績】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>登録者数</th> <th>利用人数</th> <th>利用件数</th> <th>稼働率</th> <th>印刷室</th> <th>着ぐるみ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27年度</td> <td>348件</td> <td>64,686人</td> <td>5,143件</td> <td>75.7%</td> <td>637件</td> <td>27件</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>428件</td> <td>63,054人</td> <td>5,020件</td> <td>74.1%</td> <td>572件</td> <td>36件</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>405件</td> <td>61,121人</td> <td>4,709件</td> <td>69.4%</td> <td>584件</td> <td>39件</td> </tr> </tbody> </table>						年度	登録者数	利用人数	利用件数	稼働率	印刷室	着ぐるみ	27年度	348件	64,686人	5,143件	75.7%	637件	27件	26年度	428件	63,054人	5,020件	74.1%	572件	36件	25年度	405件	61,121人	4,709件	69.4%	584件
年度	登録者数	利用人数	利用件数	稼働率	印刷室	着ぐるみ																											
27年度	348件	64,686人	5,143件	75.7%	637件	27件																											
26年度	428件	63,054人	5,020件	74.1%	572件	36件																											
25年度	405件	61,121人	4,709件	69.4%	584件	39件																											
事業名	利用促進事業 「きずな★夏祭り～町内会祭りの裏がわをウォッチング!～」他																																
日時/回数	8/18(火)・8/19(水)(2日間) ※きずな夏祭り			場所	横浜市青少年育成センター																												
対象	横浜市在住の小学生、中学生とその保護者、団体指導者			参加者	1,173人 ※きずな夏祭り参加者																												
事業目的	【きずな夏祭り】 ・利用促進事業として、閑散期となる8月に、日頃利用の少ない層(保護者や児童・生徒)が気軽に参加できる事業を実施することで、稼働率・利用人数の増加を図るとともに、事業とその広報を通じ育成センターのPRを行う。 ・子どもたちをサポートするボランティアを青少年に体験してもらうことで、ボランティア活動や青少年育成活動に関心を持ってもらう。 【その他利用促進】 ・広報活動を充実し、新規利用者を開拓する。																																
実施内容	①「きずな夏祭り」の実施 ・横浜市教育委員会主催「子どもアドベンチャー2015」の参加プログラムとして実施。 ・共催：横浜市町内会連合会(横浜市市民局) ・共催者と協定を締結し、役割及び責任や活動経費の分担を行った。 ・内容 町内会夏祭りの屋台の体験や、きずなをテーマにした缶バッジ作り、パネル展示等、町内会の活動について考えるプログラム ②利用者向け広報「馬車道通信」の発行 ③新規利用者の開拓 (利用促進チラシの配布や団体連携事業の実施、ホームページの充実等)			①きずな夏祭り ・子どもアドベンチャー公式チラシ(横浜市内小学校全校配布)の他、単独のチラシを西・中・南・保土ヶ谷・磯子・神奈川区の学童・はまっこ・キッズクラブに郵送した。 ・青年ボランティアの募集(夏期ボランティアと合同で高校、大学254か所に郵送、各WEBでの募集) ・事前研修の実施(当日の流れの確認や、危険予知トレーニング他) ・笹野小学校キッズクラブ、寺尾小学校キッズクラブの児童によるキッズボランティア活動。 ・着ぐるみ、研修室の利用促進チラシを配布及びアンケートの回収。 【実施の役割分担】 ・育成センター：受付(B2ロビー)/屋台(第1研修室)、各ボランティアの募集・研修、広報 ・市民局：缶バッジ・町内会パネル展示(第2研修室)/ごみ分別釣りゲーム(第1研修室)/各区マスコットキャラクター塗り絵(ミーティングルーム)/自治会町内会加入促進ブース(B2ロビー) ②「馬車道通信」の発行(毎月) ・口コミでの利用促進を目的に、利用者の活動情報や育成センターからのお知らせを掲載。 ③新規利用者の開拓 ・一般…ホームページで知った利用層(特に企業関係)が多いため、表記を工夫。 ・青少年…きずな夏祭りのボランティア募集時に市内の高校、大学254校にチラシを郵送。 ・育成…「子ども・青少年に関わる活動関係者の大交流会」にてチラシ配布。																													

A：青少年活動を支援する事業 え：相談、助言

事業名	青少年育成に関する相談、ホームページ等を使った情報提供 相談業務(窓口、アウトリーチ)		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年活動者・育成者または青少年、保護者など	利用者	77件
事業目的	・地域の青少年活動や課題を抱えた青少年に関する相談の「一次的窓口」として相談業務を行い、青少年育成活動の支援を行う。		
実施内容	<p>・相談窓口の開設(窓口・電話・メール・出張相談)</p> <p>・スタッフ研修の実施(スキルアップ)</p> <p>①相談窓口の開設(通年) ・相談件数 77件 対応回数152回 1件平均対応回数2回 ・職員による相談対応 ・専門機関等への紹介やコーディネート</p> <p>②相談対応の記録 ・相談傾向の分析によるニーズ・課題等の把握 ・ケース検討</p> <p>③相談対応資料の整理 ・相談機関・支援機関等や相談対応で必要と思われる情報の収集とファイリング</p> <p>④スタッフ研修と情報共有 ・月1回の会議で全体で共有が必要と思われるケースを検討し、情報源や対応の注意点等を確認し、質の向上を図った。 ・5/22(金)「コミュニケーション力を強化する」をテーマに研修を実施 ・12/18(金)「相談対応の流れ」「コミュニケーション」について研修を実施</p> <p>⑤アウトリーチ(出張相談) ・居場所づくりの課題について(鯛ヶ崎プレイパーク、踊場公園こどもログハウス)</p>		
事業名	青少年育成に関する相談、ホームページ等を使った情報提供 ホームページ等を使った情報提供		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年にすでに関わっている・これから関わろうとしている人、青少年		
事業目的	<p>下記3つの目的を果たすことで、地域の青少年育成活動の支援を行う。</p> <p>・青少年や青少年を取り巻く環境に対する関心を喚起する。 ・青少年活動に関わっている、関わろうとしている人にとって有効な情報を手軽に入手できるように情報を整理する。 ・施設や情報スポットの利用促進を図る。 ※ホームページは定期的に更新することを定量的目標とする。新しい情報を発信するとともに、「センターがどの様なところか」「どの様なスタッフがいるのか」を発信することで、間接的な広報(相談しやすい環境等の醸成)を行うこととする。</p>		
実施内容	<p>・ホームページなどを通じて情報を発信し、間接的に活動を支援した。</p> <p>・育成センターを身近に感じてもらうため、青少年を支える人や団体、そしてこれから「青少年の力になりたい」という方たちを応援する施設であることの認知を高めた。</p> <p>※昨年度は、コンテンツ見直しと改善を行うとともに、更新マニュアルの整備などの運営体制を整えた。今年度は、前年度の改善点等を維持し、事業評価やアンケートを反映した見直しを行った。</p> <p>【情報スポット】 情報の収集とホームページ・施設内の掲示板・チラシラックを使った発信 ・助成金、他施設の講座・研修・ボランティアの情報 【月2回以上更新】 ・青少年に関わる時事情報や統計データ 【週1回以上更新】 ・法人内の講座・研修、ボランティア情報【随時】 ※チラシラックを使った発信は随時</p> <p>【Eメールを活用した情報提供】 登録者(講座終了生)に対し、情報を提供【年4回】(メルマガ形式)</p> <p>【施設内の掲示、情報スポット(紙ベース)の充実と見直し】 ＊アンケートを反映 ・より見やすく、手に取りやすいような工夫を随時行った (掲示物の大きさ、案内表示の工夫など)</p> <p>【ホームページコンテンツの充実と見直し】【随時】 ①申し込みフォームを全講座・研修のお知らせに搭載 ②各ページ(情報)にたどり着きやすいような工夫を随時行った ・トップページにボランティア情報をリンク ・講座・研修等の新着情報(目に留まりやすいよう1週間装飾)</p> <p>【コーディネーターの情報収集の整理】 ①コーディネーター会議で、収集状況の共有</p>		

事業名	青少年育成に関わる団体とのネットワーク形成 テーマ型交流会 よこはまユースゼミ		
日時/回数	12月～3月 全4回 毎回19時～20時15分	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成者、青少年活動スタッフ等	利用者	28人(延べ)
事業目的	・情報交換を通じて活動者が課題とする青少年に関するテーマについて知識を深め、活動の充実を図るとともに、ネットワークの形成をはかる。 ※情報交換と交流の機会を持つことを目標とし、講師や事例報告者の発掘も行う。		
実施内容	青少年育成に関わる活動者のネットワークを形成するために、情報交換の場を提供した。今年度は、「課題・関心別のテーマ」と「経験別に必要なスキルや課題」で集まるテーマとの2つの柱を設け、情報・意見交換を行った。 【講師】 ①宮本康子 かもん来塾主任指導員 ②七澤淳子 横浜市青少年育成センター センター長 ③杉野聖子 氏 江戸川大学総合福祉専門学校 専任講師 ④職員が進行 ＊当初、10回程度の実施を予定していたが、講座参加者のニーズを踏まえたテーマ選定をしたところ12月からの4回実施となった。 【内容】 ・テーマ別ゼミ(1、2、4回) テーマに関心がある人を対象 ・経験別ゼミ(3、5回) ＊新規 団体・NPO法人の職員等(初任者～5年目)を対象 【日程/内容/参加人数】 ①12/17(火)「寄り添い型支援の取組み」 <参加者：10人/申込：12人> ②2/24(水)「先輩職員に学ぶ 子ども・青少年を支援する大切な1歩」 <参加者：7人/申込：7人> ③3/9(水)「スタッフ間の情報共有」 <参加者：3人/申込：4人> ④3/15(火)「子ども・若者から見える“わたし”のギャップ」 <参加者：8人/申込：10人>		

B：青少年を支える人材を育成する事業 い：講座、セミナー、育成

事業名	青少年人材養成研修 青少年の居場所づくり講座「中高生との向き合い方」		
日時/回数	7月～9月(全6回)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成者、市民利用施設のスタッフ	参加者	94人
事業目的	・参加者の「青少年との関わり」についての考えが広がる。 ・参加者が青少年の居場所について考え、理解を深める。 ・上記2つを講座の中で達成することで、地域における青少年を支える人材の拡大を目的とする。		
実施内容	全6回の連続講座の中で、さまざまな立場から青少年に関わり続けている人の“実践”を学び、自分のフィールドにあった支援や関わるヒントを見つけていく機会とした。 今年度は、非行傾向にある中高生と地域活動・施設に注目し、講義と現場見学を企画した。 【講師】 ①導入：育成センター職員 ②実践見学・研修： 特別編-1：加賀町警察生活安全課警察官、少年相談・保護センター警察官 特別編-2：中島まり子 氏 「ばあばの家 あさだ」(運営団体：NPO法人ワークスコレクティブたすけあいぐっぴい) テーマ研修①：横浜市寺尾地区センター職員 テーマ研修②：横浜市青少年交流センター職員 ③ふり返り：萩原建次郎 氏 駒澤大学教授 ※意見交換や情報共有をする際に、一人ひとりが十分に発言できる時間を確保することを考え、定員を30人とした。 ※実践見学「ばあばの家 あさだ」は、見学先の規模の関係で定員を10人とした。 【広報】 ・広報先の拡大(チラシ送付先275か所。学校ポスト、川崎市民活動ポータルサイト、藤沢市市民活動推進センター、港北区子育て支援に関わる人のためのブログ、エンパワメントセミナー、大学講師、教授等) 【当日】 ①導入(7/24(金)18時30分～20時) (参加者13人/申込16人) ・講座の趣旨と流れ ・個人ワーク・グループワーク(参加者の抱えている課題を言葉で引き出す) ②テーマ研修・実践見学 ・特別編-1「中高生の姿-問題行動の背景-」(8/5(水)19時～20時30分) (参加者24人/申込32人) ・特別編-2「地域に密着した活動のポイント」 見学先：多世代サロン ばあばの家あさだ(西区)(9/3(木)13時～14時) (参加者10人/申込19人) ・テーマ研修①「市民利用施設に来る“非行傾向の中高生”と向き合って」 見学先：横浜市寺尾地区センター(鶴見区)(8/27(木)18時30分～20時) (参加者13人/申込22人) ・テーマ研修②「中高生との関わり 葛藤と向き合い」 見学先：横浜市青少年交流センター(西区)(9/10(木)18時30分～20時) (参加者20人/申込27人) ③ふり返り講義(9/17(木)18時30分～20時30分) (参加者14人/申込24人) ・研修会の共有及び、講義 【事後】 ・各回終了後、報告をホームページにて掲載		

事業名 青少年人材養成研修 フォローアップ講座			
日時/回数	6/2(火) 9時30分～12時	場 所	横浜市青少年育成センター
対 象	平成26年度居場所づくり講座/ユースコーディネーター養成講座参加者	参加者	5人
事業目的	<p>受講後の振り返りやワークを通じ、研修効果の確認、本講座実施時のニーズ把握 を行うほか、参加者同士が情報交換や課題共有を行うことにより、つながりを支援することで、活動の充実につながるきっかけをつくる。</p> <p>【青少年人材養成研修とユースコーディネーター養成研修 合同開催について】 「青少年人材養成研修」は主に初心者向け、「ユースコーディネーター養成研修」は活動の場を持っている中級者向けと、研修体系で位置づけているが、「地域で青少年に向き合う人材を養成する」という目的は共通している。また、居場所講座は、9月16日から10月28日まで、ユースコーディネーター養成研修が12月3日から28年1月28日までと連続して実施しており、両講座に参加している人もいることから、より多くの参加者が集まり、課題や事例が充実し、より高い研修効果が得られると判断し、合同で実施する。</p>		
実施内容	<p>・受講後の活動や取組み、課題と解決方法について、事例報告をもとにグループワークで共有することで、活動の充実やつながりを作る講座を実施した。</p> <p>【進行】 青少年育成センター職員 【事例報告】：山口麻津子 氏 「港北区地域子育て支援拠点どろっぶ職員」 (運営団体：NPO法人びーのびーの) 平成25年度、26年度と連続して、居場所講座、ユースコーディネーター養成研修に参加しており、事業を通じ地域の課題に先駆的に取り組んでいることから、ゲストスピーカーとして適任と判断した。</p> <p>*昨年度受講者の課題の共有・意見交換が講座の主な目的のため、参加費を無料とした。</p> <p>①アイスブレイク 「今はまっていること」</p> <p>②平成26年度研修の振り返り ・青少年人材養成研修 キーワード集から全5回をふり返った。 ・ユースコーディネーター養成研修 全4回の各回のテーマとポイントを説明した。</p> <p>③インタビュー…活動へのきっかけ、活動内容、研修で得たことなど ・山口麻津子 氏</p> <p>④グループワーク：「課題の共有と解決に向けて"わたしにできること"団体にできること」 ・ワークシートに各自記入後、発表し、全体で解決に向けて話合った。</p> <p>⑤PRタイム 各自が活動・イベントなどの案内をした。</p>		
事業名 青少年人材養成研修 日赤救急法講習会<共催事業>			
日時/回数	①8/23(日) ②9/20(日)～23(水・祝)(全4回)	場 所	横浜市青少年育成センター
対 象	①救急法救急員資格者 ②青少年育成活動に関心のある高校生以上	参加者	139人
事業目的	<p>・怪我や病気が発生した際の応急的な救護方法を学び資格を習得する講習を行うことで、緊急時に対応できる指導者を育成する。</p>		
実施内容	<p>・活動時に怪我や病気が発生した場合の応急的な救護方法を身につける講座を実施した。</p> <p>【共催】 ボーイスカウト横浜みなと地区協議会</p> <p>①救急員資格継続講習会：8/23(日) ・各講習の復習、改訂のあった学科・実技の伝達など ※研修修了者には、救急法救急員の認定証の有効期限を3年間延長 参加者数：39人</p> <p>②救急法救急員養成講習会：9/20(日)、21(月)、22(火)、23(水・祝) ・心肺蘇生法、AEDを用いた救命活動(徐細動)、怪我の手当て(止血法、包帯法、固定法)、搬送法など ※講習修了者には、日本赤十字社より修了証を交付。尚、検定試験合格者には救急法救急員認定証(3年間有効)を交付 参加者数：延べ100人(各回25人)</p>		

事業名	ユースコーディネーター養成研修		
日時/回数	10月～11月(全4回) 9時30分～12時	場所	横浜市青少年育成センター
対象	施設・活動などにおいて子ども・若者と関わりのある人	参加者	239人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 困難を抱える青少年や家庭の状況を理解することで、青少年を支える地域力を高める。 ・ 支援機関や社会的資源等の役割や仕組みについて正しく理解することで、青少年育成支援への関心を高める。 ・ 参加者がそれぞれの取組みや課題を共有し、必要な支援や連携について考えることで、青少年育成活動を充実させる。 		
実施内容	<p>・ 小中学生が日常的に過ごす場や地域において、困難を抱える子どもや家庭の状況について学ぶことで、潜在的な課題等に基づき、受け止めることができる人材を養成した。</p> <p>【講師】</p> <p>①横浜市中央児童相談所 竹内敬一郎 氏 ②横浜市母子家庭等就業・自立支援センター 伊勢俊枝 氏 ③NPO法人SHIP代表 星野慎二 氏 ④臨床心理学博士 中本テリー 氏</p> <p>※6/30(火)実施の発達障がい理解講座(講師：中本テリー氏)の申込みが定員の6倍以上だったため、第4回のみ定員を60人に増員した。</p> <p>①10/15(木)「子どもへの虐待から知る～子ども・家庭の困難と関係機関のつながり～」 ・ グループワーク…事例検討・グループ発表・講師からのコメント (参加者：54人 申込：90人)</p> <p>②10/29(木)「ひとり親家庭の現状と課題」 ・ 講義及び意見交換 (参加者：52人 申込：112人)</p> <p>③11/13(金)「性的少数者(LGBT)の支援現場から～孤立させないために～」 ・ 当事者(高校2年生)の話 ・ グループワーク…性的マイノリティーが暮らしやすくするために (参加者：44人 申込：92人)</p> <p>④11/27(金)「発達障がいの子どもの生き辛さを理解する」 ・ アクティビティ…自己紹介・ジェスチャー (参加者：89人 申込：166人)</p>		
事業名	スキルアップ講座 ユースワーカー基礎講習「記録から始めるチーム力UP」		
日時/回数	5/15(金) 9時～12時30分	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年施設・市民利用施設・青少年に関わるスタッフ	参加者	22人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者が青少年を支える基礎的な知識や技術を学ぶ。 ・ 参加者が基礎的な知識や技術を活用することで、青少年との関わり方について理解を深める。 <p>上記を達成することで、青少年を支える人材の養成を目的とする。</p> <p>【企画意図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度の「グループの力を活用するコツ」から内容・実施時期を見直した ・ 「グループの力を活用するコツ」の講座内容は、ベテランも学べる内容であり、ボランティアや経験の浅い人にとっては難しい内容だったことが、当日の様子とアンケートから伺えたため、対象と内容を絞ることで、講座の目的とする効果を参加者が得られると判断した。 ・ 基礎講習として、どのポイントに内容を絞るかをヒアリングと平成23年度の「記録の取り方」の記録から判断し、決定した。 		
実施内容	<p>青少年支援・活動を充実するために基礎的な知識・技術として「記録」の取り方を中心に学び、記録を活用することで青少年との向き合い方を理解する講座を実施する。</p> <p>【講師】 杉野聖子 氏 江戸川大学総合福祉専門学校 専任教諭</p> <p>“記録の取り方”編</p> <p>【当日】</p> <p>①記録を取る意味を理解する ・ 客観的事実をスタッフが共有することで、青少年の変化を記録に残すことができ、チームで青少年を支援することができる。 ・ ケガ、事故への安全対策ができる。 ・ 知識、活動などの蓄積をすることで組織の強みの積上げになる。</p> <p>②記録を活用した青少年との関わり方と話の聞き方を学ぶ</p> <p>③引継ぎなどで使用できる記録の取り方やその重要性について実践を通して学ぶ</p>		
事業名	スキルアップ講座 広報・記録のためのデジカメ入門講座		
日時/回数	6/23(火) 9時30分～12時30分	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年に関わる活動や団体・施設スタッフ	参加者	45人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルカメラの特性と、広報や記録における効果的な写真の撮り方について理解する。 ・ 実践的な技術を身に付け、活動に活かす。 <p>上記2つについて、講座を通じ参加者が達成できることで、青少年活動の充実を支援する。</p>		
実施内容	<p>・ 事業を効果的に伝える記録・広報写真の撮り方や見せ方などを、デジタルカメラの特性と合わせて学び、技術を身に付け、活動に活かす。</p> <p>・ 参加希望者が多かったため、講師と相談のうえ定員を増員した。</p> <p>【講師】 大向哲夫 氏 株大向カメラ代表取締役、神奈川読売写真クラブ会長、日本写真作家協会元副会長、(株)日本写真協会会員、よこはまユース理事</p> <p>【広報計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報よこはま5月号にお知らせを掲載。 ・ 育成センターの他、横浜市ボランティアセンター、ボラ市民ウェブ、横浜市市民活動支援センターのホームページに掲載。 ・ 横浜市内の施設、青少年支援団体、約300か所にチラシを郵送。 ・ 追加で、6月の「発達障害を理解する」講座のチラシと合わせて広報を行った。 ・ 青少年育成者だけでなく、広い層の参加が期待できる講座のため、さまざまな人が目にする、広報誌やウェブ媒体での広報を行った事で、多くの参加者が集まった。 ・ 『広報力UP講座』として、協賛の「PTA新聞づくり講習会」とも関連づけて、講座に参加し相互に広報を行ったところ、PTA役員からも複数の参加があった。 <p>【当日】</p> <p>①講義：デジカメの特徴、広報や記録に効果的な写真の撮り方 ②フィールドワーク：関内ホール周辺で実際に写真を撮る ③実習：構図の確認、保存の仕方について</p>		

事業名 スキルアップ講座 発達障がい理解			
日時/回数	6/30(火) 9時30分～12時30分	場 所	横浜市青少年育成センター
対 象	子ども・青少年に関わる団体・施設職員、放課後児童育成3事業関係者など	参加者	71人
事業目的	<p>・発達障がいの捉え方、特徴についての知識・理解を深め、発達障害的特徴を持つ子ども・青少年への接し方を学ぶことにより、青少年を支える人材を育成する。</p> <p>【企画意図】発達障がいであると診断を受けていないが、発達障がいの特徴を持っている、いわゆるグレーゾーンの子どものと接することが増えており、対応に苦慮しているという声が研修参加者や利用者から多く聞かれるようになったことを踏まえ、「発達障がい」を今年度のスキルアップ講座のテーマに取り上げる。臨床心理学の専門家から捉え方・特徴を学ぶことで、グレーゾーンの子どものと接している人の支援となる講座を実施する。</p>		
実施内容	<p>・発達障がいの捉え方、特徴についての知識を深め、発達障がいの子どもの生き辛さや育て辛さを理解し、発達障がいの特徴を持つ子ども・青少年への接し方を学ぶ講座を実施した。</p> <p>・非常に反響が大きかったため、講師と相談のうえ定員を増員した。</p> <p>【講師】 中本テリー 氏 臨床心理学博士、よこはまチャイルドラインスーパーバイザー</p> <p>【広報】 ・テーマから考えられる対象者に合わせ、地域ケアプラザ、市民利用施設、子育て支援拠点、青少年支援団体、区役所広報相談係、図書館などにチラシを積極的に送付した結果、定員を大幅に上回る申込みにつながった。 ・こども青少年局を通じて、放課後児童3事業関係者に周知した。</p> <p>【当日】 ・講義・アクティビティ…自己紹介、当事者たちの声から見る発達障がいの特徴、捉え方 ・休憩時間…リフレッシュメントを食べながら参加者同士の交流、質問用紙に記入。 ・講義・アクティビティ…質問への回答・まとめ</p> <p>【事後】 ・7/3(金)当センターホームページに研修報告を掲載。 ・馬車道通信8月号に研修報告を掲載。</p>		
事業名 スキルアップ講座 コーチング入門講座			
日時/回数	11/18(水)、25(水)(全2回) 19時～21時	場 所	横浜市青少年育成センター
対 象	青少年育成活動に関わる方、コーチングに関心のある方	参加者	100人
事業目的	<p>・ロールプレイを通してコーチングの基本的なスキルを身につけ、実際の活動に生かすことで、青少年育成活動を充実させる。</p> <p>・豊かな人間関係を築くためのコミュニケーションスキルとしてのコーチングの基礎理論を学ぶことで、青少年育成への関心を高める。</p>		
実施内容	<p>豊かな人間関係を築き、相手の能力や可能性、やる気を引き出すコーチングの手法を、基礎理論とロールプレイで実践的に学び身につける2回連続講座を実施した。</p> <p>・参加希望者が多かったため、講師と相談のうえ定員を増員した。</p> <p>・参加費は、他団体主催のコーチング講座の参加費を鑑みて、3,000円が妥当と判断した。</p> <p>【講師】 川本正秀 氏 共育コーチング研究会 代表</p> <p>【講座】 ①11/18(水)：「コミュニケーションの基本とコーチング〈スキル〉」 〈参加者：57人〉 ・講義 ・3つの基本的スキルのセッション ・次回までの1週間に取組むこと ②11/25(水)：「コミュニケーションの基本とコーチング〈スキル〉」 〈参加者：43人〉 ・コーチングスキルを実際に使った結果の振り返り ・講師と参加者によるコーチングデモンストレーション ・まとめと質疑応答</p> <p>【研修事後】 ・育成センターホームページに研修報告を掲載。 ・コーチングステップアップ講座への申込者：21人</p>		

事業名 スキルアップ講座 コーチングステップアップ研修			
日時/回数	12/16(水)19時~21時	場 所	横浜市青少年育成センター
対 象	コーチング入門講座受講者	参加者	16人
事業目的	・コーチング入門講座(11月実施)のふり返しを行い、学んだスキルの習熟を図るとともに、新しいスキルを習得し、活動に生かすことで、青少年育成活動をさらに充実させる。		
実施内容	<p>入門講座受講後のふり返しを行い、自分の癖やパターンを見直し、学んだスキルの習熟を図るとともに、コーチングの新しいスキルをロールプレイを通して身につけ、ステップアップを図る講座を実施した。</p> <p>・ロールプレイをスムーズに行い、コーチングの手法を確実に身につけてステップアップできるよう、募集定員を定めた。</p> <p>【講師】 川本正秀 氏 共育コーチング研究会 代表</p>	<p>①入門講座受講後のふり返し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答 ・ふり返りのセッション <p>②新しいコーチングスキルのセッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィードバック ・リクエスト <p>③コーチングセッション基本ステップの復習</p> <p>④質疑応答とまとめ</p>	
事業名 スキルアップ講座 事業企画講座			
日時/回数	1/27(水)9時30分~12時	場 所	横浜市青少年育成センター
対 象	青少年育成団体・施設職員、区民利用施設職員など	参加者	34人
事業目的	<p>・青少年育成のための講座や事業のニーズ把握のために、コミュニケーションの基本「対話力」を身につけ、実際の活動に生かすことで、青少年育成活動を充実させる。</p> <p>・講座や事業を計画するための構想力(現実把握・目標設定・方法選択)を学ぶことで、青少年育成関係者に必要な企画力を身につける。</p>		
実施内容	<p>魅力ある講座や事業を企画するための「対話力」や「構想力」をトレーニングやワークで実践的に学び、身につける講座を実施した。</p> <p>・参加希望者が多かったため、講師と相談のうえ定員を増員した。</p> <p>・参加費は、新規事業のため、参加しやすい価格に設定した。</p> <p>【講師】 佐々木英和 氏 宇都宮大学地域連携教育研究センター准教授 ※地域活性化のための企画づくりを支援し、全国各地の行政、市民向けの講演実績がある佐々木氏を選定した。</p>	<p>①導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5色の付箋紙を使ったワーク <p>②対話力を身につける</p> <p>「聞く・聴く・訊く」のトレーニングをペアワークを通して行い、対話力を身につける。</p> <p>③構想力を身につける</p> <p>事業計画の基本手順「現実把握・目標設定・方法選択」の考え方を学び、実際に体験するワークを通して構想力を身につける。</p>	
事業名 スキルアップ講座 ユースワーカーリーダー研修			
日時/回数	2/16(火)10時~16時	場 所	横浜市青少年育成センター
対 象	青少年育成団体や施設で青少年に関わるマネジメント層	参加者	20人
事業目的	・子ども・青少年にかかわるスタッフを育成する視点(マネジメント等の知識・技術)を学ぶことで、青少年育成団体や施設での青少年育成活動を充実させる		
実施内容	<p>子ども・青少年に関わるスタッフを育成する視点などについて講義とワークを通じて学んだ。</p> <p>・昨年度の「集団活用術」を発展させ、基礎とリーダー向けに分けて実施した。</p> <p>・他講座と比較し専門性の高い内容を習得できるように、研修時間を設定した。</p> <p>【講師】 杉野聖子 氏 江戸川大学総合福祉専門学校 専任教諭</p>	<p>【広報】 対象となる施設や活動(子育て支援拠点、地区センター、青少年活動NPO等)の所属長宛に郵送し、組織研修として位置付けてもらうように働きかけた。県外からの問い合わせがあったことから、東京23区や近隣市の青少年施設にも広報を行った。</p> <p>【当日】</p> <p>①講義 「職員を育てる際の視点、スーパービジョンとは」</p> <p>②ワーク 3グループに分かれ、参加者の抱える問題・課題の共有を模造紙を使って行った。また、他グループの模造紙を見ることで、全体で共有した。</p> <p>②ロールプレイ 3人組、スーパーバイズのロールプレイ</p> <p>③ふり返し・まとめ</p>	

事業名 青少年を支える層の拡大 よこはまユース・シンポジウム			
日時/回数	1/30(土)13時30分~16時30分	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年活動または地域活動に関心のある人	参加者	53人
事業目的	・思春期の子どもが抱えている表面化する前の潜在的なSOS、行動や言葉の奥にある本心にどう気づき、受けとめていくかに焦点をあて、思春期の子ども課題を受けとめている実践者の事例や問題提起から、地域や家庭で思春期の子どもたちを支えるために何が出来るかを考えるきっかけをつくる。		
実施内容	<p>・シンポジウムを通じて、現在の青少年をめぐる課題について発信し、地域における青少年を支える層の拡大を図った。</p> <p>基調講演者、コーディネーターには、長年よこはまチャイルドラインの活動に携わり、電話を通して子どものこころの声を受けとめ、支えている代表理事徳丸のり子氏、パネリストには、横浜市社会福祉協議会職員として寺尾センターで中高生に付き合い、支えている三ツ橋健氏、杉並区立児童青少年センターでさまざまな青少年に関わり、受けとめてきた宮代哲男氏を選定した。</p>		
	<p>第1部</p> <p>(1)基調講演：徳丸のり子氏 (NPO法人よこはまチャイルドライン 代表理事) 「思春期の子どもとどう向き合うか〜心を通わせるために大人ができること」</p> <p>(2)活動報告： ①三ツ橋健氏(前横浜市寺尾地区センター 生活指導員) 「ヤンチャな子どもと向き合って〜行動の奥にあるSOS・本音とは〜」 ②宮代哲男氏(杉並区役所児童青少年課事業係長) 「思春期世代の心に寄り添う〜離れていても心はひとつ〜」</p> <p>第2部</p> <p>(1)パネルディスカッション「地域の大人ができることを考える」 ・参加者からの質問用紙をもとに回答とパネリストの意見交換 コーディネーター：徳丸のり子氏 パネリスト：三ツ橋健氏、宮代哲男氏</p> <p>(2)会場との意見交換</p>		
事業名 青少年を支える層の拡大 馬車道カレッジ			
日時/回数	3/18(金)、25(金) (全2回)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	横浜市周辺に在住在職の社会人(20歳~30歳代)	参加者	16人
事業目的	・ロールプレイやグループ活動を通して、仲間作りや社会参加への自信を身につけさせることで、青少年育成活動の新たな担い手を育成する。 ・仲間作り・社会参加の機会を提供することで、仕事以外の居場所を作り、活動の場を広げるきっかけ作りをおこなう。		
実施内容	<p>「スキル」としてのマナーを学ぶのではなく、ロールプレイやグループワークなど、周囲とのコミュニケーションを取りながら、「思いやりを表現するための所作」という礼儀の考え方を学ぶことで、対人能力に自信を付け、仲間作りや社会参加のきっかけを作る。</p> <p>【講師】 岩間典子氏 日本作法会 *育成センター利用者(青少年育成団体)</p> <p>・参加費：1,500円(2日分) *1回のみは1,000円</p> <p>*当初6回講座を予定していたが、講師と相談し「基礎編」「応用編」の2回とし、気軽に参加できるようにした。</p>		
	<p>【広報活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区センター、図書館、美術館、観光施設等に か所にチラシを郵送 ・育成センターの他、横浜市ボランティアセンター、ボラ市民ウェブ、横浜市市民活動支援センター、ACTiVO、地域ポータルCOM、ジモティーのホームページに掲載。 <p>【当日】</p> <p>①3/18(金)「基礎編」 〈参加者9人〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マナー」の考え方 ・礼について ・面接の受け方(入室から退室まで) ・質疑応答 他 <p>②3/25(金)「ステップアップ編」 〈参加者7人〉</p> <ul style="list-style-type: none"> *基礎編で行った内容や参加者からの質問に応えた ・お茶の出し方 ・名刺の渡し方、受け取り方 ・お礼の仕方 他 		

平成27年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

青少年交流センター総合評価:c 59/100 59%

(※)①:継続 ②:改善継続 ③:転換 ④:移管 ⑤:休止 ⑥:廃止

事業の柱 / 公益目的事業区分	事業区分全体評価		次年度 方針 (※)	第2次評価会議における意見	総合評価コメント	
	ランク	得点 (30点満点)				
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	c	10/20 (50%)	③	<ul style="list-style-type: none"> 閉館を控えて前年度に対して減少となったが、経営方針の目標(70%)は達成(72.7%)した。ただし、青少年の利用が20.5%減少した。 ホームページによる年間事業スケジュール、スタジオの空き情報を配信するなど、利用者の利便性に努めている。 ホームページでの代替事業の案内、登録団体への代替事業案内送付など代替施設移行に向けた準備などを進め、交流センターの閉館など滞りなく進められた。 	<ul style="list-style-type: none"> 代替事業にもこれまでの利用促進のノウハウを継承すること。
	え 相談助言	c	12/20 (60%)	③	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な関わりを通じて、青少年に向き合い、寄り添うロビーワークは、青少年の気持ちや思いを引出すための有効な手法となっている。 青少年育成の活動に取り組む団体が分野を越えてつながり、参加団体間での具体的な連携が生まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ロビーワークは代替事業に継承する大切な手法である。 「青少年の地域活動拠点連絡会」や「横浜・子ども青少年に関わる活動関係者の大交流会」などの運営を通じて、青少年育成に関わる団体や施設のネットワークを構築し、中間支援機能を発揮することができた。
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座 セミナー 育成	c	12/20 (60%)	③	<ul style="list-style-type: none"> 夏期ボランティアは子どもたちとじっくりと関わることで、相互の成長に繋がっている。 青少年と実習生の関わりが、実習生の貴重な学びと、青少年が多様な価値観に触れる貴重な機会となっている。 青少年委員会は、センターの運営に青少年の視点を取り入れる機会となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 青少年委員の育成や社会教育実習生の受入れについては、職員の関わり方を工夫することで、交流センターの人材育成機能を発揮することができた。代替事業では、場所が制限されるため、実習型(体験型)の人材育成の手法を整理することが必要。
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験 活動等	c	10/20 (50%)	③	<ul style="list-style-type: none"> 学習マイブランは、学びの場としてだけでなく、学習支援ボランティアと進路相談や進学後の相談をする機会ともなっている。 青少年ライブは、運営に参加する青少年が担当することで、参加した青少年の達成感や団体間の交流を高めることができた。 利用者発表交流会は、青少年と大人との交流の場となっている。 青少年が「こどもの日」のイベントに企画・運営にボランティアとして関わることを通じて、自主性や協調性を養う場が提供できている。 地域の子どもたちから大人まで幅広い世代が交流し、地域との関係づくりができた。 青少年の表現活動の場づくり事業である陶芸教室は、陶芸作品の制作を通して、ものづくりの楽しさ、表現活動の面白さを体験する機会が提供できている。 社会人仲間作り事業は、共同作業を含めた体験活動を目的としているが、コミュニケーションを図りながら活動できるような展開を検討する必要がある。また、キャンセルが多く、収入が減少したことから事業の再検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習マイブラン」や「青少年ライブ」などの事業については、ボランティアや青少年の参画機会を提供することで、ボランティアや青少年自身の成長を図ることができた。 事業の企画実施ノウハウを代替事業に活かしていくためにも、前年踏襲型の事業ラインナップを見直し、代替事業の提案に基づく事業企画実施に重点を置くこと。
経営・業務姿勢	b	15/20 (75%)		<ul style="list-style-type: none"> 過去の実績に基づいた具体的な提案を行ったことが評価され、代替事業である「青少年の交流・活動支援事業」の実施団体に選定された。交流センターの閉館、代替事業への移行については、行政とのパートナーシップを図りながら、円滑に進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでは、指定管理事業であったものが補助事業として実施していくことになるので、本部補助金事業とのすみ分けや役割の明確化をこれまで以上に意識し取組んでほしい。 	
総合	c	59/100 (59%)				

評価の目安	評価委員4人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点 (20点満点) 【評価委員】 常務理事、業務執行理事2人、課長職1人	5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施
-------	--	--

総合評価ランク (評価点得点率)	a = 85%以上 b = 70%~84% c = 50%~69% d = 40%~49% e = 39%以下	評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷評価区分数×20点(満点) (%で表示)
---------------------	---	---

A：青少年活動を支援する事業 あ：施設の貸与

事業名	諸室及び物品の貸出																																
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年交流センター																														
対象	青少年及び青少年指導者・育成者、その他	件数	11,630件																														
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・利用に関する情報を広く提供し、多くの青少年及び団体に活動の場を提供する。 ・活動団体が安心して研修・会議を運営できるよう、施設の利用環境を整える。 ・できる限り団体の要望に柔軟に応え、多様な活動を支援する。 																																
実施内容	青少年が気軽に安心して過ごすことのできる居場所を提供しました。 また、利用者の要望に合わせた柔軟なサービスを提供しました。	施設の管理運営 <ul style="list-style-type: none"> ・備品の貸出(ラジカセやプロジェクターなどの機材やマーカーなどの文具類) ・活動の相談、コーディネート ・利用予約受付(電話・FAX・メール) ・利用報告書による利用者の声の徴集 ・施設環境の維持・管理(植栽管理、センター内外の安全確認) ・日常及び定期点検・管理・清掃の実施 ・防火防災訓練、点検の実施 																															
	【過去3年間の利用実績】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用可能コマ数</th> <th>利用数</th> <th>稼働率</th> <th>青少年利用</th> <th>青少年利用率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27年度</td> <td>16,008件</td> <td>11,630件</td> <td>72.7%</td> <td>3,323件</td> <td>28.6%</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>15,949件</td> <td>11,770件</td> <td>73.8%</td> <td>4,180件</td> <td>35.5%</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>15,962件</td> <td>10,382件</td> <td>65.0%</td> <td>3,586件</td> <td>34.5%</td> </tr> </tbody> </table>					年度	利用可能コマ数	利用数	稼働率	青少年利用	青少年利用率	27年度	16,008件	11,630件	72.7%	3,323件	28.6%	26年度	15,949件	11,770件	73.8%	4,180件	35.5%	25年度	15,962件	10,382件	65.0%	3,586件	34.5%				
年度	利用可能コマ数	利用数	稼働率	青少年利用	青少年利用率																												
27年度	16,008件	11,630件	72.7%	3,323件	28.6%																												
26年度	15,949件	11,770件	73.8%	4,180件	35.5%																												
25年度	15,962件	10,382件	65.0%	3,586件	34.5%																												
事業名	利用促進事業																																
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年交流センター																														
対象	施設利用希望者	利用者	137,791人																														
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの青少年に居場所及び活動場所を提供する。 ・一般団体にも積極的に利用促進を行い、空き室を有効活用を図る。 ・大人の利用も促進することで、青少年が多様な世代と交流する機会をつくる。 																																
実施内容	利用促進を図るため、広報活動やホームページの改善に取り組んだ。また、新規サービスにより利便性の向上を図った。 ・広報活動(情報発信) ・利用者サービス(利便性)の向上	①広報活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページによる事業開催案内、活動報告の発信(随時) ・近隣小学校(4校)へのイベント案内チラシの全校生徒分の配布 ・青少年向け利用促進(施設PR)事業の実施 ミニゲーム大会(卓球、バスケ、パドミット) 6/22(月)~24(水) 計12人 にしっこフェスタ(西区連携事業) 8/1(土) 10時30分~13時30分 550人 フリースペースにキッズスペースの設置 ②ホームページでの年間事業スケジュールの公開 ③施設情報の配信 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページによるスタジオの空き室情報の配信(毎週1回) 																															
	【過去3年間の利用実績】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用者数</th> <th>青少年数</th> <th>青少年以外</th> <th>フリースペース</th> <th>青少年数</th> <th>青少年以外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27年度</td> <td>137,791人</td> <td>72,411人</td> <td>65,380人</td> <td>22,111人</td> <td>17,374人</td> <td>4,737人</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>146,813人</td> <td>83,550人</td> <td>63,263人</td> <td>31,289人</td> <td>27,081人</td> <td>4,208人</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>150,403人</td> <td>86,741人</td> <td>63,662人</td> <td>37,561人</td> <td>32,247人</td> <td>5,314人</td> </tr> </tbody> </table>					年度	利用者数	青少年数	青少年以外	フリースペース	青少年数	青少年以外	27年度	137,791人	72,411人	65,380人	22,111人	17,374人	4,737人	26年度	146,813人	83,550人	63,263人	31,289人	27,081人	4,208人	25年度	150,403人	86,741人	63,662人	37,561人	32,247人	5,314人
年度	利用者数	青少年数	青少年以外	フリースペース	青少年数	青少年以外																											
27年度	137,791人	72,411人	65,380人	22,111人	17,374人	4,737人																											
26年度	146,813人	83,550人	63,263人	31,289人	27,081人	4,208人																											
25年度	150,403人	86,741人	63,662人	37,561人	32,247人	5,314人																											
事業名	機能継承につながる利用促進																																
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年交流センター																														
対象	施設利用者																																
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな施設への円滑な機能継承と利用促進を図る。 																																
実施内容	青少年にとって必要な居場所機能を継承し、新たな施設においてもその機能を発揮できるよう、新たな施設の機能の検討と円滑な移行と利用促進を図る。 ※こども青少年局と連携	【居場所機能の検討】 利用者意見交換会の実施4/26(日)~4/28(火) 青少年へのヒヤリング4月~5月 【新たな施設に関する情報提供】 ホームページでの代替事業の案内 代替施設(他施設)の案内板の作成、掲示																															

A：青少年活動を支援する事業 え：相談、助言

事業名	日常的な相談、助言		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年交流センター
対象	青少年(小学生～青年期)	件数	相談件数143件
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年に日常的な相談/助言の機会を提供することで、青少年の成長と自立を支援する。 ・青少年のニーズ(潜在的な課題や欲求)を把握して、必要な活動や支援に結び付ける。 ・青少年に活動情報を提供し、青少年が自ら考え、成長していけるよう支援する。 		
実施内容	<p>来館する青少年一人ひとりと継続した関係性を築き、青少年の成長と自立を支えます。また、誰でも気軽に悩みを相談できる環境をつくることで、リスク軽減に向けた早期支援に取組みます。</p> <p>①ロビーワークの実施 日常会話をきっかけに、青少年の潜在的な課題や悩みを引き出しました。ロビーワークの成果を他団体の居場所活動に提供しました。</p> <p>②青少年活動相談 青少年活動に関する相談に対応しました。</p> <p>③その他 ・日誌による情報の記録・共有 ・コーディネーター会議(月1回)による情報交換及びケースの検討 ・学校など関係機関との定期的な情報共有 ・対策会議(少年サポートチーム)の開催 5/12(火) 15時～17時 【相談件数の内訳】 ・学校生活や学習に関する相談件数：30件 ・ボランティア等の体験活動に関する相談：42件 ・閉館に伴う代替場所や代替案に関する相談：71件</p>		
事業名	「青少年の居場所・地域活動拠点連絡会」の運営		
日時/回数	拠点連絡会9/16(水)、大交流会2/11(木・祝)	場所	横浜市青少年交流センター
対象	「青少年の地域活動拠点」など市内で青少年育成に取り組む団体・機関	参加者	104人(拠点連絡会、大交流会参加者合計)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「青少年の地域活動拠点」を中心に、市内で青少年育成に取り組む個人・団体間での情報共有及び連携強化。 ・日常的な青少年の課題に対する理解。 		
実施内容	<p>【拠点連絡会】 「青少年の地域活動拠点」を中心に、横浜市内で「居場所づくり」など青少年育成に取り組む団体・機関の情報共有及び連携強化を目的とした連絡会。</p> <p>【大交流会】(事務局を担当) 世話人(ボランティア)が中心となり、子ども・青少年に関わる活動関係者が、お互いの活動について知り合い、対話を深めることを通して、横浜市内の子ども・青少年支援の基盤となるネットワークの構築することを目的とする。</p> <p>平成27年度は前年度のアンケートでリクエストのあったテーマを実施し、日常的に青少年にかかわるスタッフのスキル及び知識を高め、事例など発表し情報の共有化をはかる。</p> <p>【拠点連絡会】 参加者：24人 日時：9/16(水)10時～12時 場所：横浜市青少年交流センター 501号室 テーマ：青少年の承認欲求とSNS利用 講師：ネットスター株式会社 宮崎豊久氏 ※講演(話題提供)後情報共有</p> <p>【大交流会】(共催実施) 世話人会(準備会)：6/26(金)、10/2(金)、28(水)、12/4(金)、1/29(金)、2/10(水)、3/16(水)</p> <p><当日> 参加者：80人 日時：2/11(木・祝) 10時～16時 場所：横浜市青少年交流センター 501号室</p> <p>【案内文送付先】134件 (連絡会の認知向上のため市内80か所の地区センターを追加) ・青少年の地域活動拠点、地区センター、地域ユースプラザ、青少年相談センター、プレイパーク、ログハウス ・寄り添い型支援事業 ・その他、青少年育成活動団体</p> <p>【大交流会世話人会】 ・プレイパーク、ことぶき青少年広場、横浜国立大学、Y O K E、西部ユースプラザほか</p>		

B：青少年を支える人材を育成する事業 い：講座、セミナー、育成

事業名	ボランティア・社会教育実習生の受け入れ 夏期青年ボランティア		
日時/回数	7/21(火)~8/22(土)14時~17時	場所	横浜市青少年交流センター
対象	横浜市内在学在勤の高校生~24歳まで	参加者	13人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を通じて青少年の協調性や社会性、自主性を育む。 ・青年ボランティアに異年齢間交流の場を提供する。 		
実施内容	<p>夏休み中に来館する子どもたちの遊びや勉強のサポートや、夏休み事業の補助などのボランティア活動。</p> <p>《広報》</p> <p>①法人ホームページに6月初旬掲載 ②チラシ配布 (法人施設3か所、社会福祉協議会等市施設137か所、市内高校及び大学145か所) ※育成C事業と共同で発送</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集チラシ配布による広報活動 ・事前説明会(2回) 7/3(金)18時~19時、7/4(土)14時~15時 ・事前研修会(2回) 7/18(土)11時~12時、8/1(土)11時~12時 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内掲示の更新、フリースペースの図書整理等 ・フリースペース・レクホールでの子どもたちの遊びや勉強のサポート ・夏休み事業(夏祭り・木工教室・料理教室・きもだめし大会)の準備進行補助 ・活動振り返りシート記入 <p>【事後振り返り等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日活動後のグループ単位での活動の振り返り ・事後研修会(8/29(土))活動全体の振り返り(6人) 		
事業名	ボランティア・社会教育実習生の受け入れ 社会教育実習生受け入れ		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年交流センター
対象	社会教育主事課程を履修している学生及び社会教育活動に関心のある学生	参加者	7人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年との交流を通じた研修を提供することにより青少年を支える人材を育成する。 ・青少年の居場所を目的とした社会教育施設への理解を深める。 		
実施内容	<p>社会教育主事課程を履修している学生及び社会教育活動に関心のある学生の実習の受け入れ。</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校及び実習生との事務連絡及び日程調整 ・事前の施設見学及び個別面談の実施 ・個別の実習プログラムの作成 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロビーワーク、受付及び事業の運営補助など実習プログラムの提供 ・青少年など利用者対応、事業の企画・運営、事務取扱などの指導 ・実習日誌のコメント記入 <p>【事後振り返り等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習後の振り返り指導(実習中に感じたことの共有や疑問点の解消) <p>【受入れた大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治大学、駒澤大学、神奈川大学 		
事業名	青少年委員会の運営		
日時/回数	通年(定例会は月1回開催)	場所	横浜市青少年交流センター ほか
対象	横浜市内在住または在学、在勤の中学生から24歳まで	委員数	15人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年による委員会を設置し、センターの管理・運営に青少年の声を反映させる。 ・委員会の運営を通じて、青少年リーダーの育成及び青少年の社会参画の場づくりを行う。 		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの運営に、青少年の視点を取り入れるため、中学生~24歳までの青少年が利用者の意見収集、イベントの企画・運営を行った。 ・研修及び定例会にて、プロフィールシートとテーマを作成。 ・今年度のテーマは、『みらいにつなげる輪』~魅了・楽しむ・居場所~ ・委員募集は横浜市内の中学校・高校・大学を中心に155か所にチラシを配布、募集案内をホームページに掲載。 ・自主企画イベントの周知は、館内ポスター掲示やホームページへの掲載、近隣小学校へのチラシ配布を行った。 <p>①定例会：毎月1回開催 全10回 のべ参加者：95人</p> <p>②研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/5(日) 研修テーマ：「コミュニケーションはキャッチボール」 ・2/20(土)~21(日) 横浜市野島青少年研修センター 一泊二日 今期の活動の集大成として、今後の活動のスキルアップとなるよう、成果・思いを共有することを目的に実施。 <p>③イベントの企画・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わいわいおやつタイム 毎月1回(8月除く)全7回 ・きもだめし大会 8/22(土)17時~19時 ・バスケ大会 7/24(金)14時~17時 ・カードゲーム大会 8/17(月)、12/26(土)13時~16時 ・フットサル教室 9/6(日)、12/6(日)14時~16時 ・ハロウィンパーティー 10/31(土)13時~15時30分 ・もちつき大会 12/13(日)にスタッフ参加 <p>④広報誌作成</p> <p>⑤その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さな親切運動(山下公園清掃)、にしっこフェスタ、野毛山荘まつりに参加 ・ぴおシティの見学 1/20(水)15時30分~16時、委員2人 		

C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う：体験活動等

事業名 青少年支援事業 学習マイプラン(学習支援)			
日時/回数	毎週火曜日 ①小学生16時～18時 ②中学生16時30分～19時(祝日を除く)/53回(個別学習会除く)	場所	横浜市青少年交流センター
対象	小学生～中学生 ※一部、高校生も受け入れ	参加者	253人(参加者合計)、ボランティア254人(述べ)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的な理由などさまざまな事情によって学習に困難を抱えている青少年に対して学びの場を提供する。 ・家庭や学校では出会うことの少ない「大人」との出会いを通して、共に学び成長する機会を提供する。 		
実施内容	<p>学校の勉強についていくのが難しい青少年や学習意欲の低下している青少年を対象に、ボランティアが無料の学習支援を行った。</p> <p>【指導】 学習ボランティア (大学生や、社会人、主婦、シニアなど) ※学習支援ボランティアの中から城山氏をチーフボランティアとして活動の取りまとめ役を任せている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中区、南区のケースワーカーと連携して参加募集の周知を行った。 <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア募集(市内及び近郊の大学、地区センター等へのチラシ配布) ・参加者募集(交流センター周辺の小中学校へのチラシ配布) ・ボランティアの日程調整・事務連絡 <p>【学習会】 毎週火曜日16時～19時 48回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ①事前ミーティング ②勉強室：小学生高学年～中学生向け 181人 みはらし教室：小学校低学年向け 57人 ③振り返り <p>【夏期集中講座】 8/17(月)～21(金) 5回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者 15人 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別学習会の開催(育成センター協働) 		
事業名 活動成果交流事業 青少年ライブ			
日時/回数	12/23(水・祝)13時～18時 「ダンスライブ」 3/13(日)13時～17時 「音楽ライブ」	場所	横浜市青少年交流センター
対象	交流センターを利用している中学生から24歳まで	出演者	18団体
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年に日頃の練習成果の発表機会を提供することで表現力の向上に寄与する。 ・青少年に活動機会を提供することで自主性や協調性を育む。 ・青少年に学校・学年・グループを超えた交流の場を提供する。 		
実施内容	<p>交流センターを利用している中学生以上24歳以下の青少年で、音楽やダンスなどの表現活動を目的としたグループ及び個人を対象に、成果発表会の企画を募集し、その開催を支援する。</p> <p>【企画募集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内掲示、受付での声掛けで主体的に関わる青少年(幹事)を募る ・幹事と打合せ、発表会の要項(日時、会場、内容等)を決定する <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内掲示、受付での声掛けで出演する青少年(出演者)を募る ・打合せ会(3回程度、プログラム・会場デザイン・役割分担等の決定) ・準備会(会場設営準備、装飾物作成、館内掲示物作成等) <p>【前日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場設営、リハーサル、打合せ <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会運営補助(会場・機材・備品の貸出、その他必要な支援) ・発表会終了後の振り返り・交流会 <p>「ダンスライブ」 幹事グループ：SW AG 出演：4団体 参加者54人</p> <p>「音楽ライブ」 幹事グループ：Do物園 出演：14団体 参加者：274人</p>		
事業名 活動成果交流事業 @楽祭(利用者発表交流会)			
日時/回数	10/18(日)13時～17時30分	場所	横浜市青少年交流センター
対象	交流センター利用者	参加	8団体
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢、ジャンルを問わず、すべての利用者を対象とした活動成果発表の場の提供。 ・青少年と大人が、異年齢交流を図る機会の提供。 		
実施内容	<p>交流センター利用者の活動成果発表会。</p> <p>参加費：1団体500円(人数や年齢は問わない)</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出演者、ボランティアの募集 ・10/4(日)、出演者との事前打ち合わせ(6団体参加) <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①当日準備 9時30分～12時 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア打ち合わせ、出演者打ち合わせ、リハーサル、全体飾り付け ②ステージ発表 13時～15時50分 <ul style="list-style-type: none"> ・コーラス4団体、ダンス4団体の発表 ③交流会 16時～17時30分 <ul style="list-style-type: none"> ・全体振り返り会、出演者交流会 <p>【コーラス】 福女こら合唱団、エンジェルズ・コーラス、コール・ダンヘル 男声合唱団、ピカケローズ</p> <p>【ダンス】 クラーク高校チアリーディング部、Smile◎Seed、ぼん'S、前田</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育実習生が司会アシスタントを担当 ・青少年利用者が、開会、閉会の挨拶を担当 		

事業名 地域交流事業 春の催し「こどもの日まつり」			
日時/回数	5/5(火・祝) 12時～15時	場所	横浜市青少年交流センター
対象	未就学児～一般	参加者	416人、ボランティア45人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年に地域の人々と世代を越えて交流する機会を提供し、地域の大人と青少年の顔の見える関係をつくる。 ・青少年がイベントの企画・運営にボランティアとして関わることを通して、自主性や協調性を養う場を提供する。 		
実施内容	<p>・青少年・利用者・地域の方がボランティアやブースの出展者として参加し、青少年が楽しめるお祭りを実施した。</p> <p>・模擬店は実費負担 《協力団体》 青少年指導者クラブ、J：COMいきいきプロジェクト、ばあばの家あさだ、みのり会、風雲かぼちゃの馬車、横浜市立大学鈴木ゼミ学生、コガネックスラボ、ユニマツライフ(物品協力) 《ボランティア》 中学生1人、高校生2人、大学生3人、一般9人、協力団体から30人</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力団体及び協賛団体への依頼、ボランティアの募集 ・広報(近隣小学校へのチラシの配布、ホームページへの掲載) ・事前準備は、職員・コーディネーターが担当した。 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年ボランティアは当日の準備と運営を担当 ・模擬店(ポップコーン、わたあめ、カレーライス) ・クラフトコーナー(カーネーション、スライムづくり) ・お茶会 ・グリーンカーテン講座 ・シャボン玉コーナー ・スポーツ体験(パターゴルフ、スピードガンチャレンジ) ・利用劇団による殺陣ワークショップ ・新聞紙プール ・手作り雑貨販売、子ども服のバザー ・こどもスペース(カプラ、おもちゃスペース、授乳室) <p>【事後振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア全体の振り返り(参加者の様子、ボランティア自身の反省など) 		
事業名 地域交流事業 冬の催し「もちつき大会」			
日時/回数	12/13(日)10時30分～12時(途中で中止)	場所	横浜市青少年交流センター
対象	未就学児～一般	参加者	73人、ボランティア14人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・餅つきを通して、地域の子どもから大人まで幅広い世代が交流する機会を提供し、地域の「顔の見える関係づくり」を促す。 		
実施内容	<p>・餅つきとついた餅の試食を通じて、地域の子どもと大人の交流の場づくりを行った。</p> <p>※嘔吐した児童がいたため、途中でイベントを終了した。</p> <p>・試食用と体験用の臼は別にし、試食用は職員、コーディネーター、青少年委員だけがついた。</p> <p>・作業の際は、全員マスクと使い捨て手袋を着用した。</p> <p>・実施について保健所へ届け出た。</p> <p>・野毛山荘に、ポスターの掲示をお願いした。</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年委員が概要を企画した。 ・きね、臼の整備 ・もち米等食材の購入 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もち米、きね、臼等の準備 ・餅つきの実施 ・餅(試食)の提供 ・参加者アンケートの実施 <p>【事後振り返り等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント終了後に当日のボランティア全員で、振り返りを行った。 		
事業名 体験交流事業 青少年の表現活動の場づくり 陶芸教室			
日時/回数	7/31(金)10時～12時、8/4日(火)10時～14時	場所	横浜市青少年交流センター
対象	小学生～中学生	参加者	15人、ボランティア4人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・陶芸作品の制作を通して、青少年がものづくりの楽しさ、表現活動のおもしろさを体験する機会を提供する。 		
実施内容	<p>夏休み期間に小中学生を対象とした陶芸教室を実施した。</p> <p>【講師】 須藤義明氏 野島町内会館で陶芸教室主催 【チラシ送付先】 ・本町小、戸部小、一本松小、東小、横浜国大附属小、老松中へ全校配布</p> <p>※応募人数が多かったため、少人数で実施する回を追加で2回行った。</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師依頼、講師との打ち合わせ ・チラシの配布、ホームページでの周知による参加者募集 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板作りの技法を用いた陶芸作品の制作 ・アンケートの実施 <p>【事後対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の乾燥(1週間程度)、わら掛け、本焼きを行った。 ・完成後、参加者(保護者)に引き取り依頼の電話連絡 ・引き取り対応 		

事業名 体験交流事業 社会人仲間作り事業			
日時/回数	第1部 6/27、7/25、8/29、9/26 第2部 12/12、2/6 各回土曜日	場所	横浜市青少年交流センター
対象	18歳から39歳までの社会人	参加者	49人(1部、2部の参加者合計)、ボランティア2人
事業目的	・体験活動を通じて、働く若者の仲間作りの機会を提供する。 ・相互の交流を通じて、悩みや課題を軽減できるきっかけをつくる。		
実施内容	<p>共同作業を含めた体験活動を継続することで、働く青少年の交流の場、仲間づくりの場を提供した。</p> <p>【第1部】 ハーブ料理とアロマクラフト教室 【講師】 塚本利花氏 食育アドバイザー、中区民活動センターまちの先生 【広報】 図書館18か所、男女共同参画センター、スポーツセンター、地域活動拠点、幼稚園、青年会議所等</p> <p>【第2部】 アイシングクッキー教室 【講師】 中村実佳氏 アイシングクッキー認定講師 【広報】 過去参加者及び図書館、男女共同参画センター、黄金町アートブックバザールにチラシを送付。</p> <p>【事前準備】 ・講師との打ち合わせ 【当日】 ・食材や材料の下準備、買い出し ・受付 ・講師紹介、自己紹介 ・調理、試食</p> <p>【第1部内容】 ◆ハーブ料理の料理教室とアロマクラフトの教室を交互に開催した。 ◆料理、クラフトの完成後に感想を共有する時間をとり、自然と参加者同士が言葉を交わす機会を作った。</p> <p>【第2部内容】 ◆12月はクリスマスをテーマに、2月はバレンタインをテーマにしたアイシングクッキー作りを行った。(アイシングクッキーとは、砂糖と卵白を混ぜて作ったクリームでクッキーをデコレーションしたもの) ◆作品の完成後に、感想を共有する時間をとり、自然と参加者同士が言葉を交わす機会を作った。</p>		
事業名 体験交流事業 その他交流事業			
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年交流センター
対象	幼児～青少年	参加者	339人、ボランティア11人
事業目的	・青少年が意欲的に取り組むことができる活動の場を提供する。 ・参加者同士、及びボランティアとの交流を図る。		
実施内容	<p>【ふらっとキッズ】 親子音楽体験教室 ※おもちゃのはこ(共催事業)</p> <p>【料理教室】 ピザづくり教室</p> <p>【木工教室】 キーボックス作り ※協働：株式会社ジェイコムイースト横浜テレビ局</p> <p>【音作り講習会】 バンドのパート別講座 ・講師：永松瑛二氏 他</p> <p>【ふらっとキッズ】 対象：未就学児と保護者 日時：4/24、5/22、6/26、7/24、9/25、10/30、11/27、12/18、1/22、2/26 各回金曜日 10時30分～11時30分 参加者：308人</p> <p>【料理教室】 対象：小学生 日時：7/27(月)10時～14時 参加者：10人 参加費：500円</p> <p>【木工教室】 対象：小学生 日時：8/6(木)13時30分～17時 参加者：9人 参加費：900円</p> <p>【音作り】 対象：中高生 日時：8/3(月)、11/7(土) 11時～18時50分 参加者：12人</p>		

平成27年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価 野島青少年研修センター総合評価:c 64/100 64%

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 /公益目的事業区分	事業区分全体評価		次年度 方針 (※)	第2次評価会議における意見	総合評価コメント	
	ランク	得点 (30点満点)				
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	b	16/20 (80%)	①	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進活動の効果が現れ、青少年育成活動や学校の体験学習の利用が増え、稼働率(0.6%)、利用団体数(14.1%)、利用人数(13.5%)ともに増となった。 ・ホームページでの年間活動計画や空室情報の随時更新、閑散期に向けた大学や企業等へ利用促進チラシを配布するなど広報先の拡大を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理、安全対策の利用者への周知、積極的な営業活動、利用しやすい柔軟な施設提供、設備やプログラム充実等の努力が稼働率向上につながり、指定管理提案書の目標31,000人を上回った。
	お 調査、資料収集	c	12/20 (60%)			
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座セミナー育成	d	8/20 (40%)	②	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習やお泊り保育を行う指導者や教員志望の学生にとって、貴重な研修会となっている。 ・自らの体験を通じて知識を習得する機会となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の満足度や学習効果は高かったが、定員に対する充足率が低かった。 ・引き続き企画内容、研修形態の見直しが必要である。
	う 体験活動等	c	13/20 (65%)			
経営・業務姿勢	b	15/20 (75%)	②	<ul style="list-style-type: none"> ・利用団体に、さまざまな体験プログラムを提供するとともに、綿密な事前打合せ会などを通じて利用者の安全の確保に努めたことで、目標を達成できた。 ・昨年度導入したランドリー設備、ケータリングサービスによる利便性・快適性の向上を、稼働率向上につなげてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員に欠員を生じながらも管理運営面での様々な努力により、今期の指定管理最終年の目標値を達成した。 ・今後も利用者目線での管理運営の充実に努めてほしい。 ・ボランティアに関する事業は、これまでの取り組みを評価・検証し法人全体で改善充実を図る必要がある。 	
総合	c	64/100 (64%)				

評価の目安	評価委員4人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点 (20点満点) 【評価委員】 常務理事、業務執行理事2人、課長職1人	5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施
-------	--	--

総合評価ランク (評価点得点率)	a = 85%以上 b = 70%~84% c = 50%~69% d = 40%~49% e = 39%以下	評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷評価区分数×20点(満点) (%で表示)
---------------------	---	---

A：青少年活動を支援する事業 あ：施設の貸与

事業名	施設・設備貸出事業																										
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター																								
対象	20人以上の団体(青少年、青少年指導者・育成者、市民)	利用日数	268日																								
事業目的	・宿泊研修施設として、青少年指導者・育成者の研修活動を支援する。 ・青少年の体験学習・集団活動を通じた青少年育成を図る。																										
実施内容	市内唯一の宿泊型研修施設として、利用者が充実した活動を展開できるよう、事前の打合せや活動の相談・アドバイス、物品の貸出を行った。 ①施設貸出業務 ②施設維持管理業務	①施設貸出業務 ・施設の貸出(宿泊・日帰り) ・利用受付・抽選会の実施(抽選会は月1回、夏期抽選会は5月) ・事前打合せ会の実施(利用日の約1か月前に実施) ・入所式・退所式・代表者会議の実施(利用当日に必ず実施) ・プログラム提供・指導(自然体験プログラム、クラフト、調理実習ほか) ・備品の貸出・設置(研修用備品、体験プログラム備品ほか) ・研修企画の相談・助言(タイムスケジュールやプログラム内容など) ・利用者アンケートの実施 ②施設維持管理業務 ・施設環境の維持・管理(施設修繕・改善、植栽管理、研修センター内外の安全確認) ・施設点検日の実施(点検日：月1回実施、大点検日：3か月に1回) ・日常点検・管理・清掃の実施																									
	【実績比較】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用可能日数</th> <th>利用日</th> <th>稼働率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27年度</td> <td>334日</td> <td>268日</td> <td>80.2%</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>333日</td> <td>265日</td> <td>79.6%</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>333日</td> <td>238日</td> <td>71.5%</td> </tr> </tbody> </table>			年度	利用可能日数	利用日	稼働率	27年度	334日	268日	80.2%	26年度	333日	265日	79.6%	25年度	333日	238日	71.5%								
年度	利用可能日数	利用日	稼働率																								
27年度	334日	268日	80.2%																								
26年度	333日	265日	79.6%																								
25年度	333日	238日	71.5%																								
事業名	利用促進事業																										
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター																								
対象	施設利用希望者	利用者	31,238人																								
事業目的	・利用促進を図る。 ・利用者の利便性向上を図る。 ・新規利用団体の獲得。																										
実施内容	利用促進を図るため、広報活動やホームページの改善に取り組んだ。また、新規サービスにより利便性の向上を図った。 ①広報活動(情報発信) ②利用者サービス(利便性)の向上	【ホームページを活用した情報提供】 ・年間活動計画の掲載 ・利用空き状況の随時更新 【閑散期に向けた大学や企業等への誘致活動】 ・高校・大学を対象に600か所(6月)、学童保育を対象に250か所(12月)、企業を対象に380か所(2月)に利用促進チラシを配布した。 【食事提供や食材発注などのサービス向上】 ・給食提供サービス実施のための申請手続き ・ケータリング会社への調査 【防災対策の強化と発信】 ・災害ボランティアネットワークへの参加 ・ホームページによる避難訓練の活動報告 【28年度小中学校宿泊体験学習の利用促進】 ・市立小・中・特別支援学校503校、県立養護学校60校、私立小・中学校41校、近隣高等学校10校、過去利用のあった学校8校、保育園381園、幼稚園284園に案内を配布した。																									
	【利用状況年間比較】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>団体数</th> <th>利用者数(人)</th> <th>宿泊利用(人)</th> <th>日帰り利用(人)</th> <th>利用料金収入(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27年度</td> <td>736</td> <td>31,238</td> <td>20,206</td> <td>11,032</td> <td>14,936,996</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>645</td> <td>27,516</td> <td>18,624</td> <td>8,892</td> <td>13,060,900</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>582</td> <td>24,656</td> <td>18,852</td> <td>5,804</td> <td>12,956,050</td> </tr> </tbody> </table>			年度	団体数	利用者数(人)	宿泊利用(人)	日帰り利用(人)	利用料金収入(円)	27年度	736	31,238	20,206	11,032	14,936,996	26年度	645	27,516	18,624	8,892	13,060,900	25年度	582	24,656	18,852	5,804	12,956,050
年度	団体数	利用者数(人)	宿泊利用(人)	日帰り利用(人)	利用料金収入(円)																						
27年度	736	31,238	20,206	11,032	14,936,996																						
26年度	645	27,516	18,624	8,892	13,060,900																						
25年度	582	24,656	18,852	5,804	12,956,050																						

A：青少年活動を支援する事業 お：調査、資料収集

事業名	体験プログラムの調査研究 新規体験プログラムの開発・検証		
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	利用団体		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・センター周辺の地域資源を活用した体験プログラムを開発し利用者の体験プログラムの充実を図る。 ・既存プログラムを検証・改善し、提供するプログラムの効果を高める。 		
実施内容	利用者のニーズに対応した新規体験プログラムを開発し、提供した。 ①新規プログラムの開発 ②既存プログラムの検証・改善	【新規プログラムの開発】 <ul style="list-style-type: none"> ・シーグラスを使ったアクセサリー作り(金沢文庫芸術祭にて試行) ・シーグラスを使ったキャンドル台作り(カヌーキャンプ内で試行) ・(株)ポーネルンドと連携した遊具を使った室内プログラムの試行(実施3件) ・館内フォトラリー 【既存プログラムの検証・改善】 <ul style="list-style-type: none"> ・カヌー・いかだ体験の手順書作成 ・体験プログラム集の改訂 ・体験プログラム実施校への事後ヒアリング ・他施設の実施プログラムの訪問調査(3施設) 	

B：青少年を支える人材を育成する事業 い：講座、セミナー、育成

事業名	青少年指導者育成者研修 指導者スキルアップ研修会		
日時/回数	①7/20(月)9時~18時 ②9/19(土)12時30分~20時	場所	横浜市野島青少年研修センター、野島海岸
対象	18歳以上の青少年育成に関わる人、興味のある人	参加者	41人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じた指導ができる力を身に付ける。 ・指導者同士の交流や情報交換を通じて、新たな知識や発見を得る。 		
実施内容	指導者を対象に実践で活用できるスキルを体験的に学ぶ研修会を実施した。 ①水辺の安全講習 ・講師：山田陽治氏 (自然観察指導員・自然体験教育研究会NEES代表) ②レクリエーション講習会 ・講師：横浜市学校レクセミナー(Y SRS)	【事前準備】 <ul style="list-style-type: none"> ・PR、チラシの送付、ホームページ、メールでの告知、保険加入、講師との打ち合わせ <広報> チラシの送付：市内公共施設(148か所)、市内小中高校(550か所)、放課後キッズクラブ、過去研修会参加者、横浜市子ども会連絡協議会 メールでの告知：横浜市学童保育連絡協議会、県青少年センター 【水辺の安全講習(自然あそびのスズメinのじま)】 実施 7/20 参加者 13人 <ul style="list-style-type: none"> ・自然海岸(干潟)での生き物観察 ・発見した生き物でミニ水族館作りと発表 ・身近なもの(ペットボトルなど)を使った救助方法の体験 ・自然の中に隠された危険予知と安全確認の講義とグループワーク 【レクリエーション講習(みんなでつくるうキャンプファイヤーinのじま)】 実施 9/19 参加者 28人 <ul style="list-style-type: none"> ・集いの構成の組み立て方 ・グループごとにレクリエーション創作 ・キャンプファイヤーにてレクリエーション実践 	

C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う：体験活動等

事業名	市民活動団体と協働した体験プログラムの実施 環境保全事業の開催(オールクリーン野島ビーチ)		
日時/回数	7/4(土)、9/26(土)、11/7(土)、2/27(土)	場所	横浜市野島青少年研修センター 野島海岸
対象	青少年～一般	参加者	241人(参加者合計)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 身近なボランティア活動を通して、青少年に環境保護への興味監視を育む機会とする。 研修センターを拠点に活動する市民団体や自治会等とのネットワークを築き、青少年を育む地域作りを行う。 横浜市に唯一残る自然海岸「野島海岸」を広く市民に広報し、研修センター周辺の自然環境の保護を行う。 		
実施内容	横浜に唯一残る自然海岸を守るため、環境保護団体や地元自治会などと協働して年4回ビーチ清掃を行った。 【実行委員会】 よこはまユース、海をつくる会、ガールスカウト神奈川県第53団、こどもエコクラブ野島自然観察探見隊	①野島海岸のビーチ清掃、ゴミの分別と集計、生き物観察会 ※回収したゴミは、横浜市環境創造局の協力を得て処分した。 第1回(7/4) 参加者 33人 第2回(9/26) 参加者143人 第3回(11/7) 参加者 32人 第4回(2/27) 参加者 33人 広報：1回目：野島地域、関係団体等へチラシ配布 2回目：広報よこはま8月号に情報掲載すると共に、市内の公共施設や小中学校、高校、大学へチラシ配布 3、4回目：野島町周辺の公共施設と小中学校及び関東学院・横浜市大・横浜創学館高校へチラシ配布 ②実行委員会の開催 (実施数：2回) ・開催日の決定、予算執行の決定、活動内容の決定など ③開催チラシの作成・広報、参加者管理・受付、保険加入、予算管理 他 ④啓発事業は未実施	
事業名	市民活動団体と協働した体験プログラムの実施 防災イベントの開催		
日時/回数	11/14(土)16時～15(日)10時	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	金沢区在住の小学生とその保護者	参加者	22人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 災害に対する意識及び知識を育てる機会を提供する。 地域団体と協働して、防災宿泊プログラムを企画実施する。 		
実施内容	大規模な災害が発生した場合を想定しての避難生活体験、防災に関する講習・訓練 主催：横浜市金沢区災害ボランティアネットワーク 後援：横浜市役所 広報、事務手続：金沢区社会福祉協議会	【事前準備】 ・横浜市金沢区災害ボランティアネットワークの構成メンバーとして、事業を企画立案 ・募集チラシの配布、センター事業参加者への声掛け ・当日使用する物品の調達 【当日】 1日目 ①段ボールを使用した寝場所(敷居)づくり ②炊飯袋を使用した夕食調理と食事 ③防災についての講義 ・講師：金沢区役所総務課危機管理担当係長 松本宏芳氏 ④クロスロードゲーム(夜間避難訓練は雨の為、中止) 2日目 ①おらほのラジオ体操(石巻の方言によるラジオ体操) ②炊飯袋を使用した朝食調理と食事 ③身近な救急講座 ・講師：金沢区災害ボランティアネットワーク代表 外山薫氏、土田博美氏 参加者：22人(7家族) スタッフ(金沢区災害ボランティアネットワーク・金沢区社会福祉協議会)：12人	
事業名	市民活動団体と協働した体験プログラムの実施 野島カヌー体験教室		
日時/回数	5/9(土)、5/23(土)、6/6(土)9時～12時(3回)	場所	横浜市青少年野島研修センター、野島公園内水路
対象	小学3年生以上	参加者	45人(参加者合計)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 地域団体と協働で体験プログラムを実施することで、地域団体の活動支援をする。 青少年に研修センター周辺の自然環境を活かした体験機会を提供する。 事業を通じて、青少年の体験活動を支える人材を発掘する。 		
実施内容	青少年及び一般を対象とした、初心者向けカヌー体験教室 【共催】 横浜金沢カヌー倶楽部 広報手段：当法人ホームページ掲載 ※シーカヤック講習会(6/20予定)は、申込が少なかつたため中止。	【事前準備】 (1)講師との打ち合わせ(プログラム工程表の調整) (2)参加者の集約、保険への加入 (3)活動案内の送付 【プログラム内容】 ①カヌー体験教室 活動時間9時～12時 (1)内容：カヌーの乗降・漕ぎ方の講習と実践、野島周辺のツーリング (2)参加費(傷害保険料含む)/1日 18歳未満:1,000円、18歳以上:1,500円 (3)参加者 第1回7人 第2回13人 第3回25人	

事業名 市民活動団体と協働した体験プログラムの実施 自然体験キャンプ(宿泊型)			
日時/回数	①7/4(土)~5(日)、②8/29(土)~30(日)、 ③10/3(土)~4(日) 全3回	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	①②小学3~6年生、③小学3~6年生と保護者	参加者	115人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の豊かな心を育み、身近な自然への興味関心を高める。 ・宿泊体験や集団活動を通じて協調性、社会性を養う。 ・市民団体と協働で実施することで、事業の充実を図るとともに安全性を確保する。 		
実施内容	カヌー体験を中心に、研修センター周辺の自然を活かした1泊2日のキャンプ 【協力】 ・横浜金沢カヌークラブ ・関東学院大学学生支援室	【事前準備・対応】 ・ボランティア事前打合せ会の実施 ・カヌー講師打合せ 【プログラム実施内容】 ①カヌー体験、海の生き物観察、バーベキュー体験、化石レプリカ作り など (参加者：39人) ②カヌー体験、海の生き物観察、夕食作り、ナイトウォーク、いかだ作り体験 など (参加者：37人) ③カヌー体験、海の生き物観察、夕食作り、ナイトウォーク、カプラ、シーグラスクラフト など (参加者：39人) 【事後対応】 ・参加者アンケートの実施 ・ボランティア振り返り	
事業名 困難を抱える青少年のための体験活動の支援 不登校児童生徒の宿泊体験(ハートフルスペース宿泊体験)			
日時/回数	9/24(木)9時~16時 11/26(木)10時~27(金)11時	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	ハートフルスペースに通学または、フリースクールに通う児童	参加者	211人(参加者合計)、ボランティア4人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ハートフルスペース、民間教育施設(フリースクール)に通室している児童、生徒が、体験活動(宿泊)を通じて社会への興味関心を広げる。 ・多くの人と接することによって、自己を見つめ自信を回復し、児童生徒間のコミュニケーションを図る。 		
実施内容	横浜市内4か所のハートフルスペースに通室する児童生徒を対象とした、日帰りプログラムと1泊2日の宿泊体験プログラム。 共催：横浜市教育委員会 マジック講師：青木豊氏 参加フリースクール：大志学園、リーフプロGRESS、フリースクールみなみ ※当事業は、よこはまユースの特定寄附金を財源に実施した。 ・特定寄附金額：83,000円	【日帰りプログラム】 参加者20人 ①日帰りのカヌー体験プログラム 9/24(木)9時~16時 ※雨天の為9/18(金)を順延 【宿泊プログラム】 日帰り85人、宿泊106人 ①研修センターの役割 宿泊だけでなく、日帰りでの参加も可能とし、より多くの生徒が参加できる環境づくり、活動への参加促進を促す。 ②プログラム内容 餅つき、チリメンモンスターを探せ、食事作り、各種レクリエーション、マジック鑑賞、キャンドルファイヤー、クラフト(蜜蝋工作) ③ボランティア募集 研修センターの事業に関わったボランティア中心に公募	

事業名		困難を抱える青少年のための体験活動の支援 障がいのある児童・生徒の宿泊体験(第20回野島クリスマスキャンプ)	
日時/回数	12/12(土)12時30分～13日(日)11時50分	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	横浜市立小中学校個別支援学級の児童・生徒(小5年生以上)	参加者	29組(親子)、ボランティア34人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 生活体験・集団活動の機会を提供し、児童・生徒の成長を図る。 参加するすべての人の交流を図り、障がい児やその保護者への理解を深める。 ボランティア活動の機会を提供し、青少年ボランティアの育成を図る。 		
実施内容	<p>横浜市立小中学校個別支援学級の児童(小5年生以上)・生徒の宿泊体験キャンプ 今年度は第20回を記念し、下記の内容を実施した。</p> <p>①記念誌の作成・発行 ②第15～19回の参加者と保護者を迎えるのキャンドルファイヤー ③記念品の作成・配布(クリアファイル・ハンドタオル) ④第15～19回写真の展示</p> <p>主催：野島クリスマスキャンプ実行委員会 後援：横浜市教育委員会、横浜市立小中学校長会、横浜市PTA連絡協議会、(一財)横浜市安全教育振興会 協賛：(一財)横浜市安全教育振興会、コカ・コーライーストジャパン(株)、神奈川県食肉販売業生活衛生同業組合 協力：日本生命保険相互会社、(株)ジェイコムイースト、横浜テレビ局</p> <p>※当事業は、よこはまユースの特定寄附金を財源に実施した。 ・特定寄附金額：125,000円</p> <p>【事前準備】 ①実行委員及び事務局会の開催(月1回程度) ②当日ボランティアの募集・受付、参加者の受付他事務対応 ③記念誌の作成 ④写真展示の準備と設営</p> <p>【当日】 ①ボランティア事前説明会 日 時：11/11(水)19時～20時30分、11/14(土)13時30分～15時 場 所：青少年育成センター 内 容：障がい児理解についての研修、当日及びふれあいの会の説明 参加者：32人</p> <p>②ふれあいの会 日 時：11/29(日)9時～14時30分 場 所：野島青少年研修センター 内 容：保護者説明会、保護者によるカレー作りと食事 参加者・保護者・ボランティアによるレクリエーションと情報交換 参加者：107人</p> <p>③本キャンプ 日 時：12/12(土)12時30分～13日(日)11時50分 場 所：野島青少年研修センター 内 容 1日目：クリスマスディナー作り、キャンドルファイヤー(協力：横浜市立金沢中学校弦楽部、ハラウオカレイナホヌ代表と生徒)、記念誌と記念品の配布、写真展示 2日目：朝の健康体操、朝食作り、親子活動(クリスマスリースクラフト) 参加者：237人</p>		
事業名		困難を抱える青少年のための体験活動の支援 職業体験活動の受け入れ、支援機関等の支援	
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	中学校及び支援団体	支援	中学校2校、青少年支援団体3団体
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 研修センターの機能を活かし青少年に社会体験の場を提供する。 支援機関等の活動が円滑に進むよう体験活動を支援する。 協調性やコミュニケーション力を養い、社会性や集団活動の向上を図る。 		
実施内容	<p>施設点検日を活用した個別支援学級等の職業体験を受入れた。 また、若者自立支援団体や多文化共生団体の活動の体験活動や交流活動を積極的に支援した。</p> <p>【連携】 横浜市青少年相談センター ことぶき青少年広場 NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ(Me-net)</p> <p>【職業体験実習】 ・西柴中学校1～3年個別支援学級 11/16(月) 3人 食器・研修用品点検 ・金沢中学校2年個別支援学級 2/2(火) 3人 食器点検・クラフト ・新規実施校の促進 近隣の中学校6校の個別支援学級に職業体験活動の受け入れを案内した。 (金沢中学校、西金沢中学校、釜利谷中学校、大道中学校、六浦中学校、追浜中学校)</p> <p>【支援機関等の支援】 ・横浜市青少年相談センター宿泊体験 10/8(木)～9(金) 7人 ・ことぶき青少年広場のカヌー体験 11/1(日) 20人 ・オルタボイスキャンプ 11/7(土)～8(日) 47人</p>		

事業名 ボランティアの養成 ボランティア研修会の実施、プログラム支援ボランティア活動、シニアボランティアの活動支援			
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	高校生以上	参加者	229人(活動人数)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 施設や事業に関わるボランティアを養成し、青少年に体験活動を提供できる人材を育てる。 青少年がボランティアと交流することで、豊かな人間性を育む。 ボランティアが青少年と交流することで、青少年や青少年育成活動への理解を深めてもらう。 		
実施内容	<p>施設運営や提供プログラムの充実を図るために、活動を支えるボランティアを養成した。</p> <p>【協力】 横浜金沢カヌークラブ、海をつくる会、漁師：早川厚一郎氏、関東学院大学学生支援室、野島町内会、童謡の会「帰帆」、溝口榮吉氏</p> <p>①ボランティア研修会 <ul style="list-style-type: none"> 野島クリスマスキャンプボランティア対象の研修会 11/11(水)、14(土) その他の研修会は実施せず、事前説明会・打合せの中でレクチャーした。 次年度実施するボランティア養成プログラムの計画立案、広報先の開拓を行った。 </p> <p>②プログラム支援ボランティア活動 (③のシニアボランティア含む) <ul style="list-style-type: none"> カヌー体験教室：30人 カヌー体験キャンプ：57人(うち、カヌー体験のみ26人) ハートフルスペース：4人 クリスマスキャンプ：34人 野島感謝祭：23人 体験学習支援ボランティア カヌー体験：50人、磯観察・タッチプール：11人、食育ボランティア：20人 </p> <p>③シニアボランティアの活動支援 (②の活動への参加者数) <ul style="list-style-type: none"> 野島感謝祭：5人、磯観察・タッチプール：11人、食育ボランティア：20人 </p>		
事業名 体験プログラムの提供 生き物観察等の自然体験プログラムの提供			
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター、野島海岸
対象	利用団体(主に体験学習の児童生徒)	参加者	98団体(6,675人)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい体験プログラムを提供し、集団活動を通して社会性・協調性を身に付ける。 仲間とふれあう機会、自己発見の機会をつくる。 研修センター独自のプログラムを提供し、利用促進を図る。 		
実施内容	<p>研修センター周辺の自然環境を活用した自然体験プログラムを提供しました。</p> <p>①自然体験プログラムの提供</p> <p>②保険手続き、講師調整等</p> <p>①自然体験プログラムの提供(実施団体、参加者延べ数) <ul style="list-style-type: none"> カヌー体験・・・10団体 660人 イカタ作り体験・・・21団体 1,298人 干潟観察・・・11団体 932人 漁師体験・・・6団体 406人 カニ釣り・・・14団体 828人 ハゼ釣り・・・1団体 5人 タッチプール・・・11団体 1,000人 フォトラリー・・・15団体 1,050人 星空観察・ナイトウォーク・・・7団体 420人 火起こし体験・・・2団体 76人 </p> <p>②保険手続き、講師調整 保険加入(カヌー・いかだ)、行程表作成(カヌー)、講師調整、材料発注・準備</p>		
事業名 体験プログラムの提供 グループワーク等の室内プログラムの提供			
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	利用団体	参加者	101団体(7,466人)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 工作を通じて野島周辺の自然に対する興味・関心を育む。 協調性やコミュニケーション力を養い、グループ作りや集団活動の向上を図る。 雨天時など室内活動の充実を図る。 		
実施内容	<p>利用者の研修活動の充実を図るために、室内で実施できる体験プログラムを提供した。</p> <p>協力：(株)ポーネランド</p> <p>①グループワークプログラム 班単位で課題に取り組み、目標達成のため、話し合いや協力を体験するプログラム <ul style="list-style-type: none"> グループワーク・・・7団体 515人 </p> <p>②クラフト(各100円/個) 所要時間30分～1時間程度の工作 <ul style="list-style-type: none"> バードコール・・・4団体 155人 のじたま・・・4団体 286人 手作りプラネタリウム・・・1団体 108人 化石レプリカ・・・8団体 578人 ちりめんモンスターを探せ・・・8団体 649人 </p> <p>③室内レクなど <ul style="list-style-type: none"> キャンドルファイヤー・・・62団体 4,965人 軽スポーツ(卓球、ドッチビー)・・・4団体 173人 室内遊具運動・・・3団体 37人 </p>		

事業名	体験プログラムの提供 食育(調理実習)プログラムの提供		
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	利用団体(主に体験学習の児童生徒)	参加者	4,502人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団作業を通して社会性・協調性を身につける。 ・ 食、調理への好奇心を高める。 ・ 独自のプログラム提供を行うことで利用促進に繋げる。 		
実施内容	利用者の調理体験活動の推進を図るため、食材の発注や多様なレシピ、調理プログラムを提供した。 ボランティア：童謡の会「帰帆」	【事前準備・打合せ 等】 ①アレルギーの有・無の確認 ②実習工程の調整・確認 ③食材の発注、食材の仕分け、調理器具の準備 【プログラム内容】 ①野島カレー(1人400円)・・・24校、13団体 2,765人 ②250カレー(1人250円)・・・11校、11団体 1,543人 ③おにぎり作り(1人200円)・・・2校 130人 ④餅つき(材料つき1回9,000円)・・・2団体 64人 【アンケートの実施】 ・野島カレー実施団体に調査・・・37団体中、10団体から回答	
事業名	地域連携事業 地域交流事業実施、災害ボランティアネットワーク、防災訓練や敬老会など地域行事への参加・支援、地域ネットワーク会議		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の様々な年代の人が交流する機会をつくる。 ・ 地域と研修センターとの関係性を築く。 		
実施内容	研修センターの取組みの理解を深めるために、地域と交流する事業等を実施した。 【協力】 野島町内会、童謡の会「帰帆」、金沢災害ボランティアネットワーク、金沢文庫芸術祭、海をつくる会	【災害ボランティアネットワークへの参加】 ・毎月第1金曜日の定例会へ参加 ・防災キャンプ 11/14(土)～15(日) 横浜市金沢区災害ボランティアネットワーク、金沢区社会福祉協議会と連携(詳細:P52 防災イベントの開催) 【地域行事への参加】 野島町防災訓練 6/13(土)、9/2(水) 野島町夏祭り 7/12(日)、13(月) 野島町盆踊り 8/8(土) 野島町敬老会 9/21(月・祝) 【地域交流事業】 「研修センター感謝祭」 2/28(日) 参加者94人 ・広報手段：チラシ、ホームページ ・参加者募集：野島町子ども会・野島町内会、乙船町内会等(チラシ回覧) ・ボランティア募集：関東学院大学、横浜市立大学、金沢区内の高等学校	

16 事業の公益性と収益事業について

公益法人認定法第 22 条第 1 項の規定に基づき、当法人の平成 27 年度事業報告書を行政庁へ提出するために定められた書式により、事業の公益性及び収益事業について報告する。

個別の事業内容について

公益目的事業について

事業番号	事業の内容	当該事業の事業比率	
公 1	すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長することができる社会を醸成するとともに、青少年にさまざまな体験機会を提供し、その成長を促す事業	97.8	%

〔1〕事業の概要について

A 青少年活動を支援する事業

A - I 青少年活動を支援するための青少年施設の貸出

この事業は、青少年育成活動を展開する安全で効果的な場を提供することで、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われている青少年の居場所づくり、就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験活動等を企画、実施するための指導者・育成者による打ち合わせや準備、実際の活動の場として施設を提供するとともに、学校や普段の生活の中では体験しにくいバンド活動、演劇、表現活動や集団での宿泊体験活動等の青少年の主体的な活動の場として利用できるよう、できる限り施設利用に関する規則等の制限を設けず広く青少年に提供するために、職員が情報提供や運営補助等の支援を行っています。

事業には、いくつかの種類がありますが、さまざまな活動の場を提供しており、同一です。事業の特色としては、青少年の指導者・育成者の活動拠点(育成センター)、青少年の主体的な活動拠点(交流センター)、青少年の集団宿泊体験活動拠点(研修センター)の機能を有機的に結びつけ、青少年及び青少年の育成を目的としているすべての個人・団体を対象に、活動の場として、施設を安全で効果的に利用していただくために、利用相談や事前打ち合わせ、情報提供を行うとともに、実際の活動中には安全の確保並びに運営補助を職員が行っています。また、施設料は青少年及び青少年の育成を目的としている個人・団体であるすべての人が活動の場として利用しやすい金額に設定しています。

なお、法人が実施するさまざまな青少年育成活動実施のため、横浜市が「横浜市青少年施設条例」により設置している施設(横浜市青少年育成センター、横浜市青少年交流センター、横浜市野島青少年研修センター)を指定管理者として管理運営し、貸し出しています。

これら施設の特徴や利用案内に関しては、施設パンフレット及びホームページに概要を掲載し広く一般に周知しています。

事業の財源は、施設利用料及び横浜市からの指定管理料で構成されています。

《事業の内容(施設の開館日数・利用状況)》

■育成センター

- 開館日数：339日
- 研修室・スタジオ：利用件数 5,143 件(64,686 人)
- スタジオ利用件数：1,635 件
- 印刷室利用件数：637 件
- 物品貸出利用件数：27 件
- 利用促進事業

・「きずな★夏祭り～町内会祭りの裏がわをウォッチング！」：8/18.19、参加者 1,173 人

■交流センター

□開館日数：348 日

□利用状況：青少年 72,411 人（1 日平均 208 人）、青少年以外 65,380 人（1 日平均 188 人）、総計 137,791 人（1 日平均 396 人）

□利用促進事業

- ・ミニゲーム大会：6/22～24、参加者 12 人
- ・にしっこフェスタ：8/1、参加者 550 人

□機能継承につながる利用促進

- ・利用者意見交換会 4/26～28、青少年へのヒヤリング、ホームページでの案内

■研修センター

□開館日数：360 日

□利用可能日：334 日

□利用日数：268 日

□宿泊：団体 442 件（20,206 人）

□日帰り：団体 294 件（11,032 人）

□合計：団体 736 件（31,238 人）

□利用促進事業

- ・大学や企業等への誘致活動：高校・大学、学童保育、企業にチラシを配布
- ・食事提供や食材発注などのサービス向上：給食提供サービス申請他
- ・防災対策の強化と発信：災害ボランティアネットワークへの参加
- ・小中学校宿泊体験学習の利用促進

A - II 青少年活動を支援するための相談・助言・コーディネート【相談事業】

この事業は、青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われている青少年の居場所づくり、就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験活動等に係ることにより青少年自らが学び育つ機会を提供するために相談・助言・コーディネートの支援を行っています。

事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容は同一であり「相談、助言」事業に分類されます。事業の特色としては、活動希望者の経験や希望を踏まえ、活動の内容紹介（活動実施）、活動の企画・運営に関する相談・助言及びボランティアを必要とする団体や施設に、要件を満たす活動希望者の紹介を行っています。これらの相談業務の対象は、青少年及び青少年の育成を目的としているすべての個人・団体を対象としています。

また、情報発信・受付・相談・助言すべての活動を職員により実施し、活動の実施を希望する個人・団体に対し、活動の実施に関する知識・ノウハウ等を提供することで、青少年の実施する活動を実りあるものにするために相談・助言を行っています。

これらの事業内容及び相談窓口に関しては、施設パンフレット及びホームページに概要を掲載し、広く一般に周知しています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料及び補助金並びに一般寄附金から構成されています。

《事業内容》

■育成センター

□青少年育成に関わる相談：相談件数 77 件（通年）

青少年育成活動などに関する問い合わせや相談、青少年に関する市民、青少年からの相談の「一次的窓口」として開設。

月 1 回のコーディネーター会議でケース検討、情報を共有。研修会を 2 回実施。

ホームページ等を使った情報提供

掲示板などを通じて情報を発信。「講座・研修」「助成金」等の情報を提供。登録者に対する情報提供（メルマガ形式）。

■ 交流センター

日常的な相談・助言

- ・ロビーワークの実施：交流スペース利用青少年 22,111 人（通年）
青少年のニーズや課題を引き出すための職員による施設内での日常的な声がけ。
 - ・青少年活動相談：143 件
 - ・少年サポートチーム（対策会議）、学校など関係機関との定期的な情報共有
- 青少年の居場所・地域活動拠点連絡会の運営：2 回、参加者延べ 104 人

A - III 青少年活動を支援するための活動参加型の相談・コーディネート

この事業は、青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われている青少年の居場所づくり、就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験活動等に係ることにより青少年自らが学び育つ機会を提供するため、横浜市内で実施されている活動を継続及び充実していくため職員が活動現場に出向き、活動を企画・実施する指導者・育成者に相談・助言・コーディネートの支援を行っています。

事業には、いくつかの種類がありますが、活動内容はすべて活動参加型で同一であり「相談、助言」事業に分類されます。事業の特色としては、活動組織の構成や規模、活動内容や希望に従い、必要とされる要件を満たすために、事務局業務の補助や活動プログラムの企画への相談・助言、ボランティア（人材）の紹介、人材育成や啓発のための講師の派遣、他の活動団体や機関等のコーディネート等多様な支援を行っています。

これらの業務の対象は、青少年及び青少年の育成を目的としているすべての個人・団体を対象としています。相談・助言業務は、青少年活動に精通した職員が実施し、活動の継続及び充実のための相談・助言を行うほか情報収集や情報共有を図るためのネットワークの構築やその実施内容を資料にまとめホームページに概要を掲載し、希望者に無料で配布しています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料及び補助金並びに一般寄附金から構成されています。

《事業内容》

■ 事業課

知っておきたい！子ども・若者どこでも講座：55 件

地域や学校、青少年育成に携わる市民・団体等が自ら企画・実施する「子ども・若者」をテーマとする講演会や研修会に無料で講師を派遣。

地域の青少年の居場所の活動推進・支援（神奈川・磯子区の地域活動支援）

法人のもつ居場所づくりのノウハウを提供し、活動を推進。利用者合計 34,755 人

地域活動支援事業（相談、助言、活動プランニング）：相談等対応 23 件

■ 放課後事業課

はまっ子・キッズ交流事業：3 回、参加者延べ 31 人

「放課後キッズクラブ」の転換に関して、はまっ子ふれあいスクールのスタッフがどんなことに戸惑いを感じているのかを探り、課題等を共有した。

放課後キッズクラブ移行支援事業：派遣支援 6 回、情報交換会 2 回

都筑区内の都筑区内のはまっ子ふれあいスクールを対象に、放課後キッズクラブへの円滑な移行に向け、必要なノウハウの伝達や情報交換会を実施した。

放課後事業連携モデル事業：4 回

近隣地区にある放課後 3 事業に従事するスタッフを対象に、情報共有の機会や気軽に

相談し合える関係づくりを目的とした研修会やイベントを実施した。

■育成センター

- 青少年育成に関わる団体とのネットワーク形成（よこはまユースゼミ）：全4回、参加者延べ26人
情報交換を通じて活動者が課題とする青少年に関するテーマについて知識を深め、活動の充実を図るとともに、ネットワークの形成をはかった。

A - IV 青少年育成に活用できる活動資源（NPOや企業CSR等の活動）の調査

この事業は、青少年育成活動に活用できる体験活動のリソースを調査し、青少年の育成活動を行っている団体及び小中高校に提供することで、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われているNPOや企業のCSR活動等青少年育成活動や学校の体験学習が連携することで、青少年自らが学び育つ体験活動の領域拡大や活動機会を充実するため、職員が市内の活動を調査し資料を作成しています。

事業の特色としては、年度ごとに社会体験、文化活動、福祉活動、環境保全、国際交流等多様な活動領域の中から調査領域を今年度は福祉活動に定め、主に横浜市内に活動拠点を置くNPOや企業等の活動を調査し、その結果をホームページに掲載しています。また、体験活動の領域だけではなく体験活動に参加し難い課題のある青少年を対象とした体験プログラムの企画・実施に活用してもらえる情報やプログラム開発のための調査・研究に取組み、対象となる青少年の枠を拡大しました。成果がまとまり次第、モデルプログラムや報告書として無料で配布するとともに、ホームページで周知します。なお、提供した情報に関する相談は、青少年及び青少年育成を目的としているすべての個人・団体を対象とし、問い合わせには職員が対応しています。調査・研究業務は職員が主体となって行いますが、専門分野における団体の活動状況や内容等に関しては必要な専門団体等と一緒にしています。

事業の財源は、横浜市からの補助金及び指定管理料並びに一般寄附金から構成されています。

《事業内容》

■事業課

- 活動資源の調査：登録数374件
社会・自然資源を調査・発掘し、ホームページの横浜ユースマップで情報提供
- 研究・活動報告事例集「YOKOHAMA EYE'S」発行：1,500部

■研修センター

- 体験プログラムの調査研究
 - ・新規プログラムの開発（シーグラスを使ったアクセサリー、館内フォトラリー等）
 - ・既存プログラムの検証・改善（カヌー・いかだ体験の手順書作成 等）

B 青少年を支える人材を育成するための事業

B - I 青少年を支える人材を育成するための講座・研修

この事業は、青少年を支える人材を育成することで青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成し、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。青少年及び青少年育成に関する知識や技能を習得することで、青少年育成への理解を深め青少年育成活動の普及を促進し、青少年自らが学び育つ機会を充実するための人材育成を行っています。

事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容はすべて同一であり「講座、セミナー、育成」事業に分類されます。事業の特色としては、日々の青少年育成活動の実践を通じて収集した課題や習得した知識や経験等から職員が青少年育成活動に必要なテーマを検討

し、年間プログラムを企画の上、ホームページ、チラシ、広報等を通じ広く一般に周知し、すべての人が参加可能な講座・研修を実施しています。講座・研修の参加費は無料、教材費や資料代は実費としており、参加しやすい設定にしています。

研修(講師等)は職員が行いますが、専門機関の支援が必要な場合は外部に依頼しています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料及び補助金で構成されています。

《事業内容》

■事業課

□青少年の支援に関わる人材の育成等

- ・子ども・若者エンパワメントセミナー：7/21、参加者 161 人

■放課後事業課

□放課後 3 事業従事スタッフの人材育成、研修の充実

- ・放課後事業スタッフ力アップ研修：2 回、参加者延べ 80 人
- ・横浜市放課後児童育成事業人材育成研修：全 48 回、参加者延べ 2, 834 人

□放課後 3 事業ボランティア研修

- ・放課後キッズクラブボランティア体験：7/18～8/26、参加者 29 人
- ・瀬谷さくら小学校放課後キッズクラブボランティア講師の発掘：全 2 回、参加者延べ 60 人

■育成センター

□青少年人材養成研修《3 講座》

- ・「青少年の居場所づくり講座」：7～9 月（全 6 回）、参加者延べ 94 人
- ・「青少年人材養成研修 フォローアップ研修」：6/2、参加者 5 人
- ・「日赤救急法講習会」：8/23、9/20～23、参加者延べ 139 人

□ユースコーディネーター養成研修

- ・「ユースコーディネーター養成研修」：10～11 月（全 4 回）、参加者延べ 239 人

□スキルアップ講座《7 講座》

- ・「ユースワーカー基礎講習」：5/15、参加者 22 人
- ・「広報・記録のためのデジカメ入門講座」：6/23、参加者 45 人
- ・「発達障がい理解」：6/30、参加者 71 人
- ・「コーチング入門講座」：11/18. 25、参加者延べ 100 人
- ・「コーチングステップアップ研修」：12/16、参加者 16 人
- ・「事業企画講座」：1/27、参加者 34 人
- ・「ユースワーカーリーダー研修」：2/16、参加者 20 人

□青少年を支える層の拡大《2 講座》

- ・「よこはまユース・シンポジウム」：1/30、参加者 53 人
- ・「馬車道カレッジ」：3/18. 25、参加者延べ 16 人

■交流センター

□夏期青年ボランティア：7/21～8/22、参加者 13 人

ボランティア活動を通じて青少年の協調性や社会性、自主性を育む。

□社会教育実習生受け入れ：7 人

社会教育主事課程を履修している学生に実習の場を提供。

□青少年委員会の運営：定例会・研修会等、青少年委員 15 人

委員会活動の中で様々な経験を通して青少年の社会参画を図る。

■研修センター

□青少年指導者育成者研修《2 事業》

- ・水辺の安全講習：7/20、参加者 13 人
- ・レクリエーション講習：9/19、参加者 28 人

C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業

C-I すべての青少年を育むための多様な体験事業

この事業は、青少年が学校や家庭では体験しにくい多様な体験活動に参加することで、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。青少年が体験を通じ自ら感じ考えることで学び育つことができる就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験、宿泊体験等の集団活動体験機会を提供するための体験事業を企画・実施しています。

事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容は同一であり「体験活動」事業に分類されます。事業の特色としては、集団で協力して目標を達成していく過程で青少年が社会性や協調性を育み自ら成長していくことができるよう、集団や個人の特性に応じて活動領域や手法を変え、すべての青少年を対象として職員が企画した体験活動を、ホームページ、事業チラシ、広報等を通じて広く周知し実施しています。実施場所は、横浜市内の公営の青少年施設、野外活動施設等を中心に活用し、参加費は無料、教材費や施設利用料（宿泊費等）は実費としており、青少年が参加しやすい設定にしています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料及び補助金並びに一般寄附金で構成されています。

《事業内容》

■事業課

□寄り添い型支援事業「かもん未来塾」の運営

毎週月水木曜日の12時～20時、火金曜日の12時～21時、登録数：15人

□自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供

・市民団体と協働した体験プログラムの実施：2事業、参加者延べ1,770人

・高校生水源林ボランティア：8/4、参加者94人

・道志村児童受入れ事業：10/8～9（1泊2日）、参加者16人

・市立高校と連携した体験活動の実施：全6回、参加者延べ182人

□困難を抱える青少年のための集団体験機会の実施

・わくわく生活体験キャンプ：8/20～21（1泊2日）、参加者13人

■交流センター

□青少年支援事業

・学習マイプラン（学習支援）：毎週火曜日、年間53回、参加者延べ253人

□活動成果交流事業《2事業》

・青少年ライブ：12/23.3/13、出演18組

・@楽祭（利用者交流発表会）：10/18、出演8団体

□地域交流事業《2事業》

・こどもの日まつり：5/5、参加者416人（ボランティア45人）

・もちつき大会：12/13、参加者73人（ボランティア14人）

□体験交流事業《6事業》

・青少年の表現活動の場づくり「陶芸教室」：7/31.8/4、参加者延べ15人

・社会人仲間作り事業：6/27.7/25.8/29.9/26.2/12.2/6（全6回）、参加者延べ49人

・ふらっととキッズ：4/24.5/22.6/26.7/24.9/25.10/30.11/27.12/18.1/22.2/26（全10回）
参加者延べ308人

・料理教室：7/27、参加者10人

・木工教室：8/6、参加者9人

・音作り講習会：8/3.11/7、参加者12人

■研修センター

□市民活動団体と協働した体験プログラムの実施《4事業》

・オールクリーン野島ビーチ：7/14.9/26.11/7.2/27、参加者延べ241人

・防災イベント：11/14～15（1泊2日）、参加者22人

・野島カヌー体験教室：5/9.23.6/6、参加者延べ45人

- ・自然体験キャンプ（全3回）：7/4～5.8/29～30.10/3～4、参加者延べ115人
- 困難を抱える青少年のための体験活動支援《3事業》
 - ・ハートフルスペース宿泊体験：9/24.11/26～27、参加者延べ191人
 - ・野島クリスマスキャンプ：12/12～13（1泊2日）、参加者29組、ボランティア34人
 - ・職業体験活動の受入れ、支援機関等の支援：11/16.2/2.10/8～9.11/1.11/7～8、5団体
- ボランティアの養成
 - ボランティア研修会、プログラム支援ボランティア活動、シニアボランティアの活動支援：活動人数延べ229人
- 体験プログラムの提供《全3事業》
 - ・生き物観察等の自然体験プログラムの提供（イカダ作り他）：通年、98団体
 - ・グループワーク等の室内プログラムの提供（クラフト他）：通年、98団体
 - ・食育プログラムの提供（野島カーリー他）：通年、4,502食
- 地域連携事業：災害ボランティアネットワーク等への参加 他

C - II 小学生を育むための放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供する事業【放課後児童育成】

この事業は、小学生に放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供することにより、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。現在、放課後児童育成活動として、放課後キッズクラブを運営し、小学生が集団での遊びや体験活動を通じ、自ら学び育つ機会を提供するため、小学校に在籍するすべての児童を対象とした体験活動を日常的に行っています。

事業の特色としては、横浜市の放課後児童育成施策に基づき設置された、有識者等により構成される「子どもたちの放課後懇話会」の指針に沿って、学校では得られない体験機会の設定、プログラム内容の継続性、子どもたちの成長や発達に応じたプログラム、異年齢児の交流やリーダー養成への取り組み、子どもたちの「食べる力」の育み、土曜日に親子で過ごす機会の提供、大勢のボランティアの協力、市民や企業の協力を大切にす、という8つの視点を持った体験活動を職員が企画・実施しています。実施場所は、主に学校施設を活用していますが、地域の子どもは地域で育てるという意識を啓発し、大人も子どもも一緒に育つ環境を醸成することを目的として近隣の公園や図書館や地区センター等の公営施設を使用し、地域の人たちとともに日祝日を除く毎日活動を行っています。

活動の内容や案内などの資料を職員が毎月作成し、地域にも無料で配布しているほか、対象となる児童すべてに無料配布し広く周知しています。

活動への参加は無料、教材費や交通費等は実費としており、参加しやすい設定にしています。ただし、午後5時以降の夜間利用に関しては横浜市放課後キッズクラブ事業実施要綱に定められた夜間利用料の負担があります。

当事業の財源は、夜間利用料及び横浜市からの補助金で構成されています。

《事業の内容》

■放課後事業課

- 24か所の放課後キッズクラブ運営：各キッズ月平均約1,249人、総計359,841人が利用。在籍児童の50.9%（24か所の平均値）が登録
実施プログラム数：毎月各キッズ平均17.5回、年間総計5,053回（参加者延べ110,395人）
- 会議・スタッフ研修等
 - ・評議会：キッズ毎に年2回開催
 - ・保護者会：キッズ毎に年2回以上開催
 - ・主任会議、指導員会議、スタッフ研修を実施
- 平成28年3月開設2か所（和泉小学校放課後キッズクラブ（泉区）、上寺尾小学校放課後キッズクラブ（鶴見区））に運営法人として選定されました。

《各キッズクラブ概要》

■すすき野小学校キッズクラブ（青葉区）

- 在籍人数：227人
- 登録人数：104人
- 延べ参加児童数：6,674人
- プログラム実施数：246回
- プログラム参加人数：3,843人
- 主なプログラム：コマ・けん玉／ヨット乗船会／スポーツ鬼ごっこ／キッズ菜園 など

■笹野台小学校キッズクラブ（旭区）

- 在籍人数：613人
- 登録人数：352人
- 延べ参加児童数：18,450人
- プログラム実施数：328回
- プログラム参加人数：6,955人
- 主なプログラム：スポーツチャンバラ／ドッジボール／スケート教室／ミサンガ など

■岡村小学校キッズクラブ（磯子区）

- 在籍人数：358人
- 登録人数：200人
- 延べ参加児童数：11,742人
- プログラム実施数：259回
- プログラム参加人数：4,886人
- 主なプログラム：ドッジボール同好会／クラフト／野焼き／親子木工教室 など

■浦島小学校キッズクラブ（神奈川区）

- 在籍人数：442人
- 登録人数：226人
- 延べ参加児童数：13,360人
- プログラム実施数：203回
- プログラム参加人数：3,600人
- 主なプログラム：将棋オセロ／3B体操／スポーツ教室／もしかめ検定／カプラ など

■瀬ヶ崎小学校キッズクラブ（金沢区）

- 在籍人数：418人
- 登録人数：213人
- 延べ参加児童数：10,801人
- プログラム実施数：167回
- プログラム参加人数：2,455人
- 主なプログラム：ドッジボール／瀬ヶ崎探検隊／卓球／ベーゴマ／3B体操 など

■能見台小学校キッズクラブ（金沢区）

- 在籍人数：504人
- 登録人数：308人
- 延べ参加児童数：13,261人
- プログラム実施数：244回
- プログラム参加人数：3,746人
- 主なプログラム：サッカー教室／チャレンジデー／オセロ大会／アロマ教室 など

■港南台第三小学校キッズクラブ（港南区）

- 在籍人数：283人
- 登録人数：181人
- 延べ参加児童数：11,803人
- プログラム実施数：206回

- プログラム参加人数：3,965人
- 主なプログラム：キッズバザール／キャンドルづくり／デコパージュ／囲碁 など
- 日吉南小学校キッズクラブ（港北区）
 - 在籍人数：818人
 - 登録人数：382人
 - 延べ参加児童数：19,433人
 - プログラム実施数：192回
 - プログラム参加人数：4,857人
 - 主なプログラム：プラバン／ドッジボール／公園へ行こう／マジックショー など
- 飯島小学校キッズクラブ（栄区）
 - 在籍人数：649人
 - 登録人数：325人
 - 延べ参加児童数：14,729人
 - プログラム実施数：404回
 - プログラム参加人数：5,308人
 - 主なプログラム：プラバン／プチBBQ／粘土工作／ミニミニ運動会／野球教室 など
- 桜井小学校キッズクラブ（栄区）
 - 在籍人数：344人
 - 登録人数：253人
 - 延べ参加児童数：14,805人
 - プログラム実施数：185回
 - プログラム参加人数：4,795人
 - 主なプログラム：ドッジボール／プラバン／サッカー教室／手話教室／茶道教室 など
- 瀬谷さくら小学校キッズクラブ（瀬谷区）
 - 在籍人数：437人
 - 登録人数：163人
 - 延べ参加児童数：7,915人
 - プログラム実施数：142回
 - プログラム参加人数：2,774人
 - 主なプログラム：コマまわし記録会／キッズシアター／アイロンビーズ／工作教室 など
- 南瀬谷小学校キッズクラブ（瀬谷区）
 - 在籍人数：847人
 - 登録人数：310人
 - 延べ参加児童数：15,091人
 - プログラム実施数：162回
 - プログラム参加人数：6,923人
 - 主なプログラム：藍染め／仮装パーティー／段ボール迷路／工作工房 など
- 折本小学校キッズクラブ（都筑区）
 - 在籍人数：755人
 - 登録人数：333人
 - 延べ参加児童数：19,035人
 - プログラム実施数：246回
 - プログラム参加人数：3,777人
 - 主なプログラム：ドッジボール／スポーツチャンバラ／和菓子作り体験 など
- 寺尾小学校キッズクラブ（鶴見区）
 - 在籍人数：678人
 - 登録人数：363人
 - 延べ参加児童数：16,794人

- プログラム実施数：219回
- プログラム参加人数：6,097人
- 主なプログラム：クライミング体験／トスベース／親子焼き芋体験／茶道 など
- 秋葉小学校キッズクラブ（戸塚区）
 - 在籍人数：679人
 - 登録人数：450人
 - 延べ参加児童数：21,236人
 - プログラム実施数：299回
 - プログラム参加人数：7,355人
 - 主なプログラム：スポーツチャンバラ／バドミントン／ドッジボール／大縄跳び など
- 上矢部小学校キッズクラブ（戸塚区）
 - 在籍人数：711人
 - 登録人数：392人
 - 延べ参加児童数：19,701人
 - プログラム実施数：165回
 - プログラム参加人数：5,161人
 - 主なプログラム：ドッジボール／アイロンビーズ／写し絵／夏野菜の収穫体験 など
- 名瀬小学校キッズクラブ（戸塚区）
 - 在籍人数：540人
 - 登録人数：372人
 - 延べ参加児童数：17,998人
 - プログラム実施数：197回
 - プログラム参加人数：7,251人
 - 主なプログラム：茶道／ドッジボール／サッカー／バドミントン／おやつ工房 など
- 本町小学校キッズクラブ（中区）
 - 在籍人数：689人
 - 登録人数：302人
 - 延べ参加児童数：18,086人
 - プログラム実施数：152回
 - プログラム参加人数：2,771人
 - 主なプログラム：クワガタ研究会／ドッジボール／ボードゲーム道場 など
- 宮谷小学校キッズクラブ（西区）
 - 在籍人数：913人
 - 登録人数：424人
 - 延べ参加児童数：22,158人
 - プログラム実施数：204回
 - プログラム参加人数：5,752人
 - 主なプログラム：横浜FCと遊ぼう／カプラで遊ぼう／ミュージックスクール など
- 十日市場小学校（緑区）
 - 在籍人数：692人
 - 登録人数：313人
 - 延べ参加児童数：19,395人
 - プログラム実施数：65回
 - プログラム参加人数：2,065人
 - 主なプログラム：工作教室／プロレスラーと遊ぼう／横浜FCと遊ぼう／ぬり絵 など
- 長津田小学校キッズクラブ（緑区）
 - 在籍人数：735人
 - 登録人数：359人

- 延べ参加児童数：18,414人
- プログラム実施数：219回
- プログラム参加人数：6,281人
- 主なプログラム：野球教室／ドッジボール／紙芝居／キッズキッチン など
- 太田小学校キッズクラブ（南区）
 - 在籍人数：276人
 - 登録人数：178人
 - 延べ参加児童数：10,825人
 - プログラム実施数：175回
 - プログラム参加人数：3,471人
 - 主なプログラム：壁画プロジェクト／風船バレー／バドミントン／ドッジボール など
- 永田小学校キッズクラブ（南区）
 - 在籍人数：528人
 - 登録人数：244人
 - 延べ参加児童数：13,204人
 - プログラム実施数：172回
 - プログラム参加人数：3,144人
 - 主なプログラム：ランドゴルフ／ドッジボール／手芸・工芸教室／おやつ工房 など
- 南小学校キッズクラブ（南区）
 - 在籍人数：475人
 - 登録人数：177人
 - 延べ参加児童数：4,931人
 - プログラム実施数：202回
 - プログラム参加人数：3,163人
 - 主なプログラム：読み聞かせ／囲碁指導／クラフト／ドッジボール／ラジオ体操 など
- 和泉小学校キッズクラブ（泉区※新規）
 - 在籍人数：340人
 - 登録人数：87人
 - 延べ参加児童数：471人
- 上寺尾小学校キッズクラブ（鶴見区※新規）
 - 在籍人数：584人
 - 登録人数：314人
 - 延べ参加児童数：1,051人
 - プログラム実施数：14回
 - プログラム参加人数：246人
 - 主なプログラム：フラダンス／ビーズ教室／ドッジボールクラブ／プラバン など

〔2〕事業の公益性について

定款（法人の事業又は目的）上の根拠	第4条第1項第1号、第2号、第3号
事業の種類 （別表の号）	（本事業が、左欄に記載した事業の種類に該当すると考えられる理由を記載してください）
7	この事業は、すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長していくことができる社会を醸成するとともに、青少年育成活動への相談・助言・コーディネート及び青少年育成活動のための情報収集、青少年や青少年育成活動を支える人材育成のための講座・研修、青少年に体験機会を提供するための事業を実施するものであり、さまざまな体験を通じ青少年が自ら学び育つ機会を提供することにより、未来を担う青少年の成長に寄与することを目的としているため、「児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業」であると考えます。
（本事業が不特定多数の者の利益の増進に寄与すると言える事実を記載してください。）	
チェックポイント事業区分	チェックポイントに該当する旨の説明
<p>（11）施設の貸与 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該施設の貸与が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》公益目的での貸与は、公益目的以外の貸与より優先して先行予約を受け付けるなどの優遇をしているか。</p>	<p>A - I 青少年活動を支援するための青少年施設の貸出</p> <p>《1》この事業は、青少年の育成活動を展開する場の提供を行う事業です。青少年育成活動に精通した職員により実施される活動に対する安全の確保、活動の効果をより高めるための情報提供、活動の運営補助等の支援を行うことにより青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することを目的として位置付け、ホームページにおいて施設ごとに専用ページを設置して施設の特徴や利用方法等を広く公開しています。</p> <p>《2》青少年及びその指導者・育成者が実施する青少年育成活動のための施設貸与は、一般の予約よりも優先されており、また利用料も優遇しています。その情報はホームページにより公開しています。</p>
<p>（5）相談、助言 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該相談、助言が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》当該相談、助言を利用できる機会が一般に開かれているか。</p> <p>《3》当該相談、助言には専門家が適切に関与しているか。（例：助言者の資格要件を定めて公開している）</p>	<p>A - II 青少年活動を支援するための相談・助言・コーディネート【相談事業】</p> <p>《1》青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成を目的とした事業で、その内容はパンフレット、ホームページで広く一般に公開しています。</p> <p>《2》この事業はすべての人を対象としており、相談、助言の受付時間、申込方法等はパンフレット及びホームページにより公開され、利用できる機会は一般に開かれています。</p> <p>《3》相談・助言は青少年活動に精通した職員が行っており、常に新聞や関係機関情報誌等により情報収集を行っています。ま</p>

	<p>た、職員はユースアドバイザー研修、県リードアップセミナー、個人情報保護に関する研修、児童の人権に関する研修を受講し、この事業に必要な専門性を維持しています。</p>
<p>(5) 相談、助言 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該相談、助言が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》当該相談、助言を利用できる機会が一般に開かれているか。</p> <p>《3》当該相談、助言には専門家が適切に関与しているか。(例：助言者の資格要件を定めて公開している)</p>	<p>A - III 青少年活動を支援するための活動参加型の相談・コーディネート</p> <p>《1》青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成を図るため、横浜市内で実施された青少年育成活動を継続及び充実していくための支援を目的としています。実施した内容を取りまとめた資料は希望者に無料配布し、また、ホームページに概要を掲載し公開しています。</p> <p>《2》この事業は横浜市で実施されている活動に参加した人すべてを対象としており、パンフレット、ホームページ、窓口で案内しています。</p> <p>《3》相談・助言は青少年活動に精通した職員が行っており、常に新聞や関係機関情報誌等により情報収集を行っています。また、職員はユースアドバイザー研修、県リードアップセミナー、個人情報保護に関する研修、児童の人権に関する研修を受講し、この事業に必要な専門性を維持しています。</p>
<p>(6) 調査、資料収集 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該調査、資料収集が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》当該調査、資料収集の名称や結果を公表していなかったり、内容についての外部からの問合せに答えないというようなことはないか。</p> <p>《3》当該調査、資料収集に専門家が適切に関与しているか。</p> <p>《4》当該法人が外部に委託する場合、そのすべてを他者に行わせること(いわゆる丸投げ)はないか。</p>	<p>A - IV 青少年育成に活用できる活動資源(NPOや企業CSR等の活動)の調査</p> <p>《1》青少年育成活動を推進するために、青少年を対象とした体験活動のためのリソースとしてプログラムや人材、活動の場等を調査し、より効果的な活動を企画・実施するために有効な情報及び活動実施内容を提供することを目的とし、報告書及びホームページにて明らかにしています。</p> <p>《2》当該調査、資料収集の結果を「横浜ユースマップ」や「活動レポート」としてホームページに掲載しています。また、提供した情報の問合せ先をホームページに掲載し、問い合わせには職員が対応しています。</p> <p>《3》当該事業の企画・構成・運営に関する仕様書は職員が横浜市と協議の上作成し、調査業務は職員と調査業務に必要な専門性のある団体に委託しているため、専門家が適切に関与しています。</p> <p>《4》報告書作成に関する仕様は当法人が作成し、調査結果をもとに分析・とりまとめ</p>

	<p>まで実施しているため、主たる事業は当法人が行っております。</p>
<p>(3) 講座、セミナー、育成 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該講座、セミナー、育成（以下「講座等」）が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》当該講座等を受講する機会が、一般に開かれているか。</p> <p>《3》当該講座等及び専門的知識・技能等の確認行為（受講者が一定のレベルに達したかについて必要に応じて行う行為）に当たって、専門家が適切に関与しているか。</p> <p>《4》講師等に対して過大な報酬が支払われることになっていないか。</p>	<p>B - I 青少年を支える人材を育成するための講座・研修</p> <p>《1》この事業は、青少年及び青少年育成に関する知識の理解を深めることにより青少年育成活動の普及を促進することを目的に、青少年を取り巻くすべての人を対象に実施しており、ホームページにて明らかにしています。</p> <p>《2》講座ごとに、ホームページ、チラシ、横浜市広報に募集要項を掲載し、すべての人が参加可能であり、参加の機会が開かれています。</p> <p>《3》他の育成活動を実施する中で収集した課題等から、職員が青少年育成に必要なテーマを検討し、年間プログラムを決定しています。また、講師はテーマに応じて、職員及び専門機関の支援が必要な場合は外部に依頼しています。</p> <p>《4》講師の報酬は1,000円～70,000円の範囲と定められており、過大な報酬は支払っていません。</p>
<p>(4) 体験活動等 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該体験活動等が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》公益目的として設定されたテーマを実現するためのプログラムになっているか。 (例: テーマで謳っている公益目的と異なり、業界団体の販売促進や共同宣伝になっていないか)</p> <p>《3》体験活動に専門家が適切に関与しているか。</p>	<p>C - I すべての青少年を育むための多様な体験事業</p> <p>《1》この事業は、青少年に多様な体験機会を提供することにより、青少年を健全に育成することを目的とした事業で、すべての青少年を対象に実施しており、ホームページ、事業チラシ、広報等で明らかにしています。</p> <p>《2》青少年が体験を通じて、自ら感じ考えることで学び育っていくことができる集団での活動体験を、横浜市内の自然環境や青少年施設、野外活動施設等を活用し実施しています。</p> <p>《3》体験活動の企画・実施は職員が行っており、専門機関の支援が必要な場合は外部に依頼し、実行委員会等を組織し活動を行っています。</p>
<p>(4) 体験活動等 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該体験活動等が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》公益目的として設定されたテーマを</p>	<p>C - II 小学生を育むための放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供する事業【放課後児童育成】</p> <p>《1》この事業は、小学生に放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供することにより、青少年を健全に育成することを目的とした事業で、小学校に在籍するすべての児童を対象に実施しており、活動内容や案</p>

<p>現するためのプログラムになっているか。 (例: テーマで謳っている公益目的と異なり、業界団体の販売促進や共同宣伝になっていないか) 《3》体験活動に専門家が適切に関与しているか。</p>	<p>内資料を毎月作成し、すべての児童及び地域に無料配布し、明らかにしています。学校区に住むすべての人に周知しともに活動してもらうことで、地域の人子どもを守り育てていくことができる環境の醸成もあわせて行っています。 《2》横浜市の放課後児童育成施策に基づき有識者等により構成する「子どもたちの放課後談話会」からの指針に沿った体験活動を、学校施設及び近隣の公園並びに公営施設等で実施しています。 《3》体験活動の企画・実施は職員が行っています。</p>
--	---

収益事業について

事業番号	事業の内容	定款（法人の事業又は目的）上の根拠
収 1	すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長することができる社会を醸成するとともに、青少年にさまざまな体験機会を提供し、その成長を促すという公益目的事業を達成するために実施する収益事業	第 4 条第 1 項第 4 号
事業の概要		
<p>1 爆笑！濱っ子寄席（寄附金募集事業）</p> <p>この事業は、すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長することができる社会を醸成するとともに、青少年にさまざまな体験機会を提供して、その成長を促すための事業として、広く市民に周知し、理解を深めることを目的に落語会を実施しています。具体的には関内ホールにて年 1 回の落語会を開催し、パンフレット等により青少年育成活動を紹介するとともに、その収益を一般寄附金として青少年育成活動（公益目的事業）の資金として活用しています。更に、横浜市内の企業の社会貢献活動の一環として、パンフレットに協賛広告（有料）を掲載しています。</p> <p>事業の内容については、青少年育成活動に理解のある各種企業の代表者による実行委員会形式により企画・運営並びに協賛企業探し、チケット販売までのすべてを職員とともに実施しています。</p> <p>また、出演者の交渉から演目までを、中心となる落語家の協力により、実行委員会と検討しながら進めています。</p> <p>なお、出演する落語家も青少年育成の趣旨に賛同いただき、チャリティーとして通常より低価格にて出演していただいています。チケット代金及び企業の協賛広告収入は、出演料、会場借上げ料、パンフレットやチケットの印刷代等として支出しています。</p> <p>■第 55 回爆笑！濱っ子寄席</p> <p><input type="checkbox"/>日時：11/13</p> <p><input type="checkbox"/>会場：関内ホール・大ホール</p> <p><input type="checkbox"/>入場者：787 人</p> <p><input type="checkbox"/>出演者：柳家さん光、ぴろき、三遊亭歌之介、ケーシー高峰、柳家喬太郎、柳家権太楼</p> <p><input type="checkbox"/>実行委員会：全 4 回</p>		
本事業を反復継続して行うのに最低限必要となる許認可等について		
許認可等の名称	-	
根拠法令	-	
許認可等行政機関	-	
本事業の利益の額が 0 円以下である場合の理由又は今後の改善方策について		
-		

公益財団法人よこはまコース 事業・組織体系図

【施設区分】

【定款事業区分】

【事業の柱】【公益目的事業区分】

【事業名】

